

「次世代育成」に関する アンケート調査報告書



2019年6月

JEA 宣教委員会
宣教研究部門

目 次

| | |
|---|----|
| 1. アンケート調査の趣旨 | 2 |
| 2. 関連要因 | 2 |
| 3. アンケート調査の実施 | 3 |
| 4. アンケートの集計結果 | 3 |
| 4.1 教団・教派の取組み状況の調査 | 3 |
| 4.1.1 回答のあった教団の概要 | 3 |
| 4.1.2 教団・教派アンケートの回答 | 4 |
| 4.2 各地域教会の取組み状況の調査 | 15 |
| 4.2.1 回答のあった教会の概要 | 16 |
| 4.2.2 「次世代育成」についてのアンケートの回答 | 20 |
| 4.2.3 次世代の「結婚、家族について」のアンケートの回答 | 31 |
| 4.2.4 教会アンケートのまとめ | 41 |
| 4.3 宣教団体の取組み状況の調査 | 43 |
| 4.3.1 回答のあった宣教団体の概要 | 43 |
| 4.3.2 宣教団体アンケートの回答 | 43 |
| 4.4 キリスト教学校の取組み状況の調査 | 54 |
| 4.4.1 回答のあったキリスト教学校の概要 | 55 |
| 4.4.2 キリスト教学校アンケートの回答 | 57 |
| 5. 総括・まとめ | 64 |
| | |
| 【付属資料】 | 65 |
| 1 各教団の取り組み事例 | 65 |
| 1.1 日本ホーリネス教団 | 65 |
| 1.2 日本同盟基督教団 | 70 |
| 1.3 東京フリーメソジスト教団 | 72 |
| 1.4 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 | 75 |
| 1.5 日本フォースクエア福音教団 | 76 |
| 1.6 日本キリスト合同教会 | 79 |
| 1.7 日本イエス・キリト教団 九州教区 | 80 |
| 2. 「次世代育成」に対して特に注目される教会の取り組み例 | 82 |
| 2.1 キリスト兄弟団三ツ境キリスト教会 | 82 |
| 2.2 日本キリスト合同教会屋代教会 | 83 |
| 2.3 チャーチ・オブ・ゴッド川崎キリスト教会 | 84 |
| 2.4 シオン・キリスト教団蒲田教会 | 86 |
| 3. 提言 | 88 |
| 3.1 保守バプテスト同盟「次世代育成アンケート結果 2017」からの提言 | 88 |

1. アンケート調査の趣旨

現在、日本のキリスト教会全体の教勢は、「少子・高齢化社会」の到来とともに、キリスト教会の伝道力（受洗者を産み出す力）の低下が相俟って、クリスチャン人口が自然減に陥る危機的な状況に陥っているのが現状である。

また、青年層の減少も顕著に現れており、日本のキリスト教会の将来を見た時、次の世代に信仰を継承していくための「次世代育成」が喫緊の課題となっている。

そこで、「次世代育成」に関して、「次世代育成」に関わる教団・教派、教会、宣教団体及びキリスト教学校等における取組み状況や現状の課題を洗い出しつつ、日本の教会全体に対する有効な宣教方策の策定を行う上に必要な、「次世代育成」についての現状調査を行う。

2. 関連要因

「次世代育成」（特に子どもや青年を中心として）に関わる要因としては、図1のように表すことができる。

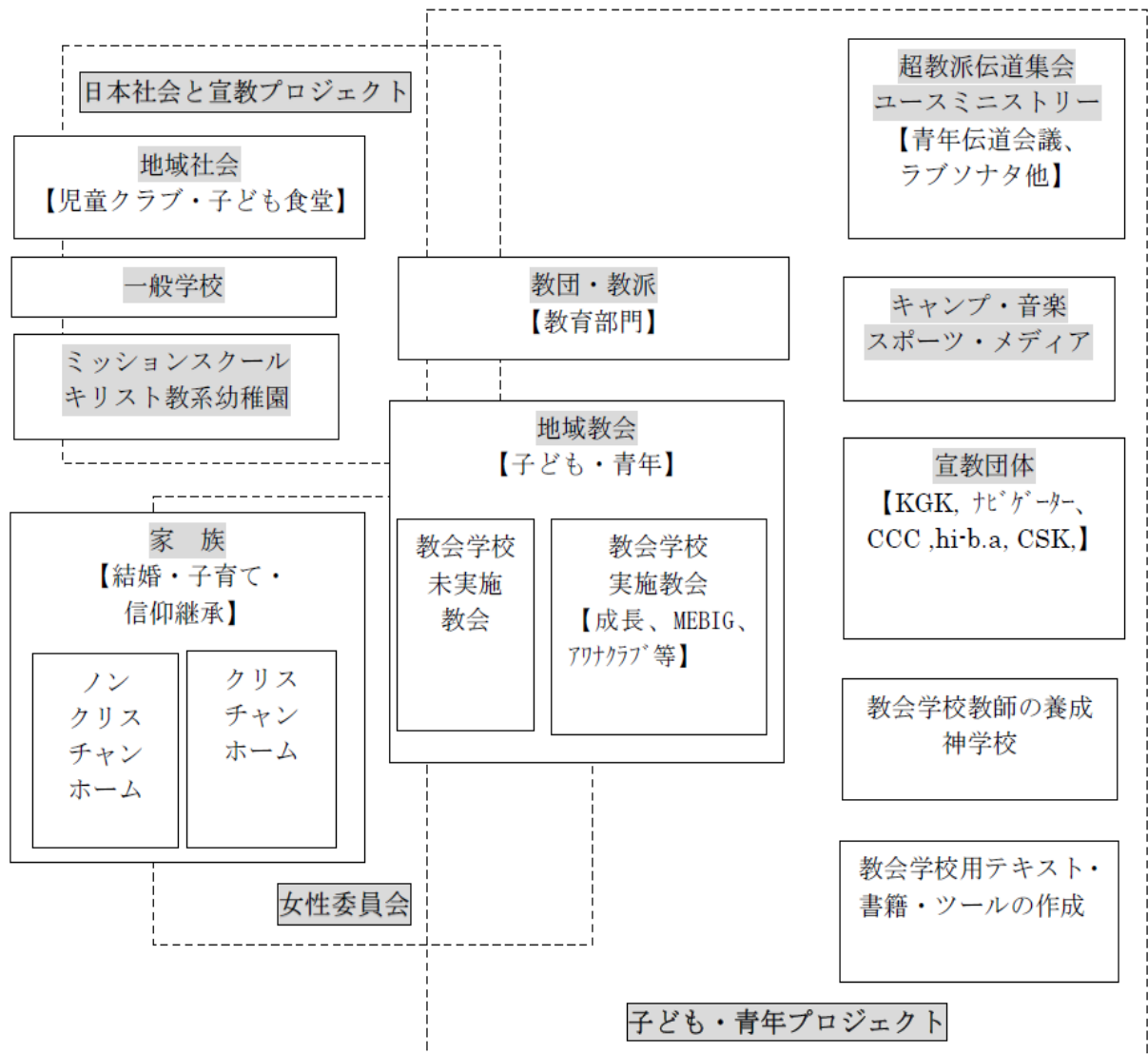


図 1 「次世代育成」関連要因図

3. アンケート調査の実施

次のような対象に対して、それぞれの取り組み状況や現状の課題を調査するためのアンケート調査を実施した。

- (1) 教団・教派の取り組み状況の調査
- (2) 各地域教会の取り組み状況の調査（成功している教会の事例紹介等含む）
- (3) 各宣教団体の取り組み状況の調査
- (4) キリスト教系学校の取り組み状況の調査

4. アンケートの集計結果

4.1 教団・教派の取り組み状況の調査

- (1) 実施期間：2018年5月～11月
- (2) 調査対象：JEA加盟教団
- (3) 回答数：アンケート発送数：46教団、有効回答数：29教団（1教会含む）、回収率：63.0%
- (4) 回答教団：

| | |
|-------------------|------------------------|
| 1 友愛グループ教会連合 | 16 日本キリスト合同教会 |
| 2 保守バプテスト同盟 | 17 日本フォースクエア福音教団 |
| 3 日本ホーリネス教団 | 18 イムマヌエル総合伝道団 |
| 4 日本同盟基督教団 | 19 東京フリーメソジスト教団 |
| 5 日本福音キリスト教会連合 | 20 日本伝道福音教団 |
| 6 同盟福音基督教会 | 21 日本イエスキリスト教団 |
| 7 日本ルーテル同胞教団 | 22 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 |
| 8 福音伝道教団 | 23 日本伝道隊 |
| 9 基督兄弟団 | 24 日本アドベントキリスト教団 |
| 10 札幌キリスト福音館* | 25 救世軍 |
| 11 活けるキリスト一麦の群 | 26 ウェスレアン・ホーリネス教団 |
| 12 日本メノナイトブレザレン教団 | 27 チャーチ・オブ・ゴッド |
| 13 福音交友会 | 28 シオン・キリスト教団 |
| 14 日本バプテスト教会連合 | 29 日本フリーメソジスト教団 |
| 15 基督聖協団 | |

*札幌キリスト福音館は、単独加盟の教会

4.1.1 回答のあった教団の概要

アンケートに回答していただいた教団は、JEA加盟教団46教団の内29教団（1教会含む）で、回収率としては63%であった。

しかし、回答していただいた教団は、どちらかと言えば所属教会数の多い教団が多く、教会数や教会員数で見れば、JEA加盟教団の約85%をカバーしているので、アンケートの回答は、JEA加盟教団の全体的な傾向を表していると見て差支えないように思われる。

所属教会数の多い教団で、回答をいただけなかった教団は、日本福音自由教会協議会、日本長老教会、聖書キリスト教会、日本キリスト宣教団、日本聖契キリスト教団等である。

4.1.2 教団・教派アンケートの回答

<アンケートの設問と回答>

1. 貴教団・教派では、自教団・教派における「次世代育成」の必要性を、どのように認識されていますか？

- ・ 回答数としては、図 2 に示すように、③の回答が最も多いが、複数回答のパターンとしては、②、③を同時に選択するパターンが最も多く、全体の 60% を超えている。また、①～④全てを選択した教団が 20%、①の回答をした教団が 45% であることから、各教団の「次世代育成」の危機意識の強さが伺える。

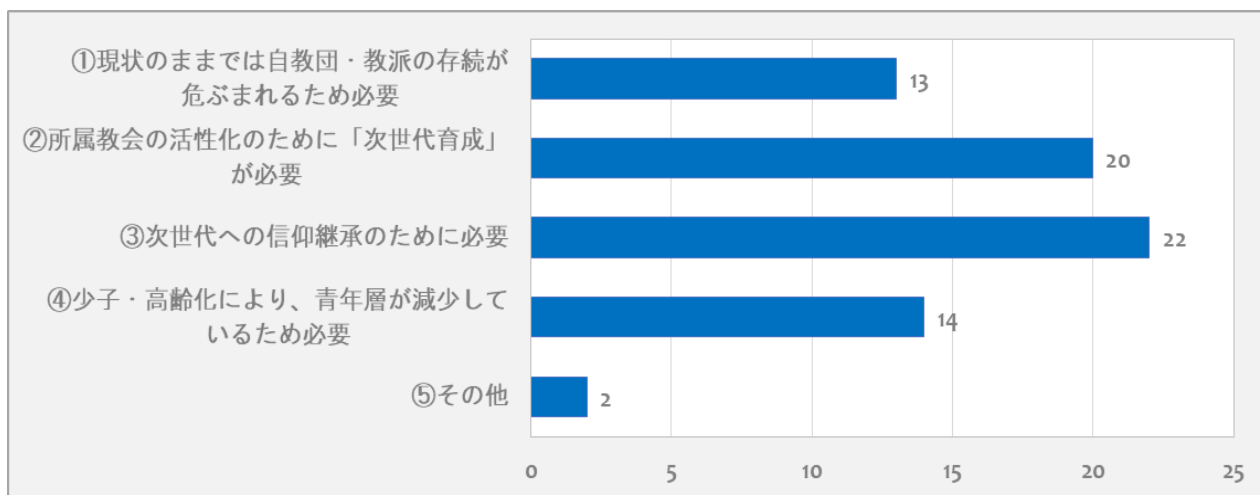


図 2 「次世代育成」の必要性を、どのように認識しているか？

2. 貴教団・教派では、次世代についてどのような課題をお持ちですか？

- ・ 図 3 に示すように、課題の①よりも、②の回答がやや上回っている。ここには、次世代がいないことも課題ではあるが、それ以上に必要な人材や体制が整っていないという、各教団のもどかしさが表れているように思われる。それは、①～⑥の回答の内、4 つ以上の複数回答をした教団が 31% であることにも表れている。

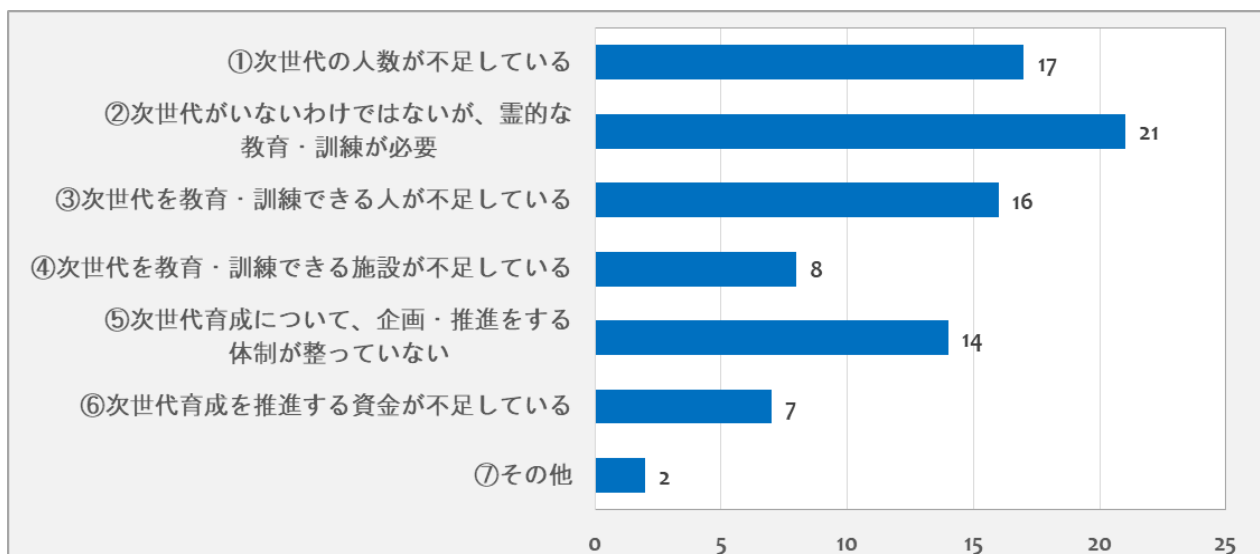


図 3 次世代について、どのような課題を持っているか？

3.貴教団・教派で、次世代育成についてどのような取り組みをしていますか（計画を含む）？ 具体的な取り組みを、別表1に列挙してください。

・図4に示すように、A～Eの分類に分けた取り組み状況としては、圧倒的にAのユース向けのイベント、キャンプ、宣教大会に対する取り組みが多く、各教団とも積極的に取り組んでいるのが分かる。

それに対して、B～Eの分類に属する取り組み、特に結婚やクリスチャンホーム建設等に対するサポート、或いは親に対するサポート、教育等に取り組んでいる教団は、まだ少ないのが実状である。

しかしその一方で、教団内に「次世代育成」のプロジェクトや専門的な委員会等を設置して、教団全体として取り組んでいる教団もある。

このような教団としての取り組み状況の差は、教団間の経済的、体制的な格差も大きく影響していると言えるのではないかと思う。

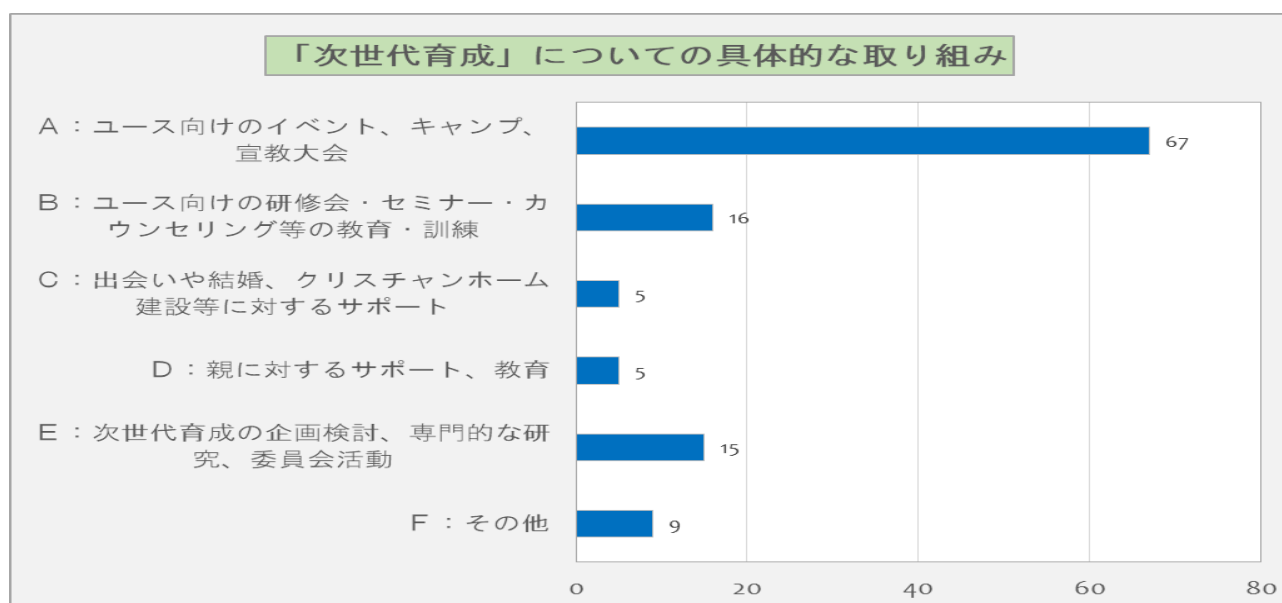


図 4 次世代育成についてどのような取り組みをしているか？

(1)ユース向けのイベント、キャンプ、宣教大会

・表1から分かるように、ユース向けのイベント、キャンプとしては、各教団ともほとんどが中高生や大学・青年を対象としたものに集中している。

教団主催の小学生を対象としたキャンプは、どちらかと言えばそれなりのキャンプ場を有している教団において行われている。

表 1 「次世代育成」に関する取組み
【A：ユース向けのイベント、キャンプ、宣教大会】

| NO. | 教団名 | 具体的な取り組み名 | 開催時期・頻度 | 開催場所 | 対象者 | 小学生 | 中学生 | 高校生 | 大学・青年 | 30代 | ファミリー |
|-----|--------------|--|--|--|---|-----|-----|-----|-------|-----|-------|
| 2 | 保守バプテテスト同盟 | 地域や教会ごとのユースキャンプの実施 キャンプ場主催のユースキャンプの実施 | | シオン鶯秋湖（保守バプテテスト同盟所屬キャンプ場） シオン鶯秋湖（保守バプテテスト同盟所屬キャンプ場） | | | | | | | |
| 3 | 日本ホーリーネス教団 | ユースジャム 中学生キャンプ、青年キャンプ、ファミリーキャンプ、春キャンプ、世界ホーリーネス連盟青年大会 | 4年に1度 初めの4つは毎年1回、世界ホーリーネス連盟青年大会は3年に1回 | 東京 滋賀、栃木、神奈川、東京、韓国 | 中学生～39歳 中学生、学生青年、家族、中学生～39歳、学生青年 | | | | | | |
| 4 | 日本同盟基督教団 | フロンティア青年宣教大会 DSイベント D+MS.05S Camp（青年部主催青年キャンプ） キャンプ | 3年に1回 年3回程度 年1回 年1回 | 松原湖バイブルキャンプ場、オリオンピクセンター 教会他 | 中学生から青年層 高校生～30代 | | | | | | |
| 5 | 日本福音キリスト教会連合 | ①全国青年大会（仮） ②JEOAフェス（信徒大会） ③JEOA青年の集い キャンプ コンサート | 2021年 2019年10月 2019年3月 夏休み 春 | 未定（リサーチ中） ホテル竹島（愛知県） お茶の水クリスチアンセンター 教会 教会 | 19～39歳or高校生～39歳 フェス自体は信徒全般。青年の部は19～39歳 青年、ユース（関東4地区の有志） 15歳以下 中学生 | | | | | | |
| 6 | 同盟福音基督教会 | 教団内の若者たちによる青年宣教部のはたらき | 年に数回 | 各教会の持ち回り | 各教会の青年たち | | | | | | |
| 8 | 福音伝道教団 | バイブルキャンプ ユースウェーブ M-J | 8月開催/年1回 ミニ集会・年2回/大会は2019年に開催予定 | 恵みシャレー鞋井沢 ミニ集会は地域教会/大会は一般施設 | 小学生、中学生、大学青年、ファミリー 中学生、大学青年 | | | | | | |
| 9 | 基督兄弟団 | ユースデイズ 青年全国大会 | 春季全国大会時 4年に1度 | 聖書学院 キャンプ場 | 青年 青年、中学生 | | | | | | |
| 10 | 札幌キリスト福音館 | ユースキャンプ | 毎年2回 | 市内の青少年の家 | 中学生から20代 | | | | | | |
| 11 | 活けるキリスト夫妻の群 | 中高科キャンプ ユースキャンプ | 毎年夏ごろ 毎年秋ごろ | 一般のキャンプ施設 関西圏のユースホステル | 中学生 大学生以上40歳ぐらいまでの青年男女 | | | | | | |
| 12 | 日本メソヂスト教会連合 | 小学上級・中学・高校・青年・青年社会人キャンプ・青年スノーキャンプ | 小学上級は夏、中学高校は春、青年は夏、青年社会人は秋、スノーキャンプは冬 | 能勢川バイブルキャンプ場、大阪府少年自然の家 | | | | | | | |
| 13 | 福音交友会 | ティーンズ・バイブルキャンプ（3泊4日） ティーンズ新年会（日帰り） プチティーンズ（日帰り） | 夏と春の2回 冬1回 春1回 | 関西近郊のキャンプ場 福音交友会の教会 福音交友会の教会 | 中学生 中学生 中学生 | | | | | | |
| 14 | 日本バプテテスト教会連合 | 地区別の青年集会 中学生対象キャンプ 小学生対象キャンプ | 年1回 or 2回 年1回、8月 年1回、7月 | 東京、大阪 鞋井沢 千葉 | 中・高・大学生 中学生 小学生 | | | | | | |
| 15 | 基督聖協団 | 青年対象キャンプ | 年1回、2月 | 関東近辺 | 青年 | | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|----|-------------------------|---|---|--|--|---|---|---|---|
| 16 | 日本キリスト合同教会 | 中高生キャンプ | 年1回、3月 | 教会 | 中高生 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 17 | 日本フォースウェア福音 教団 | 中高生キャンプ 東日本教区キャンプ | 時々、夏 年1回 8月 | 教会 松原村 | 中高生 子供～大人 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 18 | イムマヌエル綜合伝道団 | YSBトリート 全国YS(ユース・ステーション) とにキャン | 年に1度、11月 2-3年に1度、8月 年に1度、8月 | その都度検討 その都度検討 聖山高原チャペル | 30-40代 大学生～39歳 中高生 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 19 | 東京フリーメソジスト教団 | 東北ユースキャンプ 静岡青年大会 関西ユース・ステーション 九州青年大会 東関東青年の交わり会 青年キャンプ(FMYC) 賛美集会(ブレイズジャム) FMティーンキャンプ(中高生キャンプ) FMTCの再開集会) | 年に1度 年に1度 2-3年に1度 年に1度、9月 年に1度 年1回、5月GW 年1回 | 仙台 静岡 関西 別府・福岡 市川 赤城バイブルキャンプ場 教団の教会 | 中高・青年 青年 青年 青年 青年 大学生・青年 中学生～青年 中高生・大学生 中高生 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 20 | 日本伝道福音教団 | FMキッズフェスタ 賛美集会 地区別青年会 P.K. キャンプ | 年1回 毎年秋 年3～4回 年1回年末 | みなかみバイブルホーム 教団の教会 教団の教会 市民ホール 各教会 キャンプ場 | 幼児・小学生 主に青年 青年 牧師、子弟 青年 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 21 | 日本イエスキリスト教団 | 宣教大会の開催 教会訪問 | 3回 年1～3回 | 福島、滋賀(複数会場をネット 結んでの開催も) 全国各地 | 青年有志(少人数) 青年 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 22 | 日本アッセンブリーズ ・オブ・ゴッド教団 | 全国ユースキャンプ 北陸ブレイズ 全国青年大会 | 2018年初開催 年1回9月(3年計画最終年) 約3年に1回 | 沖繩(2018年) 石川県 仙台(2017年) | 全国中高生～青年 北陸教区教職、中高生～大人 全国中高生～青年 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 23 | 日本伝道隊 | YPキャンプ 教団ジュニア・キャンプ | 年に一度 少のため中止 今年参加者減 春休み・3月 年1回 | キャンプ場など 決まっていないが、ここ数年は 山バイブルキャンプ | 小学生から青年まで 中高生(小学校5～6年生から受け入 れている) | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 24 | 日本アドベントキリスト 教団 | アドベント・ミュージック・フェスティバル 教団スキー・キャンプ | 毎年1回 6月(時期については 現在再検討中) 年1回 1月 | 関西の諸教会 兵庫県・長野県などのスキー場 | 特に決まっていないが、一般にユース と言われる人々を中心。 特に決まっていないが、学生から若い カップルくらいが主たる対象 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 25 | 救世軍 | 青年デー ユース・キャンプ | 5月連休内・年1回 8月初め・年1回 | 各地区 各地区(北海道、関東東北、東京) | 15歳から40歳 15歳から40歳 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 26 | ウエスレアン・ホーリネス 教団 | ユース・カンファレンス 全国青年大会 | 年1回3月 4年に1回、夏 年に二度。夏と春。 | 都内の教会 宿泊可能な施設、教会 夏は、茨城県。春は、神奈川県 | 青年一般 青年一般 中高大学生 中高大学生 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 27 | チャーチ・オブ・ゴッド | 合同伝道会 青年キャンプ(2泊3日) ホザナキャンプ(3泊4日) | 毎年秋 年1 年1 | 川崎キリスト教会 奥多摩バイブルシヤレー 信州バイブル | 青年 中高生 青年 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 28 | シオン・キリスト教団 | フラフラ(お泊り会) クラブシオン(賛美集会、レク) 春キャンプ(2泊3日) 青年及びティーンズキャンプ ユースの集い | 月1 年3 年1 主として夏季 春・秋 | 蒲田教会 蒲田・茅ヶ崎・沼津 蒲田教会 施設を利用 教会や施設 施設 | 中高生 中高生 中高生 青年・高校生 中高生 小学生 | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 29 | 日本フリーメソジスト 教団 | 小学生ジョイジョイキャンプ | 隔年の夏 | | | ○ | | | |

(2)ユース向けの研修会・セミナー・カウンセリング等の教育・訓練

・各教団で行われているユース向けの研修会・セミナー・カウンセリング等の取り組みとしては、表2の内容から、①ユース全般に対するセミナー、講演、②イベントのスタッフに対する研修、③次世代のリーダーを養成する教育に大別できる。

ここで、②の事例としては、東京フリーメソジスト教団やシオン・キリスト教団の取り組みが、また、③の事例としては、日本フォースクエア福音教団の「トランスフォーマーセミナー」や「KFBS 関東フォースクエア聖書学校」、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の「ユースリーダーカンファレンス」、ウェスレアン・ホーリネス教団の「青年リーダーズ・ミーティング」等が目される。

表2 「次世代育成」に関する取り組み
【B：ユース向けの研修会・セミナー・カウンセリング等の教育・訓練】

| NO. | 教団名 | 具体的な取り組み名 | 開催時期・頻度 | 開催場所 | 対象者 |
|-----|---------------------|-------------------------|----------------|--------------------------|-------------------------|
| 2 | 保守バプテスト同盟 | 保守バプテスト同盟次世代育成大会「みらい大会」 | 2年に1度夏に開催 | シオン錦秋湖（保守バプテスト同盟所属キャンプ場） | 保守バプテスト同盟に所属する40歳以下の教会員 |
| 8 | 福音伝道教団 | ばいすた | 年1回 | 地域教会 | 大学青年 |
| 12 | 日本メノナイトプレザレン教団 | ユースカンファレンス | 毎年ゴールデンウィークの時期 | 能勢川バイブルキャンプ場・他 | 青年一般 |
| 15 | 基督聖協団 | 牧師子弟補助 | 年1回 | | 18歳まで |
| 17 | 日本フォースクエア福音教団 | トランスフォーマーセミナー | 年1回、4月 | 鶴見、仙台 | 10～20代 |
| | | KFBS関東フォースクエア聖書学校 | 週3回 | 東京 | 次の教役者養成 |
| 18 | イムヌエル総合伝道団 | 全国YS（ユース・ステーション） | 2-3年に1度、8月 | その都度検討 | 大学生～39歳 |
| 19 | 東京フリーメソジスト教団 | 青年聖書 | 年4回 | 教団の教会 | 青年 |
| | | FMTCSスタッフ学び会・研修 | 年2回 | 教団の教会 | 青年・大学生・神学生 |
| | | 中高生に重荷を持つ人のための祈禱会 | 年34回 | 教団の教会 | 対象を問わず |
| 20 | 日本伝道福音教団 | 講演会 | 年1回 | 教会 | 青年以上 |
| 22 | 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 | 全国ユースリーダーカンファレンス | 2年に1回 | 沖縄（2017年） | 全国教職、ユースリーダー |
| 25 | 救世軍 | ユース・ナイトー | 月1回から2回 | 東京都内 | 15歳から40歳 |
| 26 | ウェスレアン・ホーリネス教団 | 青年リーダーズ・ミーティング | 年1回3月 | 都内の教会 | 各教区の青年リーダーたち |
| 27 | チャーチ・オブ・ゴッド | ワーシップセミナー | 年に一度。2月11日。 | 川崎キリスト教会 | ユースを中心とした全世代 |
| 28 | シオン・キリスト教団 | 各キャンプの準備・委員会 | 年数回 | 蒲田教会 | 青年・スタッフ |

(3) 出会いや結婚、クリスチャンホーム建設等に対するサポート、親に対するサポート、教育

- ・表3に示すように、結婚を考える青年向けの出会いの場の提供としては、日本ホーリネス教団、日本同盟基督教団、イマヌエル綜合伝道団等が、それぞれネーミングや趣向を凝らして実施している。

学生や青年向けに恋愛・結婚セミナーや家族セミナー等を実施している教団もあれば、小教理問答、シエマ教育等によって、両親への教育に取り組んでいる教団（日本ルーテル同胞教団、日本イエスキリスト教団）、或いは青年に重荷を持つ人たちの祈り会をもっている教団（東京フリーメソジスト教団）もある。

表3 「次世代育成」に関する取組み
【C：出会いや結婚、クリスチャンホーム建設等に対するサポート、
D：親に対するサポート、教育】

| NO. | 教団名 | 具体的な取り組み名 | 開催時期・頻度 | 開催場所 | 対象者 |
|-----|---------------|------------------------------|-------------|---------------|------------------------------|
| 3 | 日本ホーリネス教団 | MMお茶会 (Meeting for Marriage) | 3回 | 東京、大阪、沖縄 | 25歳～49歳（それぞれのMMお茶会で対象年齢を変える） |
| 4 | 日本同盟基督教団 | DS Com (青年部主催青年+R5:V5交流会) | 3～4か月に一度 | 都心部のレンタルスペース | 青年層 |
| 5 | 日本福音キリスト教会連合 | 結婚・家庭セミナー | 年1回 (成人の日) | 関東地区の教会持ち回り | |
| | | 結婚紹介 (可能者リストの情報共有) | | | |
| 14 | 日本バプテスト教会連合 | 恋愛・結婚セミナー | 年1回 | 東京 | 中・高・大学生 |
| 18 | イマヌエル綜合伝道団 | カナ・フェロシップ | 年に2度、6月・11月 | その都度検討 | 結婚を考える青年 |
| 19 | 東京フリーメソジスト教団 | 家族セミナー | 年2回 | 教団の教会 | 大学生・青年 |
| 7 | 日本ルーテル同胞教団 | 小教理教育 | 毎週 | 各教会 | 両親、及び子どもに対して |
| 10 | 札幌キリスト福音館 | 親の祈り会 | 毎月 | 教会 | 中高生スタッフと中高生の親 |
| 17 | 日本フォースクエア福音教団 | 東日本教区キャンプ | 年1回 8月 | 桧原村 | 子供～大人 |
| 19 | 東京フリーメソジスト教団 | 中高生に重荷を持つ人のための祈祷会 | 年34回 | 教団の教会 | 対象を問わず |
| 21 | 日本イエスキリスト教団 | シエマ教育の紹介 | 適宜 | 韓国でのセミナー参加援助等 | 牧師から親へ |

(4)次世代育成の企画検討、専門的な研究、委員会活動

・表 4 及び次項の表 5 を見る限り、「次世代育成」を教団全体の問題として、プロジェクトや委員会等を立ち上げ、企画の検討や専門的な研究等、積極的に取り組んでいる教団は、日本ホーリネス教団や東京フリーメソジスト教団等があるが、まだ多いとは言えない。

しかし、最近になってプロジェクトや委員会等を立ち上げ、取り組みを開始した教団や取り組みを模索中の教団が起こされているのが伺える。

今後、このような各教団の専門的な研究や取り組みの成果を、各教団間で共有できるようにしていく必要があると思われる。

表 4 「次世代育成」に関する取組み
【E：次世代育成の企画検討、専門的な研究、委員会活動】

| NO. | 教団名 | 具体的な取り組み名 | 開催時期・頻度 | 開催場所 | 対象者 |
|-----|---------------------|-----------------------|----------------|-----------|------------------|
| 2 | 保守バプテスト同盟 | 次世代育成の取り組みに関するアンケート | 2017年度 | インターネット集計 | 主に教職者 |
| 5 | 日本福音キリスト教会連合 | 全国青年委員会(仮)の開催 | 未定 | 未定 | 未定(青年主体で牧師が後方支援) |
| 6 | 同盟福音基督教会 | 教団内の若者たちによる青年宣教部のはたらき | 年に数回 | 各教会の持ち回り | 各教会の青年たち |
| 14 | 日本バプテスト教会連合 | 次世代プロジェクトの立ち上げ | 2018年4月スタート | | |
| 17 | 日本フォースクエア福音教団 | 委員会集まり | 年2~3回 | 東京他 | 牧師 |
| | | KFBS関東フォースクエア聖書学校 | 週3回 | 東京 | 次の教役者養成 |
| 18 | イムmanuel総合伝道団 | スタッフトレーニングキャンプ | 年に1度、3月 | 聖宣神学院 | とにキャンスタッフ(学生) |
| | | キャンプセミナー | 年に1度、7月 | 聖宣神学院 | 誰でも |
| 19 | 東京フリーメソジスト教団 | 牧師会小グループ中高生・青年伝道研究チーム | 年4~5回 | 教団の教会 | 牧師・伝道師 |
| | | 次世代育成ミーティング | 年4~5回 | 教団の教会 | 牧師・伝道師 |
| | | こども委員会 | 年5回 | 教団の教会 | 牧師・伝道師 |
| | | FMティーン委員会 | 年8回 | 教団の教会 | 牧師・伝道師 |
| | | 青年委員会 | 年9回 | 教団の教会 | 牧師・伝道師・信徒 |
| 22 | 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 | 青少年伝道ネットワーク | 年1回 | 教団本部 | 各教区青少年伝道担当教職 |
| | | 全国ユースリーダーカンファレンス | 2年に1回 | 沖縄(2017年) | 全国教職、ユースリーダー |
| | | 北陸プレイズ | 年1回9月(3年計画最終年) | 石川県 | 北陸教区教職、中高生~大人 |

4. 前3項で、「次世代育成の企画検討、専門的な研究、委員会活動」の取り組みをしておられる場合、その企画や研究内容についてお知らせください。

表 5 「次世代育成」に関する企画検討、専門的な研究、委員会活動の取組み

| NO. | 教団名 | 内 容 |
|-----|---------------------|---|
| 2 | 保守バプテスト同盟 | ・まずは次世代育成に関して自らの団体の現状を知らなければいけないと考えて、各教会にアンケートを実施し、結果を小冊子にまとめ、保守バプテスト同盟全体で共有した。 |
| 3 | 日本ホーリネス教団 | ①次世代育成プロジェクト委員会：次世代育成を体系的かつ継続的に考え、進めていく為の働き ②青少年委員会：青少年の育成に継続的かつ体系的に関わる働き ③教会学校研究会、全国CSネットワーク委員会：全国のCSの状況をつかみ、それぞれの教会のCSやCS教師にいろいろなアイデアを提供し、励ましていく働き |
| 6 | 同盟福音基督教会 | ・若者たちが、これからの自分たちの教会や青年宣教について考える |
| 7 | 日本ルーテル同胞教団 | ・小教理教育に力を入れている。小教理問答書の解説本を2017年11月に新たに発行することができた。今後、本書を用いて更に信仰継承を進めていく |
| 13 | 福音交友会 | ・「次世代宣教の理念」の作成と、具体的な次世代宣教の取り組みの模索（コンペの開催を企画） |
| 14 | 日本バプテスト教会連合 | ・「次世代プロジェクトチーム」が、2018年4月から教職者4名で立ち上げられた。継続的、体系的な次世代育成を目指し、今年は現状把握（各教会内の次世代人数、活動）を調査中 |
| 18 | イムヌエル総合伝道団 | ・次世代や教育・訓練できる人材育成のために、キャンプセミナーをhi-b. a. 主事などを講師に招いて開催したり、中高生キャンプ「とにキャン」のスタッフをトレーニングするキャンプを行っている。 |
| 19 | 東京フリーメソジスト教団 | ＜次世代育成の企画・検討＞ ①牧師会のPTも次世代信仰継承を目的として研究グループが定期的に集まり、学びを重ねている。 ②当教団では、こども委員会、中高生（キャンプ）委員会、青年委員会と、3つの次世代向けの委員会があるが、最近この3つの連携を深めるため、担当牧師、伝道師が集まって、研究、実験を重ねている。 |
| 22 | 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 | ①教区間の連携を強化し、青少年伝道に関する取り組みや課題の情報提供、共有。 ②各教会の青少年伝道活性化を図るため、ユースリーダー育成を目的としたカンファランスの開催 ③青少年・青年を対象とした集会を開催（キャンプ・聖会・賛美集会など） |
| 23 | 日本伝道隊 | ・JEBカンファレンスは、今までの信徒大会を変えて、子供や青年も一緒に参加できる集会に変えました。聖歌・讃美歌中心から多くのゴスペルを入れたり、若手の先生が流れを作ってやりましたが、霊的にも燃やされ良いものとなりました。 |
| 24 | 日本アドベントキリスト教団 | ・教団宣教教育担当委員の下でキャンプ委員会が組織され、キャンプスタッフの訓練および育成がなされている |

5. 貴教団・教派では、次世代育成への取り組みを、どのような体制（担当部署、担当者など）、予算規模で行っているかについてお知らせください。（2018年度）
- ・各教団の次世代育成への取り組み体制及び予算規模を、表6に示す。
教団の規模や財政状況、地域性等もあって、一概には比較できないが、総じてそれなりの体制と予算を持って取り組んでいる状況が伺える。

表6 次世代育成への取り組み体制（担当部署、担当者など）及び予算規模

| NO. | 教団名 | 担当部署 | 予算規模 |
|-----|---------------------|--|---|
| 2 | 保守バプテスト同盟 | 教育委員 | 未定だが「次世代育成基金」は130万円ほどの積立がある。 |
| 3 | 日本ホーリネス教団 | 「次世代育成プロジェクト」 （教団委員会直轄） | 500万円 |
| 4 | 日本同盟基督教団 | 青少年局 | 青年部部会費40万円 青年部行事費80万円 （宣教大会支出は除く） |
| 5 | 日本福音キリスト教会連合 | 全国青年大会準備会（仮） | 2019年度活動費20万円 |
| 6 | 同盟福音基督教会 | 青年宣教部 | 500万円 |
| 8 | 福音伝道教団 | ①伝道局 ②教育局 | キャンプ：約80万円 ユース：約9万円 |
| 9 | 基督兄弟団 | 教化育成委員会 | 10万円 |
| 10 | 札幌キリスト福音館 | | 年12万円 |
| 11 | 活けるキリスト—麦の群 | ①ユースキャンプ委員会 ②中高キャンプ委員会 | 10万円の補助 10万円の補助 |
| 12 | 日本メノナイトプレザレン教団 | ①青年委員会 ②教会学校委員会 | 青年委員会（60万円） 教会学校委員会（170万円） |
| 13 | 福音交友会 | 次世代宣教プロジェクト | 今年度は特になし。 |
| 14 | 日本バプテスト教会連合 | 次世代プロジェクトチーム | 10万円 |
| 15 | 基督聖協団 | ①中高生委員会 ②青年委員会 | 特に予算化していない |
| 16 | 日本キリスト合同教会 | YAPP（ユース・アクティビティ・プランニング・プロダクト） | 10万円 |
| 18 | イムヌエル総合伝道団 | 青少年部 | 325万円 |
| 19 | 東京フリーメソジスト教団 | ①こども委員会 ②中高生委員会 ③青年委員会 | 6万 103万 50万 |
| 20 | 日本伝道福音教団 | 伝道部・厚生部 | 約50万 |
| 21 | 日本イエスキリスト教団 | ①教会教育室 ②青少年室 | 7万円 50万円（前年度からの準備金含む） |
| 22 | 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 | 青少年伝道部 | 170万円 |
| 23 | 日本伝道隊 | YPキャンプ | 10万 |
| 24 | 日本アドベントキリスト教団 | 宣教教育担当実行委委員（宣教教育委員会が組織のスリム化によって実行委員会内の担当委員制になった） | 独立採算が基本で、教団からは年間約10万程度 |
| 25 | 救世軍 | 青少年部 | 400万円 |
| 26 | ウェスレアン・ホーリネス教団 | 青年部 | 年40万円（4年毎の全国青年大会の予算約500万円） |
| 27 | チャーチ・オブ・ゴッド | チャーチ・オブ・ゴッド 国内宣教部 | 年間40万円 |
| 28 | シオン・キリスト教団 | 青年委員会 | 10万円 |
| 29 | 日本フリーメソジスト教団 | 中高生バイブルキャンプ委員会及び教団青年会 | 20～30万円ぐらい |

6. 貴教団・教派の中で、次世代育成に対して特に注目される教会レベルでの取り組み例（モデルケースなど）がありましたらご紹介ください。（複数可）
- ・各教団から次世代育成のモデルケースとしてあげられた教会の取り組み例を、表7に示す。（色塗りの教会の事例は、付属資料を参照）

表7 「次世代育成」に対して特に注目される教会の取り組み例

| NO. | 教団名 | 教会名 | 取り組み内容 |
|-----|---------------------|--------------------------------------|---|
| 1 | 友愛グループ教会連合 | 新宿福興教会 | ・路傍伝道、賛美集会、アウトドア活動などを通しての次世代育成。 |
| 2 | 保守バプテスト同盟 | ① 恵泉キリスト教会 | ・年一回のユースキャンプ。恵泉教会に所属する11のチャペルから30代以下の若い世代が30-40名集まり、ビジョンの共有と確認をしている。その中から若い献身者が生み出されている。 |
| | | ② こひつじキリスト教会成沢チャペル | ・児童伝道においてMEBIGを大々的に取り入れて、次世代の子供達の弟子訓練に取り組んでいる。 |
| | | ③ 塩釜聖書バプテスト教会 | ・教会から足が遠のきやすい中高生のために、彼らが来やすい時間帯で週日のプログラムを毎月開催し10名前後の中高生が集っている。 |
| 5 | 日本福音キリスト教会連合 | ① グレイス・コミュニティ | ベアレンティングコース、マリッジコース、リカバリーコース、FNCワークショップ、ゴスペルを歌う会（The Feet of Gospel）、ハッピースパロウズ（子どもゴスペル） |
| | | ② 本郷台キリスト教会 | エスペランサ・スポーツクラブ、のあインターナショナルスクール、ゴスペルクワイア Sound of Joy、劇団ぶどうの木、畑ミニストリー |
| 6 | 同盟福音基督教会 | 東海キリスト教会 | ・教団全国レベルの青年宣教会を、教会青年会を中心に企画運営 |
| 7 | 日本ルーテル同胞教団 | ① 南吉成キリスト教会 | ・教会学校での学びを「小教理問答書の解説」から実施している。子どもが体系的に聖書を学んでいくことになる。 |
| | | ② 愛子中央キリスト教会 | ・毎年台湾からの伝道チームを招き、キャンプを実施している。またユースが考え、企画するキャンプや活動（教会でのバンド演奏等）を教会独自で行っている。 |
| 8 | 福音伝道教団 | ① 笹塚キリスト教会 | ・中高生集会 |
| | | ② 太田キリスト教会 | ・中高生集会 |
| 9 | 基督兄弟団 | 三ツ境キリスト教会 | ・デナリフェスティバル（1年をかけて「デナリ券」を発行し子どもたちがCSクリスマスに買い物をする→多くの子どもたちが集まる）。 |
| 11 | 活けるキリストー麦の群 | 一麦西宮教会 | ・教会学校の充実、キッズダンススクールの開校、KidsBrownという幼児英語教室（宝塚）、地域に開かれたキッズクリスマス会 |
| 12 | 日本メノナイトプレザレン教団 | ① 平野キリスト教会 | ・メビックの働きをしています。 |
| | | ② 石橋キリスト教会 | ・充実した教会学校が続けられています。 |
| 14 | 日本バプテスト教会連合 | 国分寺バプテスト教会 | ・スポーツミニストリー、2部礼拝を若者がリードしている。 |
| 16 | 日本キリスト合同教会 | 屋代教会 | ・カードゲーム（バイブルプレイヤーズカード）、ボードゲーム |
| 19 | 東京フリーメソジスト教団 | ① 桜ヶ丘教会 | ・月1回、礼拝後にCSの報告と祈りの時（有志）、月1回特別夕拝：青年中心の証、賛美、交わり |
| | | ② 小金井教会 | ・ユースバスターを置いて、金曜夜の青年集会などを開く |
| 20 | 日本伝道福音教団 | 高田聖書教会 | ・ユース礼拝 |
| 21 | 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 | ① 東京アーバンチャーチ | ・ユースの奉仕の場を提供。ユースリーダーを立て、教会の様々な企画に関わってもらっている。キッズ世代の獲得と育成にユースが関わるようなプログラムを持っている。 |
| | | ② 嘉手納アッセンブリー教会 | ・月1度泊りがけて聖書の学びと賛美の練習、ユース同士の交わりを深めるプログラム。 |
| 23 | 日本伝道隊 | ① 津田キリスト教会 | ・ゴスペル宣教チーム”イッピ”の本部として、子どもたちの宣教やゴスペル、イエス様の弟子化に力を入れている。 |
| | | ② ハレルヤチャーチ | ・賛美と祈りと礼拝 子どもたちが真の礼拝者として、祈りと讃美・ダンスに力を入れている。 |
| 24 | 日本アドベントキリスト教団 | 古賀五楽が丘キリスト教会のランチのアガベハウス（北九州・福岡・宗像など） | ・弟子訓練やスポーツイベントなど。 ・海外からの留学生が中心でいわゆるディアスポラ宣教。 |
| 25 | 救世軍 | ① 清瀬小隊 | ・イングリッシュクラス、バイブルクラス、ジュニアクッキング |
| | | ② 江東小隊 | ・イングリッシュクラス、 |
| 27 | チャーチ・オブ・ゴッド | ① 酒田キリスト教会 | ・MEBIGを取り入れ、次世代宣教が急速に成長中。 |
| | | ② 東戸塚キリスト教会 | ・チャーチスクールの働きを展開。 ・キャンプや、公園伝道の働きを精力的に行なっている。 |
| | | ③ 川崎キリスト教会 | ・幼児礼拝、小学生礼拝、ユース礼拝。キッズ祈り会、ユース祈り会。 ・公園伝道。ストリートライブ。キッズとユースそれぞれに、礼拝・祈り会・伝道のチャンスを提供。またディボーションを励ましている。 |
| 28 | シオン・キリスト教団 | ① 蒲田教会 | ・毎週末、ウイイレをやっている |
| | | ② 茅ヶ崎教会 | ・LINEによるみことばとメッセージ配信 |

7. その他、特別に記載すべき事項や、日本福音同盟宣教委員会に対するご意見・ご要望がありましたらお書きください。
- ・特別に記載すべき事項や、日本福音同盟宣教委員会に対するご意見・ご要望として出されたものを、表8に示す。

表 8 特別に記載すべき事項や、日本福音同盟宣教委員会に対するご意見・ご要望

| NO. | 教団名 | 内 容 |
|-----|---------------------|---|
| 19 | イムヌエル総合伝道団 | <p>・「とにキャン」では、中高生を対象に毎年キャンプを開催している。キャンプとしての質が維持されるよう、教団牧師が継続的に責任を持ち開催してきた。近年は卒業生たちがスタッフとして長く奉仕をするようになってきたこともあり、音楽やグラウンドの奉仕等、責任の一端を委ねつつ、毎年キャンプの中で中高生が直面する具体的な問題（例えば、救いの確信、友人関係、進路選択等）について牧師が分科会を持っている。「とにキャン」を卒業した青年には、スタッフトレーニングキャンプへの参加を促し、スタッフとして奉仕をしていただいている。</p> <p>また、近年は、中高生のフォローアップと小学生が「とにキャン」に参加しやすくなるようにと年一回「とにキャン・フェスティバル」をいくつかの地区で開催している。</p> <p>各活動のつながりとしては、TCの卒業生が一つ上の世代のYSの委員として加わり、またTCのスタッフとして戻ってきて、卒業後のYSのアピールをしている。YSBはYSで育てられた世代が、担当牧師との協力ももって活動を展開している。</p> |
| 20 | 東京フリーメソジスト教団 | <p>・2016年の神戸での日本伝道会議と時期を同じにして、当教団では、小規模ながら次世代育成のための対策がとられ実践し始めている。当教団では、27名の教職の内、44%である12名が30、40代の教職者たちであるので、比較的次世代への取組みが、具体的に可能になっている。</p> |
| 23 | 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団 | <p>・次世代育成のための参考にしたいので、アンケート結果をまとめた資料を提供していただければ感謝です。</p> |

4.2 各地域教会の取組み状況の調査

- (1)実施期間 : 2018年5月～12月
 (2)調査対象 : JEA加盟教団の教会
 (3)回答教会数 : 232教会

表 9 教団別・都道府県別アンケート回答教会数

| 都道府県 | 教団名 | 保守バプテテスト同盟 | 日本バプテテスト教会連合 | 日本同盟基督教団 | 日本イエス・キリスト教団 | 日本伝道隊 | 福音伝道教団 | 日本伝道福音教団 | 日本福音キリスト教会連合 | センド国際宣教団 | イエス福音教団 | 福音交友会 | 日本ホーリネス教団 | イムヌスエル総合伝道団 | 救世軍 | 基督兄弟団 | チャーチ・オブ・ゴッド | シオン・キリスト教団 | 日本宣教会 | 日本フリーメソジスト | 東京フリー・メソジスト | 日本アツセンブリ・ゴズ・オブ・ゴズ | 日本フリースクエア福音教団 | 日本福音自由教会協議会 | 日本キリスト合同教会 | 東京福音センター | 単立 |
|------|-----|------------|--------------|----------|--------------|-------|--------|----------|--------------|----------|---------|-------|-----------|-------------|-----|-------|-------------|------------|-------|------------|-------------|-------------------|---------------|-------------|------------|----------|----|
| 都道府県 | 232 | 10 | 8 | 36 | 9 | 2 | 12 | 3 | 30 | 2 | 1 | 1 | 48 | 26 | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 2 | 2 | 19 | 2 | 9 | 1 | 1 | 1 |
| 北海道 | 14 | | | 3 | | | | | 7 | | | | 1 | | | | | | | | | 2 | | | | | 1 |
| 青森県 | 6 | | | | | | | | 2 | | | | 1 | 3 | | | | | | | | | | | | | |
| 岩手県 | 2 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 宮城県 | 4 | 1 | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 秋田県 | 3 | 2 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 山形県 | 6 | 1 | | | | | | | | | | | 3 | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 福島県 | 2 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 茨城県 | 7 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | |
| 栃木県 | 10 | 1 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | 3 | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | |
| 群馬県 | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 埼玉県 | 19 | | | 2 | | | 2 | 2 | 1 | | | | 4 | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | 5 | | |
| 千葉県 | 11 | 2 | 1 | | | | | | 2 | | | | 5 | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 東京都 | 32 | 1 | 2 | 11 | 1 | | | | 2 | | 1 | | 4 | 4 | 1 | | | | | 1 | | 3 | | | | 1 | |
| 神奈川県 | 31 | | 3 | 4 | 1 | | 1 | | 13 | | | | 4 | 1 | | 2 | 1 | 1 | | | | | | | | | |
| 新潟県 | 11 | | | 2 | | | 5 | 2 | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 富山県 | 3 | | | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 石川県 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | |
| 福井県 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 山梨県 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 長野県 | 3 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 岐阜県 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 静岡県 | 6 | | | 1 | | | | | | | | | 1 | 4 | | | | | | | | | | | | | |
| 愛知県 | 6 | | | 2 | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 三重県 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 滋賀県 | 3 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 京都府 | 5 | | | | 2 | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 大阪府 | 4 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | | |
| 兵庫県 | 6 | | | 2 | 1 | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | 1 | | | | | | | |
| 奈良県 | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 和歌山県 | 3 | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 鳥取県 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 島根県 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 岡山県 | 1 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 広島県 | 4 | | | | 1 | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 山口県 | 2 | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 徳島県 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 香川県 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 愛媛県 | 4 | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | |
| 高知県 | 2 | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 福岡県 | 2 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 佐賀県 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 長崎県 | 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 熊本県 | 2 | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| 大分県 | 3 | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| 宮崎県 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 鹿児島県 | 2 | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| 沖縄県 | 3 | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | 1 | | | |

4.2.1 回答のあった教会の概要

- ・回答していただいた教会は、232 教会である。内訳としては、
 - (1)教団別では、図 5 に示すように、日本ホーリネス教団がもっとも多く 21%、日本同盟基督教団が 16%、日本福音キリスト教会連合が 13%、イマヌエル綜合伝道教団が 11%、日本アッセンブリー・オブ・ゴッド教団が 9%で、これら 5 教団の合計が全体の 70%を占めている。
 - (2)都道府県別では、図 6 に示すように、東京都が 14%、神奈川県が 13%、埼玉県が 8%、千葉県が 4.7%と、これら首都圏の教会だけで約 40%を占めているのに対し、西日本地区の教会が少なく、地域的に見て偏りがある結果となっている。
 - (3)回答教会の地域性としては、図 7 に示すように、郊外型住宅地の都市部の教会が 47%を占め、その他の地域性は、それぞれ各 10%前後である。
 - (4)回答教会の礼拝出席者数の分布（図 8）を見ると、平均値 47 人、中央値 36 人で、2014 年度の全国のプロテスタント教会の分布（母集団）の平均値 39 人、中央値 25 人に比べ大きい数字を示している¹。
しかし最頻値は、今回のデータは 17 人で 2014 年度のデータ 20 人より小さい数字を示している。
これは、2014 年度のデータでは礼拝出席者数が 50 人以下の教会の比率が 81.5%であったのに対し、今回の回答教会のデータでは 63%であることから、教会間のばらつきが大きいことを示している。
 - (5)図 9 に示すように、回答教会の過去 10 年間の礼拝出席者数の増減を見ると、少し増加が最も多く 26%を占めている。減少傾向（減少と少し減少の和）と増加傾向（増加と少し増加の和）に分けると、それぞれ 37.5%と 35%でほぼ比率的には変わらない。
しかし、少し減少と変わらない、少し増加を加えた比率は 68.5%となり、定義が曖昧で感覚的な表現のこともあり、回答教会のほとんどが、礼拝者数の変化はないと見なしうると思われ、当初意図していた「成長教会群」と「非成長教会群」に分けた分析は、有意性が弱いと思われる。
また、表 10 に示すように、回答教会の過去 10 年間の礼拝出席者数の増減傾向と地域性との関係を見ても、都市部、農村部の教会とも礼拝出席者数が減少傾向の教会が多く、農村部の教会のサンプル数の少ないこともあるが、都市部と農村部という教会の地域性による有意差は認められない。
 - (6)図 10 に回答教会の年齢構成を示す。平均値が 53.3 歳で、50 歳代が最も多く、2014 年調査の日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の年齢構成（平均値 50.8 歳）に近い年齢構成を示している²。

¹ 第 6 回日本伝道会議「日本宣教 170▶200 プロジェクト」『データブック 日本宣教のこれからが見えてくるーキリスト教の 30 年後を読む』（いのちのことば社、2016 年）P.20

² 同上 P.53

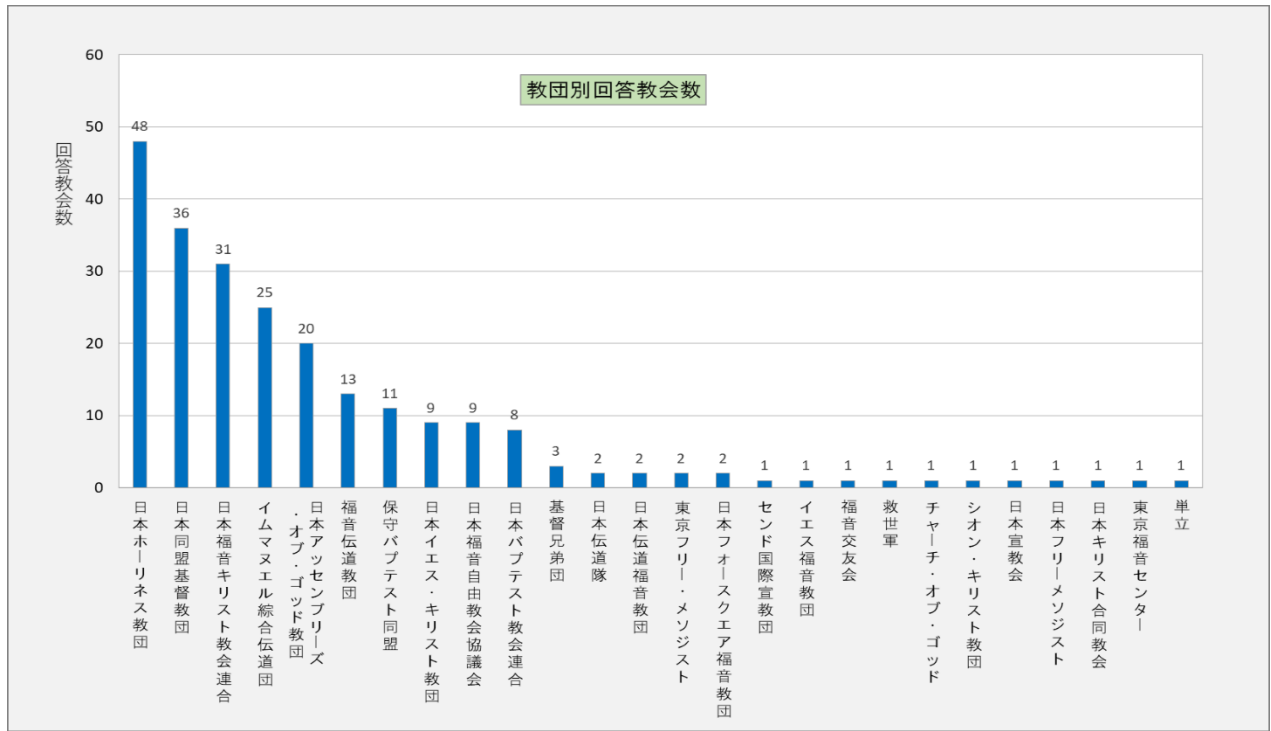


図 5 教団別回答教会数

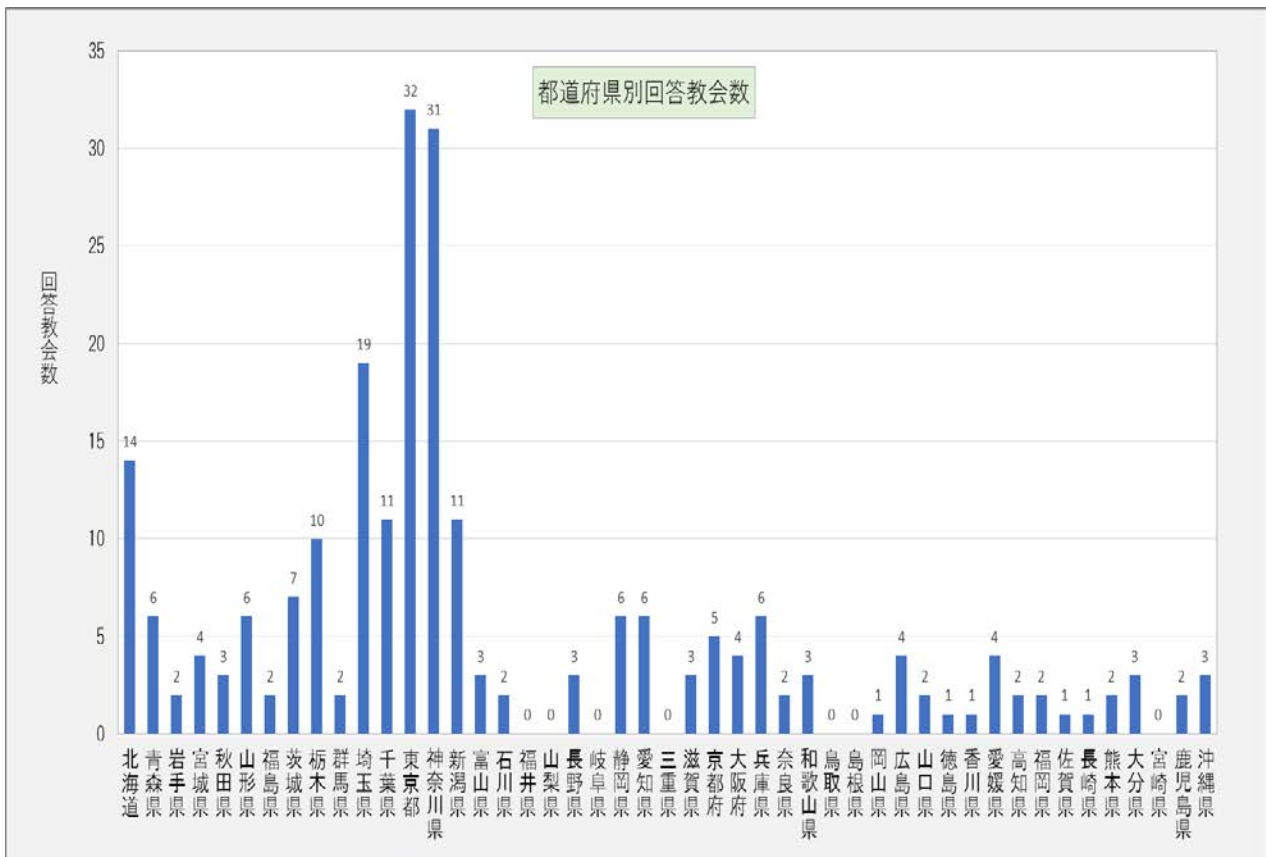


図 6 都道府県別回答教会数

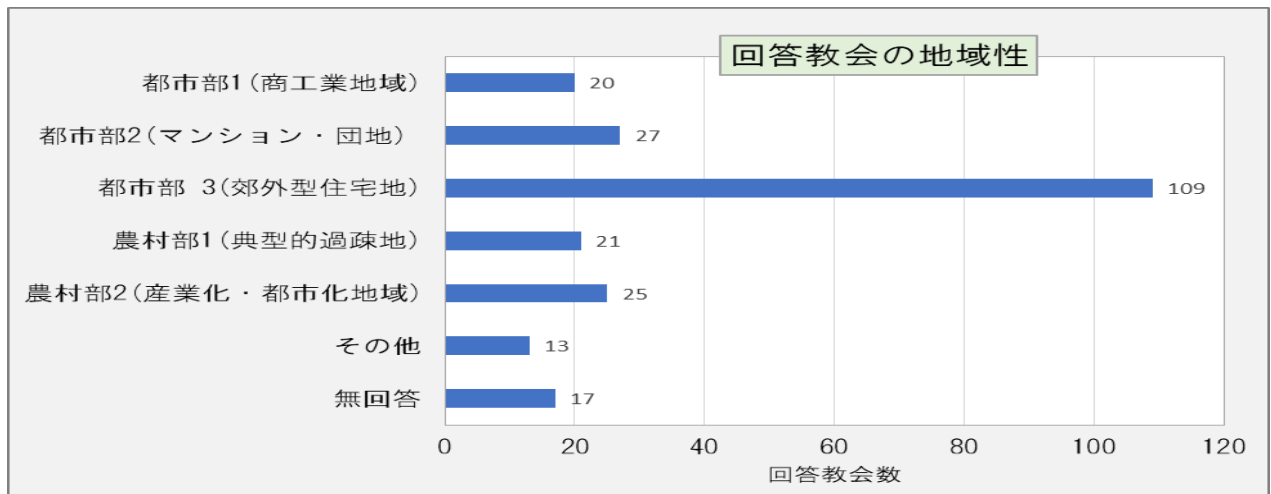


図 7 回答教会の地域の状況

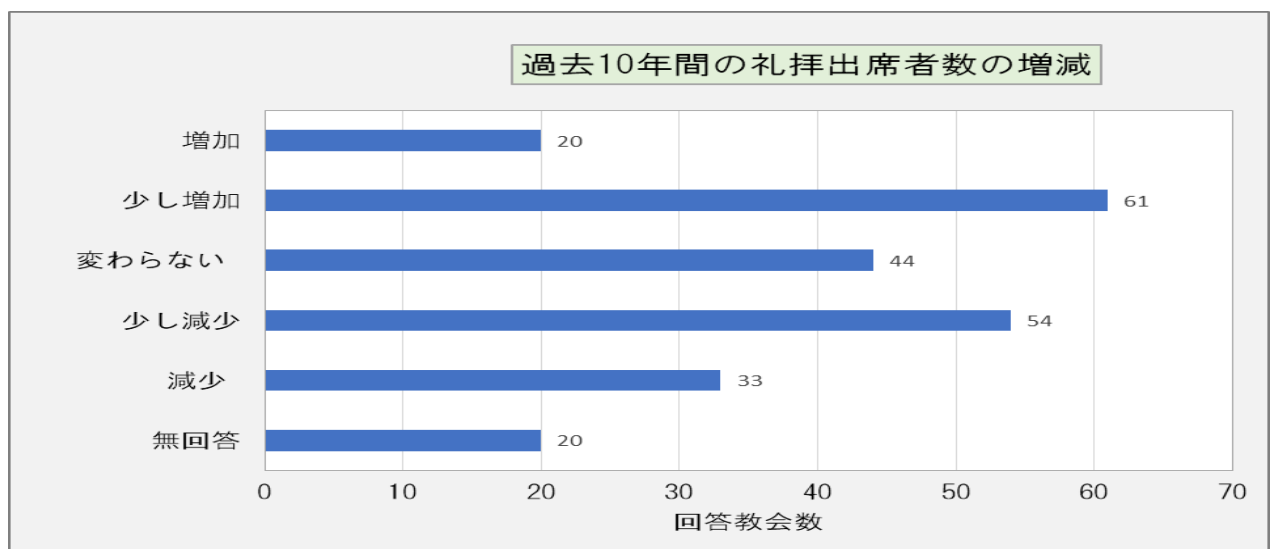


図 8 回答教会の礼拝出席者数の分布

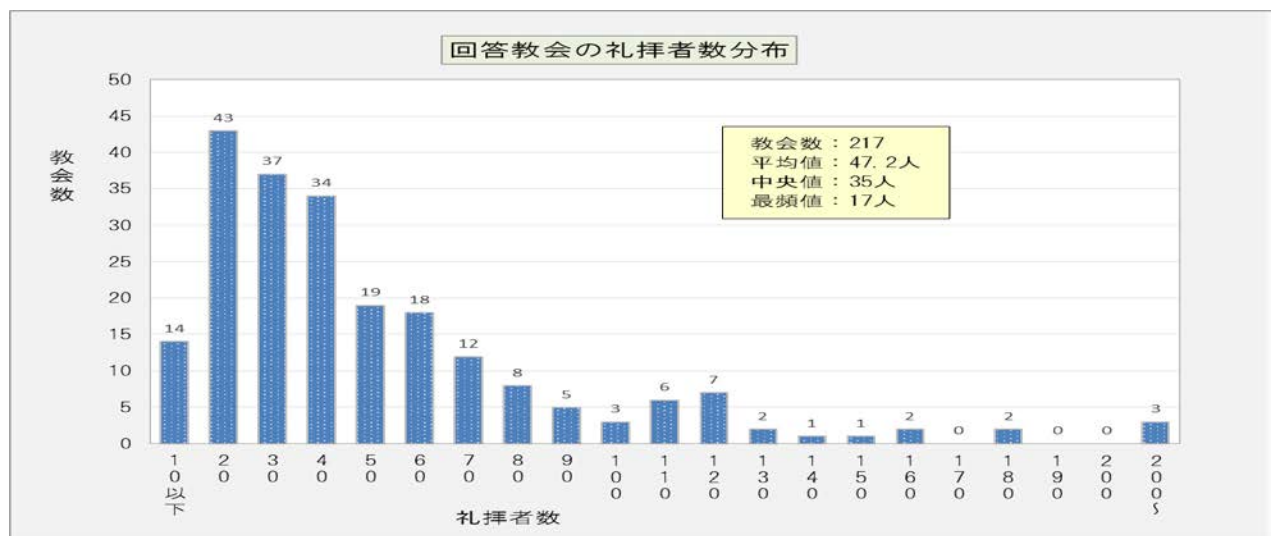


図 9 回答教会の過去10年間の礼拝出席者数の増減

表 10 回答教会の過去 10 年間の礼拝出席者数の増減傾向と地域性との関係

| | 都市部 | 農村部 | 無回答 | 計 |
|------|-----|-----|-----|-----|
| 減少傾向 | 62 | 21 | 7 | 90 |
| 増加傾向 | 55 | 16 | 4 | 75 |
| 無変化 | 32 | 8 | 5 | 45 |
| 無回答 | 7 | 1 | 14 | 22 |
| 計 | 156 | 46 | 30 | 232 |



図 10 回答教会の年齢構成

4.2.2 「次世代育成」についてのアンケートの回答

＜アンケートの設問と回答＞

1.貴教会には、次世代育成として、毎週定期的に行われているプログラムはありますか？

・次世代育成として、毎週定期的に行うプログラムがある教会は73%、ない教会が19%であった（表11）。

また、定期的に行うプログラムの有無と教会の地域性との関連性は、表12に示すように、都市部と農村部との有意差は認められない。

表 11 次世代育成として、毎週定期的に行うプログラムの有無

| | | |
|-----|-----|--------|
| ある | 170 | 73.3% |
| ない | 45 | 19.4% |
| 無回答 | 17 | 7.3% |
| 計 | 232 | 100.0% |

表 12 定期的なプログラムの有無と地域の状況

| 地域の状況 | 定期的なプログラムの有無 | | | 計 |
|-----------------|--------------|----|-----|-----|
| | ある | ない | 無回答 | |
| 都市部1（商工業地域） | 15 | 4 | 1 | 20 |
| 都市部2（マンション・団地） | 23 | 4 | 0 | 27 |
| 都市部3（郊外型住宅地） | 75 | 27 | 7 | 109 |
| 農村部1（典型的過疎地） | 18 | 3 | 0 | 21 |
| 農村部2（産業化・都市化地域） | 19 | 4 | 2 | 25 |
| その他 | 9 | 2 | 2 | 13 |
| 無回答 | 11 | 1 | 5 | 17 |
| 合計 | 170 | 45 | 17 | 232 |

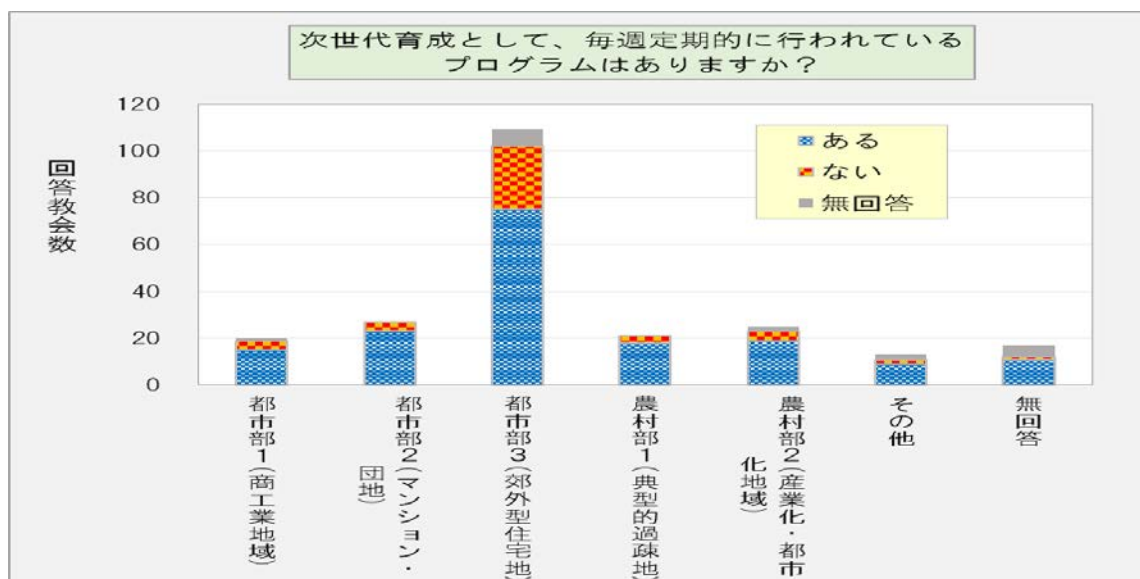


図 11 定期的なプログラムの有無と地域の状況

2.次世代育成としてのプログラムとしては、各年齢層に対し、具体的にどのような方法が用いられていますか？

- ・回答教会で行われている次世代育成としてのプログラムとしては、表 13 に示すように従来からのスタイルである「教会学校」が圧倒的に多い。

それに対し、新しい手法として注目されている「MEBIG」や「アワナクラブ」が意外にも少なく、時代のニーズを反映してか、幼児や小学生の「英会話」の方が多いのが注目される。

表 13 各年齢層に対する次世代育成としてのプログラム

| | a 教会学校 | b アワナクラブ | c M E B I G | d こども学習塾な ど聖書を学ぶ会 | e スポーツ | f 音楽教室 | h 英会話 | その他 |
|-----|-----------|-------------|----------------------------|-------------------------|-----------|-----------|----------|-----|
| 幼児 | 119 | 3 | 7 | 1 | 1 | 2 | 12 | 34 |
| 小学生 | 140 | 4 | 10 | 3 | 5 | 3 | 16 | 40 |
| 中学生 | 99 | 1 | 5 | 5 | 2 | 2 | 5 | 44 |
| 高校生 | 73 | 0 | 2 | 4 | 2 | 4 | 5 | 37 |
| 大学生 | 25 | 0 | 1 | 6 | 1 | 2 | 3 | 40 |
| 成人 | 28 | 0 | 1 | 17 | 4 | 2 | 8 | 46 |

3.今後、活動を継続していくためには、何が課題でしょうか？

- ・回答教会が、活動を継続していくための課題としては、生徒の出席者の確保と教師・スタッフの確保・教育が大多数を占め、回答教会の約半数が課題としてあげている(表 14)。また、課題の 1～5 の内、4つ以上の複数回答をした教会が 23%、1 と 2 の複数回答をした教会は 33% あった。

これらのことから、毎週定期的なプログラムを継続させていくために、各教会とも困難な状況を抱えながら取り組んでいることが伺える。

しかし、一方で 6 の「教会全体の次世代育成に対する関心と支援」を課題にあげた教会が 29% もあるのは、教会の次世代育成に対する関心や熱意が薄れているとしたら、極めて深刻な問題ではある。

表 14 活動を継続していくための課題

| 課 題 | 回答 教会数 |
|-----------------------|-----------|
| 1 生徒の出席者の確保 | 126 |
| 2 教師、スタッフの確保 | 102 |
| 3 教師、スタッフの教育 | 95 |
| 4 場所の確保 | 28 |
| 5 経済的な必要 | 28 |
| 6 教会全体の次世代育成に対する関心と支援 | 68 |
| 7 その他 | 28 |

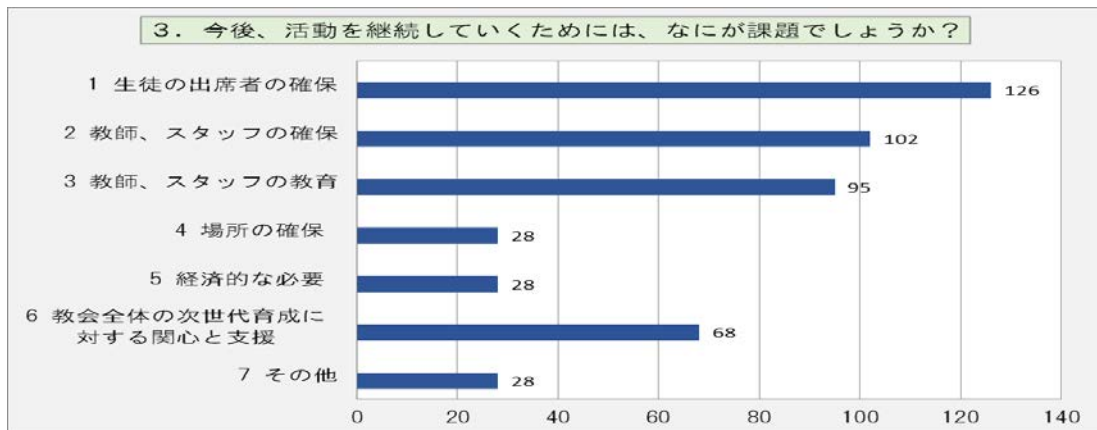


図 12 活動を継続していくための課題

4. 生徒の出席者の確保を選択された方は、確保できないどのような状況がありますか？

- ・「生徒の出席者の確保」を課題として選択した教会の状況としては、地域に子どもはいるが、人的なつながりや教会と地域とのつながりがいないためという回答が46%を占めた（表 15）。ここに、「次世代育成」に限らず各教会が抱えている問題が如実に表れていると思われる。

表 15 生徒の出席者の確保ができない状況

| 状況 | 回答教会数 |
|--------------------------------|-------|
| 1 過疎化した地域で子どもがいない | 6 |
| 2 地域に子どもはいるが、集める方法がわからない | 24 |
| 3 地域に子どもはいるが、集めるための人的なつながりがない | 68 |
| 4 地域に子どもはいるが、教会と地域のつながりが断絶している | 39 |
| 5 その他 | 36 |

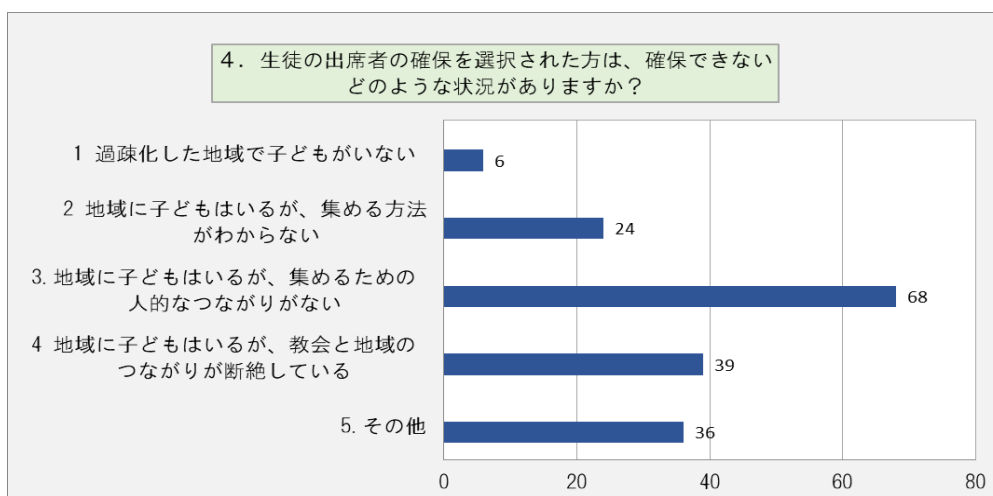


図 13 生徒の出席者の確保ができない状況

5. 教師、スタッフの確保を選択された方は、確保できないどのような状況がありますか？

- ・「教師、スタッフの確保」を課題としてあげた教会の状況としては、表 16 に示すように、牧師以外に人材がいらない、或いは人材はいても時間的な余裕がない人や対応能力に問題があるということである。

表 16 教師、スタッフの確保ができない状況

| 状 況 | 回答 教会数 |
|------------------------------------|-----------|
| 1 牧師以外に、教師、スタッフとして働くことのできる人がいない | 15 |
| 2 人はいるが、時間的余裕のない人ばかりである | 24 |
| 3. 人はいるが、高齢者で、対応能力に限界がある | 11 |
| 4. 人はいるが、訓練されていない未熟な人ばかりである | 8 |
| 5 教師、スタッフは確保されているが、実際には教育に適切な人ではない | 1 |
| 6 その他 | 17 |

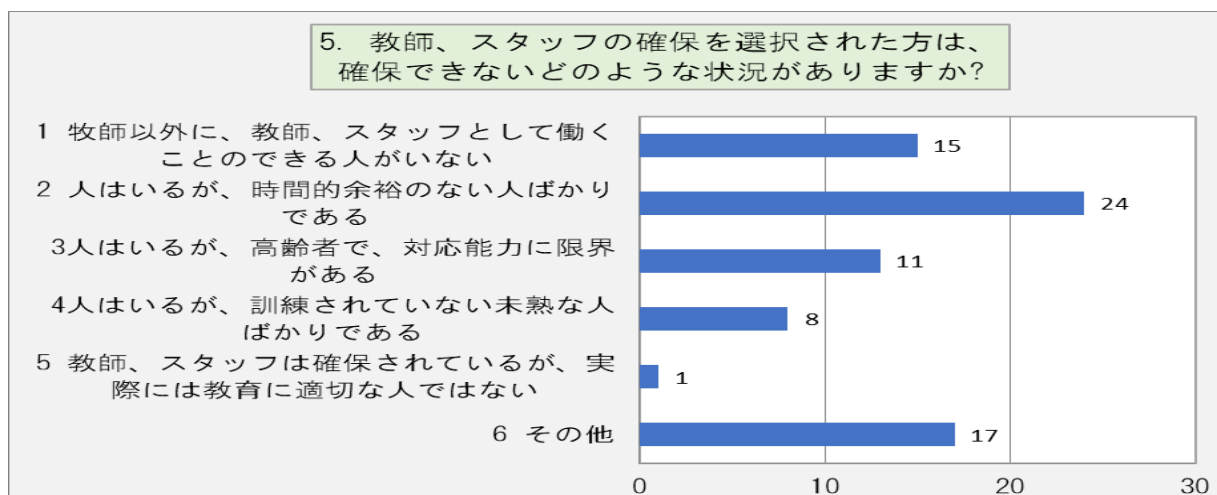


図 14 教師、スタッフの確保ができない状況

6. 教師、スタッフの教育を選択された方は、教育についてどのような課題がありますか？

- ・「教師、スタッフの教育」を課題としてあげた教会の状況としては、表 17 に示すように、教師、スタッフの時間的な余裕がないことが最大の課題である。

表 17 教師、スタッフの教育についての課題

| 状 況 | 回答 教会数 |
|-------------------------------------|-----------|
| 1. 教師、スタッフに対する研修方法を知りたい | 19 |
| 2. 教師、スタッフに対する研修内容を知りたい | 21 |
| 3. 教師、スタッフを教育するための、牧師の時間的余裕がない | 33 |
| 4. 教師、スタッフを教育するための、教師、スタッフの時間的余裕がない | 64 |
| 5. 教師、スタッフを教育したいが、教師、スタッフに動機付けが乏しい | 24 |
| 6. その他 | 7 |

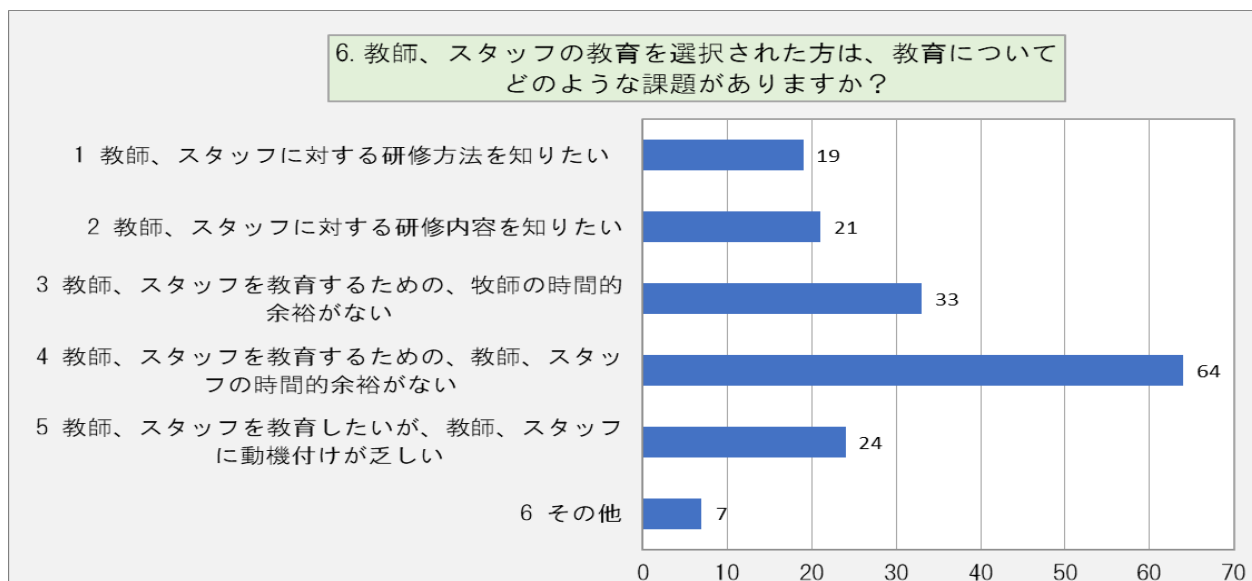


図 15 教師、スタッフの教育についての課題

7. 教師、スタッフに教育をしている場合、どのような研修内容を提供していますか？
(複数選択可)。

- ・ 教師、スタッフに対する研修内容としては、聖書の学びと実践的な学びが多い (表 18)。

表 18 教師、スタッフの研修内容

| 研修内容 | 回答教会数 |
|--|-------|
| 1. 聖書を中心とした学び | 52 |
| 2. 聖書教理、神学を中心とした学び | 19 |
| 3. 教会史の学び | 5 |
| 4. 実践的な学び(説教、牧会、リーダーシップ、カウンセリング、アドミニストレーションなど) | 47 |
| 5. その他 | 20 |

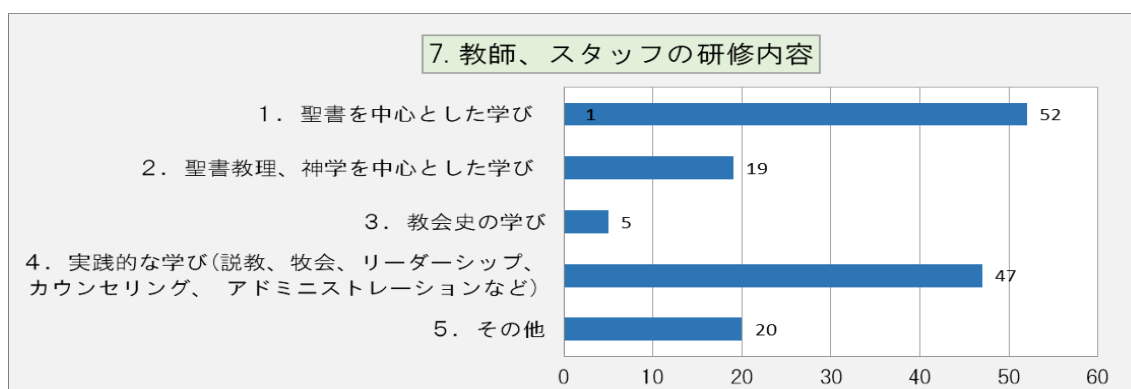


図 16 教師、スタッフの研修内容

8. 教師、スタッフに教育をしている場合、どのような研修方法を採用していますか？
 (複数選択可)

- ・研修方法としては、教会内と所属団体内での研修が多く、専門団体による教師養成セミナーが比較的少ない(表 19)。

表 19 教師、スタッフの研修方法

| 研修方法 | 回答 教会数 |
|--------------------|-----------|
| 1. 教会内研修 | 68 |
| 2. 所属団体内研修 | 50 |
| 3. 地域の教会が集まったの合同研修 | 12 |
| 4. 専門団体による教師養成セミナー | 25 |
| 5. 神学校での学び | 5 |
| 6. 他教会訪問 | 14 |
| 7. 教会関連以外の一般研修 | 3 |
| 8. その他 | 7 |

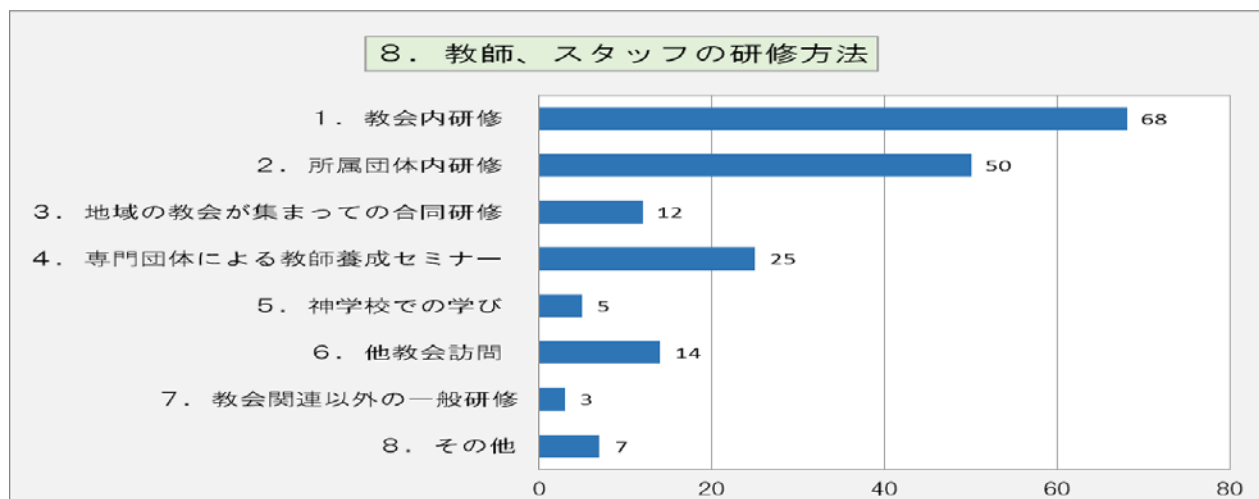


図 17 教師、スタッフの研修方法

9. 貴教会は、地域の他の教会と「次世代育成」について、何らかの連携は取っていますか？

- ・地域の教会間の連携を取っていると回答した教会は 32%、連携を取っていないと回答した教会は 44%である(表 20)。

表 20 地域の他教会との連携

| 他教会との連携 | 回答 教会数 |
|---------|-----------|
| とっている | 75 |
| とっていない | 102 |
| 無回答 | 55 |
| 計 | 232 |

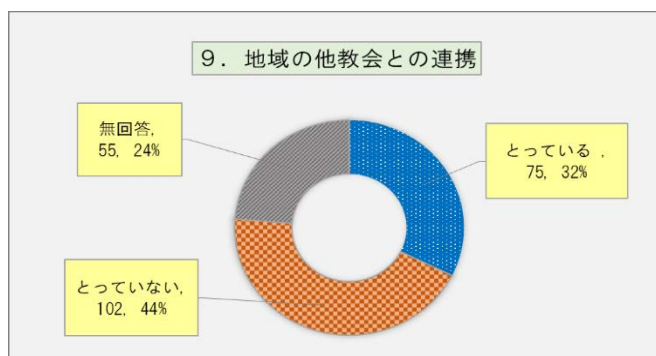


図 18 地域の他教会との連携

10.9項で①と答えた教会は、具体的にどのような連携を取られているのでしょうか？

- ・地域の他教会との連携としては、4の「夏期学校やキャンプ、野外活動等を合同で行う」が最も多いが、回答4を中心として、回答3や回答5との組み合わせで複数回答しているところが多く見られる（表21）。

表 21 他教会との連携内容

| 他教会との連携内容 | 回答 教会数 |
|-------------------------------|-----------|
| 1. 生徒の交流のため教会学校やアワナクラブ等を合同で行う | 6 |
| 2. クリスマスやイースター等のイベントを合同で行う | 13 |
| 3. スポーツや音楽等のイベントを合同で行う | 18 |
| 4. 夏期学校やキャンプ、野外活動等を合同で行う | 52 |
| 5. 教師やスタッフの研修を合同で行う | 23 |
| 6. 教師やスタッフの派遣や交流 | 3 |
| 7. その他 | 10 |

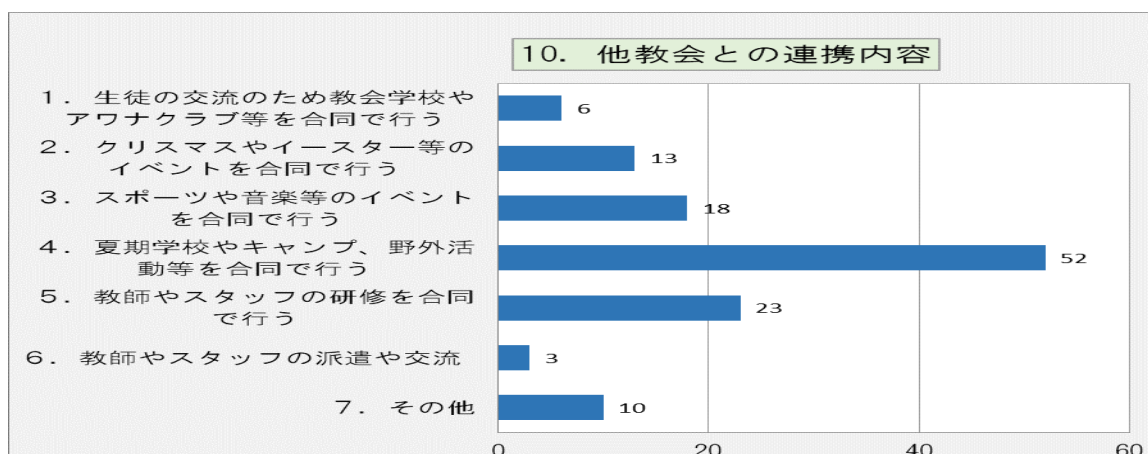


図 19 他教会との連携内容

11. 教会がある地域では、次世代を育成するための、どのような活動が行われていますか？

- ・次世代を育成するための地域活動としては、表22に示すように多彩な活動が行われている。

表 22 次世代育成のための地域活動

| 次世代育成のための地域活動 | a | b | c | d | e | f | g | h | i | j | k | l | m | n | o | p | r |
|---------------|--------|------|--------|--------|--------|----------|-------|--------|---------|---------|---------|----------|------|--------|------|------|-----|
| | 環境浄化活動 | 文化活動 | スポーツ活動 | 健康増進活動 | 自然体験活動 | キャンプ集団活動 | 物造り活動 | 社会見学活動 | 異文化交流活動 | 清掃・緑化活動 | 広報・研修活動 | ボランティア活動 | 遊び活動 | 職業実習活動 | 相談活動 | 救援活動 | その他 |
| 回答教会数 | 3 | 31 | 38 | 10 | 24 | 43 | 21 | 12 | 14 | 23 | 11 | 22 | 21 | 15 | 14 | 30 | 10 |

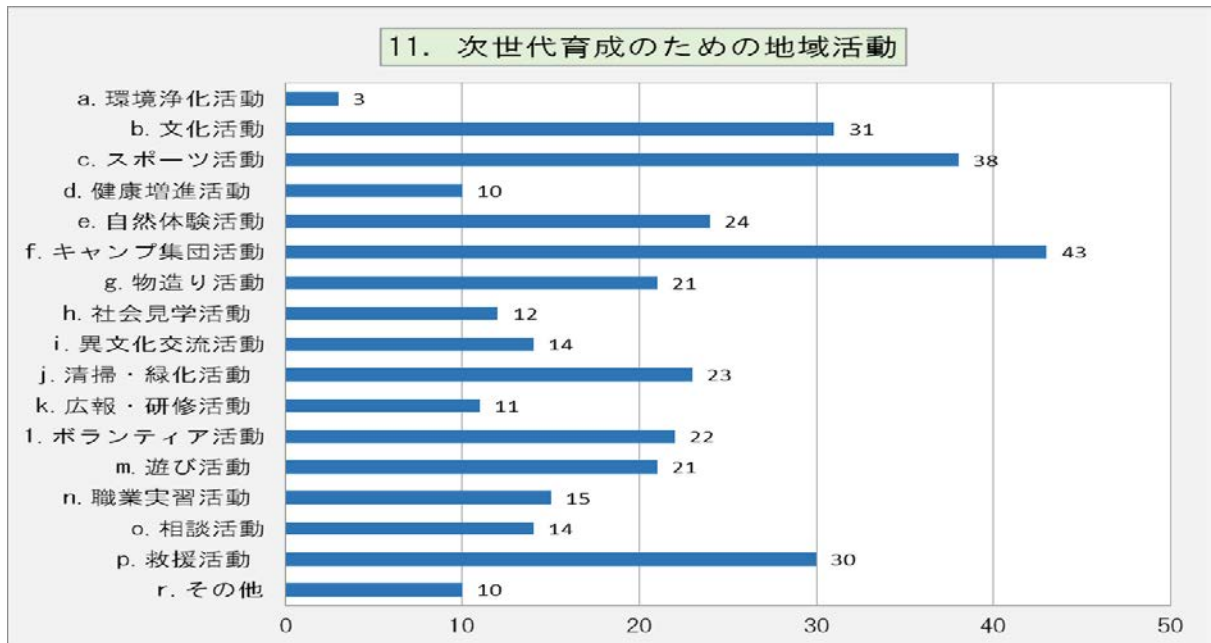


図 20 次世代育成のための地域活動

12. 貴教会は、近隣の青少年向けの宣教団体(KGK、hi-b.a.等)の集会と何らかの連携は取っていますか？

- ・ 宣教団体(KGK、hi-b.a.等)の集会と何らかの連携は取っている教会は 32%で、44%の教会は取っていない（表 23）。回答教会のほとんどが首都圏の都市部の教会であることを考えると、連携の在り方について検討の余地があるかと思う。

表 23 宣教団体との連携

| 宣教団体との連携 | 回答教会数 |
|------------------|-------|
| 1. 取っている | 74 |
| 2. 近隣にあるが取っていない | 24 |
| 3. 近隣にないので取っていない | 78 |
| 4. 無回答 | 56 |
| 計 | 232 |

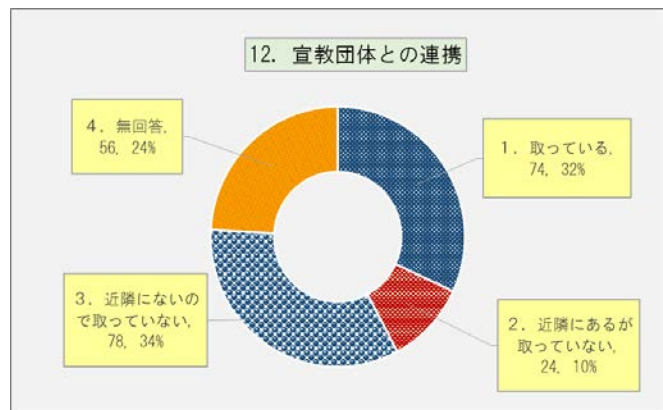


図 21 宣教団体との連携

13. 12項で①と答えた教会は、具体的にどのような連携を取られているでしょうか？
 ・ 宣教団体と教会との具体的な連携の内容を、表 24 に示す。

宣教団体の集会やイベントに対象者を参加させたり、宣教団体のスタッフを教会の研修会の講師に招いたりして、人的な交流を図ることも重要なことであるが、教会と宣教団体とが互いに必要な情報を常に交換し合える関係を構築することも重要なことだと思われる。

表 24 宣教団体との連携内容

| 宣教団体との連携内容 | 回答教会数 |
|-----------------------------|-------|
| 1. 宣教団体の集会やイベントに対象者を参加させている | 36 |
| 2. 宣教団体のスタッフを集会に招いている | 35 |
| 3 教師やスタッフの研修会の講師に招いている | 9 |
| 4 必要な情報の交換を行っている | 30 |
| 5 その他 | 8 |

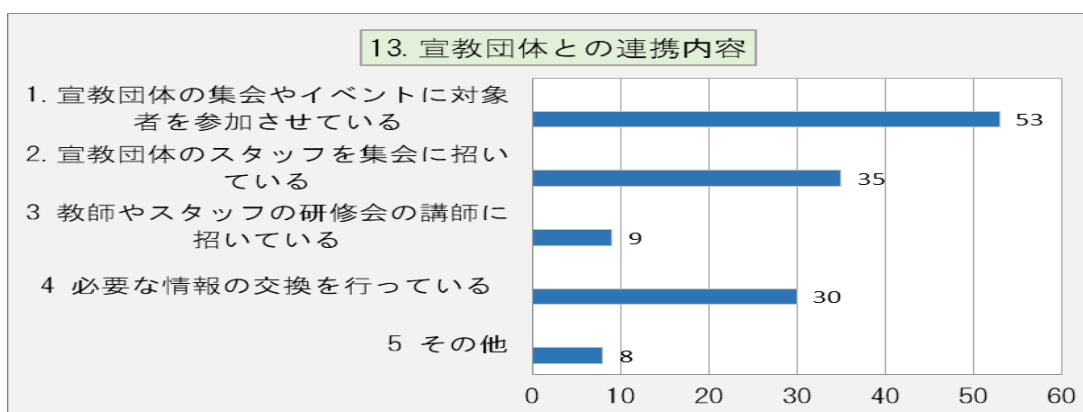


図 22 宣教団体との連携内容

14. 貴教会は、近隣のキリスト教学校と何らかの連携は取っていますか？
 ・ 近隣のキリスト教学校と何らかの連携を取っている教会は 26%で、近隣にキリスト教学校があっても連携を取っていないと回答した教会が 12%あった（表 25）。

表 25 キリスト教学校との連携

| キリスト教学校との連携 | 回答教会数 |
|------------------|-------|
| 1. 取っている | 60 |
| 2. 近隣にあるが取っていない | 28 |
| 3. 近隣にないので取っていない | 82 |
| 4. 無回答 | 62 |

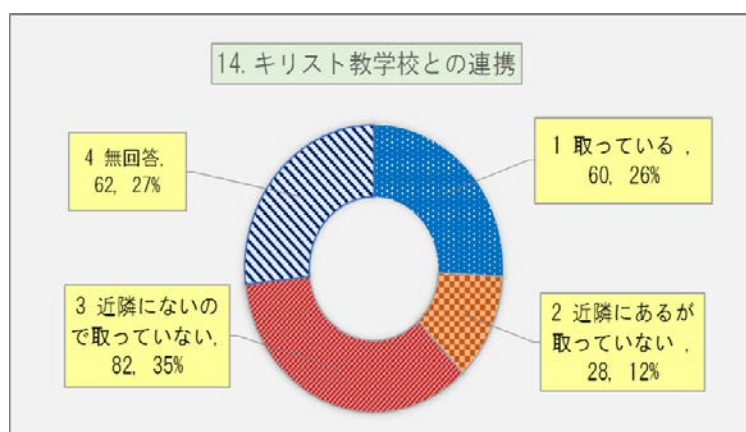


図 23 キリスト教学校との連携

15. 14 項で①と答えた教会は、キリスト教学校と具体的にどのような連携を取られているでしょうか？

- ・キリスト教学校との具体的な連携内容としては、連携を取っている教会のほとんどが、礼拝出席の受け入れが主である（表 26）。

表 26 キリスト教学校との連携内容

| キリスト教学校との連携 | 回答 教会数 |
|---------------------|-----------|
| 1. 礼拝出席を積極的に受け入れている | 60 |
| 2 教会行事の案内を積極的にしている | 14 |
| 3 教会訪問の機会を作っている | 7 |
| 4 必要な情報の交換を行っている | 17 |
| 5 その他 | 9 |

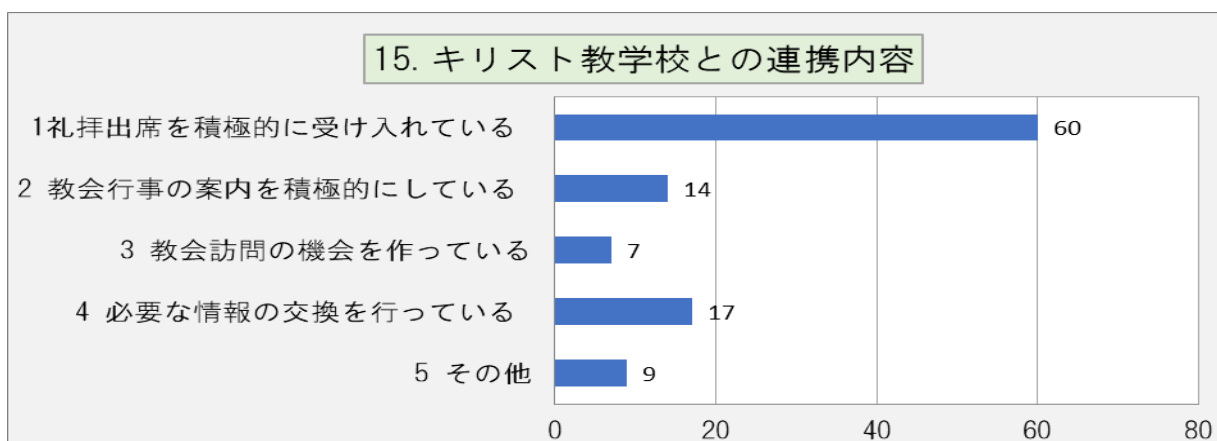


図 24 キリスト教学校との連携内容

16. 「次世代育成」のプログラムを定期的に行っていない場合、その理由は何でしょうか？

- ・「次世代育成」のプログラムを定期的に行っていない教会は、対象となる人がいないためより、対象となる人がいるが行っていない教会の方が多い（表 27）。

表 27 「次世代育成」プログラムを定期的に行っていない理由

| 定期的に行っていない理由 | 回答 教会数 |
|-----------------------|-----------|
| 1 教会に対象となる人がいないため | 17 |
| 2 教会に対象となる人はいるが行っていない | 25 |
| 3. 無回答 | 3 |
| 計 | 45 |

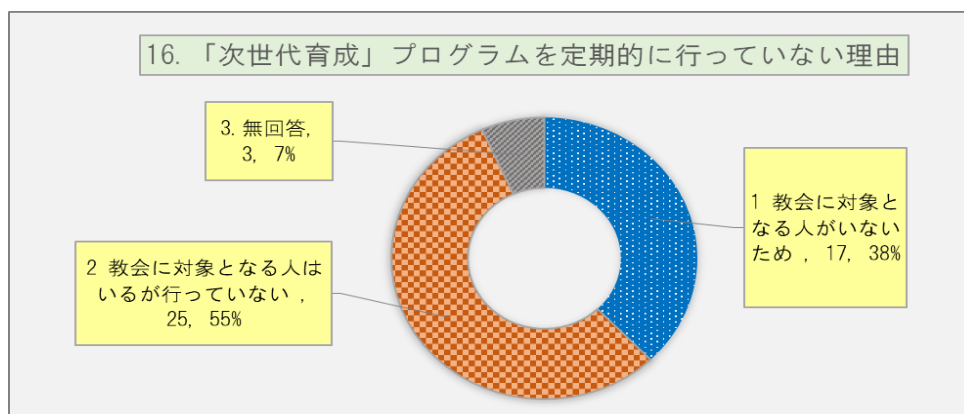


図 25 「次世代育成」プログラムを定期的に行っていない理由

17. 教会に対象となる人がいるのに、プログラムが行えない原因・理由は何でしょうか？

・その原因・理由としては、表 28 に示すような回答数になっているが、それぞれの回答数が少ないため、これらから推論することは難しい。

先に、「次世代育成」のプログラムを定期的に行っている教会が活動を継続していくために抱えている課題をお聞きした設問 3～5 の回答と、ほぼ同じような内容ではないかと思われる。

表 28 プログラムが行えない原因・理由

| プログラムが行えない原因・理由 | 回答教会数 |
|---------------------------------|-------|
| 1 対象が忙しすぎてプログラムを行えない | 13 |
| 2 対象の興味関心が低い | 10 |
| 3 対象を指導できる人がいない | 5 |
| 4 対象を指導する方法(教案、テキスト、ゲーム等)がわからない | 3 |
| 5 「次世代育成」の必要性に対する牧師や教会の意識が低い | 5 |
| 6 その他 | 6 |
| 7 無回答 | 2 |

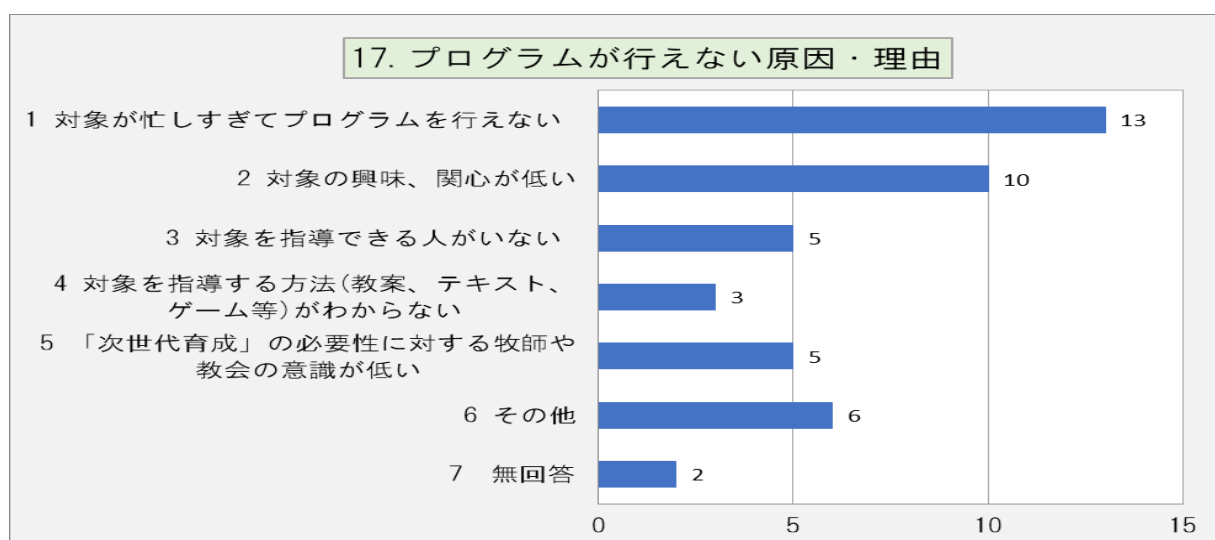


図 26 プログラムが行えない原因・理由

4.2.3 次世代の「結婚、家族について」のアンケートの回答

<アンケートの設問と回答>

1. 20-40代の結婚の問題について、どのような取り組みをしていますか？
 - ・20-40代の結婚の問題についての取り組みとしては、表29に示すように、カウンセリングによる個別指導が多いが、その他の回答を見ると、教団主催の婚活セミナーや婚活イベントの利用も多く見られる。

表 29 結婚に関する取り組み

| 結婚に関する取り組み | 回答 教会数 |
|-----------------------|-----------|
| 1 セミナー活動 | 23 |
| 2 カウンセリング(個別相談) | 73 |
| 3 種々のマッチング活動 | 41 |
| 4 他教会との交流促進 | 42 |
| 5 紹介ネットワークおよび専門機関への依頼 | 22 |
| 6 その他 | 31 |
| 7 無回答 | 87 |

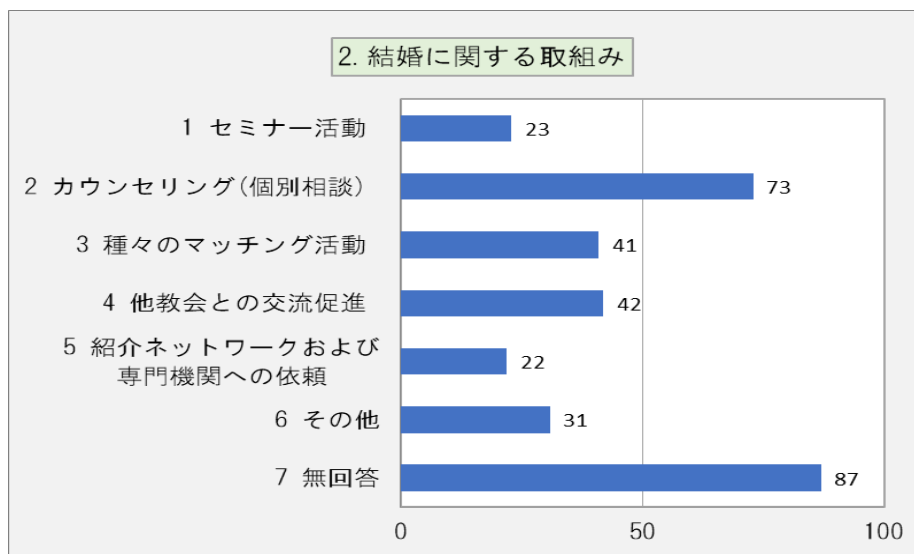


図 27 結婚に関する取り組み

<その他の回答>

- ・教団主催の婚活セミナー、団体のキャンプへの参加
- ・教団内での未婚者データ情報の利用
- ・教区の青年担当としての相談。紹介機関の奉仕者と牧師の懇談。水谷潔師と牧師の相談。
- ・他教会の先生と連携をとっている。教団内、教団外問わず。
- ・恋愛結婚の学び会
- ・柿谷カウンセリング
- ・他に、特に何もしていないが多い

2. 1項の取り組みで最も効果のあったものは何ですか？

- ・効果があった取り組みとしては、表 29 と表 30 との比率から見ると、カウンセリングによる個別指導やマッチング活動の比率が高い。

表 30 効果のあった取り組み

| 取り組み | 回答教会数 |
|-----------------------|-------|
| 1 セミナー活動 | 7 |
| 2 カウンセリング(個別相談) | 39 |
| 3 種々のマッチング活動 | 25 |
| 4 他教会との交流促進 | 19 |
| 5 紹介ネットワークおよび専門機関への依頼 | 6 |
| 6 その他 | 21 |

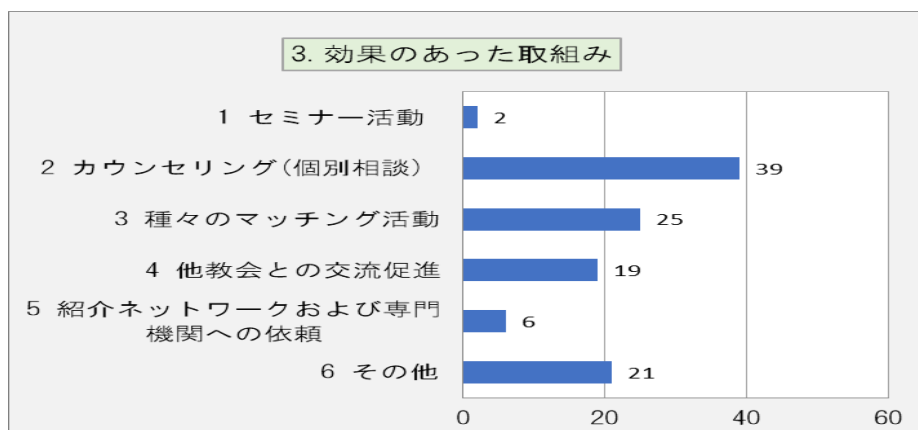


図 28 効果のあった取り組み

3. 1項の取り組みで結婚に至った件数は、今までに何件ありますか？

- ・表 31 に示す回答からは、取り組みで結婚に至った件数としては、余り多くない状況が伺える。クリスチャン同士でなければとか今の教会から離れられないというような、条件的な面が大きく影響していると思われる。

表 31 結婚に至った件数

| 件数 | 回答教会数 |
|------|-------|
| 0件 | 101 |
| 1件 | 22 |
| 2件 | 16 |
| 3件 | 5 |
| 4件 | 3 |
| 5件 | 4 |
| 6件以上 | 1 |
| 無回答 | 80 |
| 計 | 232 |

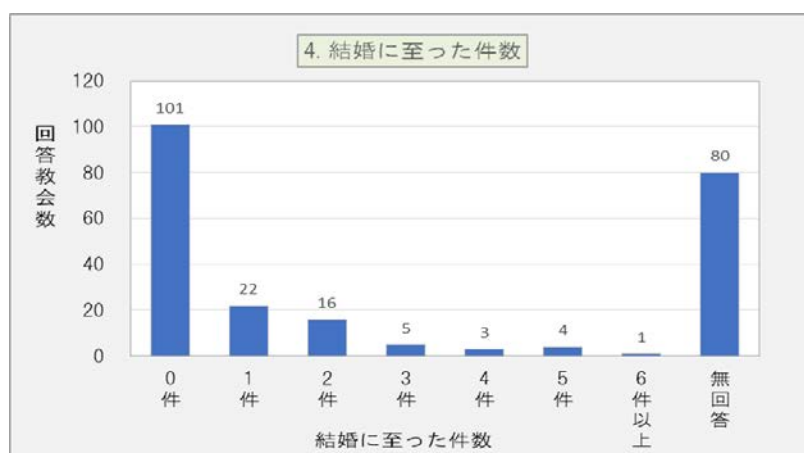


図 29 結婚に至った件数

4. 1項の取り組みについてどんな課題がありますか？

- ・設問が不適切もあり、表 32 に示すように、その他の回答や無回答が非常に多い。
 従って、結婚の取り組みに対する課題としては、その他の回答にあるようにそもそも結婚適齢期の青年が教会に少ないことや、教団や教会が婚活に熱心に取り組んでも、当事者にその意欲や意識が薄いこと等も大きな課題として考える必要があるのではないだろうか。

表 32 結婚に関する取り組みの課題

| 結婚に関する取り組みの課題 | 回答 教会数 |
|---------------------------|-----------|
| 1. 当事者のニーズにあった諸活動がない | 35 |
| 2. 近くに利用できる諸活動がない | 27 |
| 3. 信仰的、倫理的に立場を共有できる諸活動がない | 16 |
| 4. その他 | 30 |
| 5 無回答 | 145 |

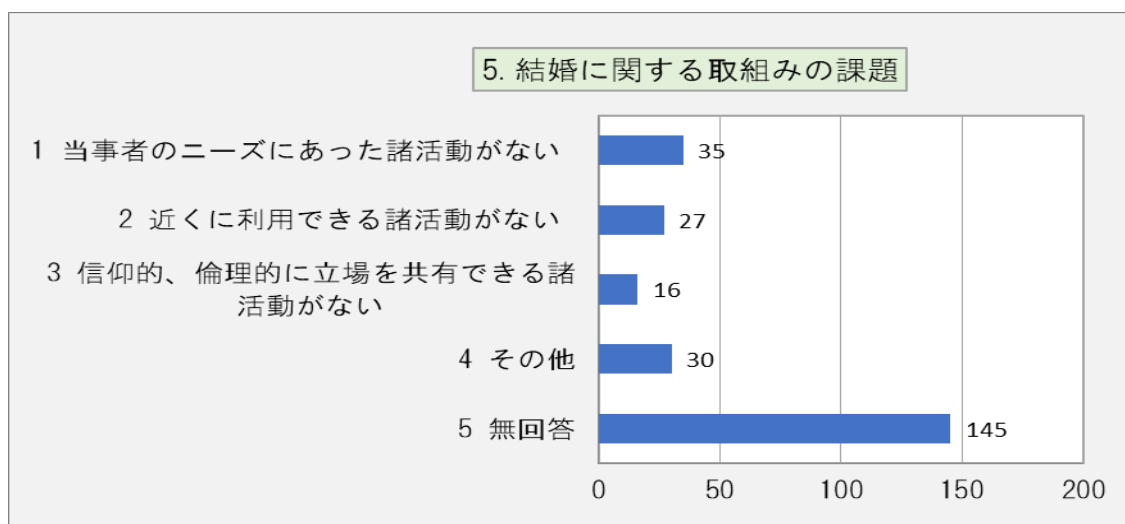


図 30 結婚に関する取り組みの課題

<その他の回答>

- ・地域社会で連携して、結婚のために集まりを数回行っていたが途切れている
- ・当事者の人数が少なく、さらに意識が薄く、活発な活動を行うことができない
- ・信徒当人が、依存の課題を抱えていたり(親子依存、借金など)、人格的な深刻な問題を内包していたりした。
- ・基本的に、聖書信仰に則り、主に説教を語り、説教から信仰に生きる事、聖なる歩みをする事を教えています
- ・結婚観が確立されていない
- ・結婚を希望する女性に対して、信仰者の未婚男性があまりいないこと
- ・結婚適齢期の人にその意欲が少ない。
- ・今まで牧師の高齢化でできなかったが、現在の牧師で関係を作り、個別・グループでの活動を増やす予定。
- ・共にやってきた青年大会などが、青年の減少により難しくなっている

- ・クリスチャンの絶対数が少ないことと、他の教会の人の場合、結婚して教会員を外に出したくないという雰囲気
- ・結婚して他の教会に導かれるが、遣わされた教会で、文化が違う事で本人が戸惑うこともある
- ・祈りはするが、実際のそのような場所へ送ることに躊躇を感じるし、若者も積極的に参加しない
- ・女性信徒は所属教会を離れたくないというニーズがある

5. 次世代を育成する親に対して、どのような取り組みをしていますか？

- ・次世代を育成する親に対する取り組みとしては、個別相談が多いが、その他の回答を見ても、各教会にて多彩な取り組みがなされているのが伺える（表 33）。

表 33 親に対する取り組み

| 取り組み | 回答 教会数 |
|-----------------|-----------|
| 1.教会学校機関誌の配布 | 24 |
| 2.子育て講座 | 35 |
| 3.個別相談 | 63 |
| 4.子育て支援ネットワーク作り | 12 |
| 5.預かり保育サービス | 7 |
| 6.保護者会 | 10 |
| 7.子育てサークル | 30 |
| 8.教会外機関への紹介 | 4 |
| 9.その他 | 30 |
| 10.無回答 | 102 |

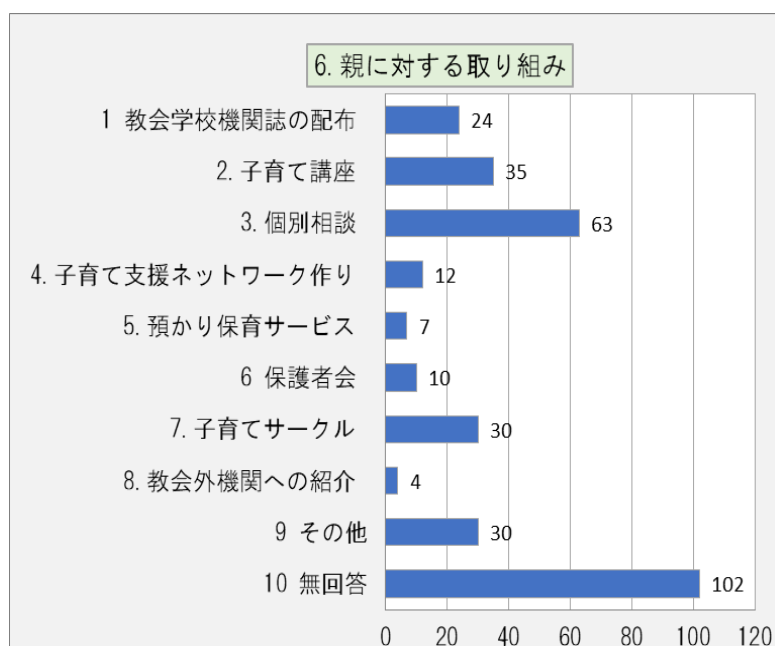


図 31 親に対する取り組み

<その他の回答>

- ・CS 教会学校はとうとう 0 となり、もう一度カップルが与えられこれからの土台に復活したい
- ・教育講演会の実施
- ・各行事参加、発表会、お茶会、スポーツ会、おもちつき、バーベキュー
- ・礼拝での子守。聖会等での子ども集会。児童監督。年齢別会としての母子会(婦人会や壮年会のように)
- ・放課後子どもクラブや毎週の集会を通して、子どもたちの親と交わりを持っている
- ・平日の教会学校活動に親の参加も促し、子育ての読書会をしている
- ・近所の方々を招いて月一度の茶話会を開いている。現在小さなお子さんがいる 3 組の母子が来ている
- ・良書を共に学ぶ時をもつ
- ・保護者は全員クリスチャンなので、お互いに LINE などを用いて密接な関係を築いている

- ・月に一度のホームスクールのミーティング
- ・家の教会で、日常の信仰生活を見せて教えるように導いている
- ・毎週土曜日に外部向けの子ども集会を設け、そこに参加する保護者との交わりを深めている

6. 5項の取り組みについて、教会の益となるどんな効果がありましたか？

- ・表 34 に親に対する取組みの効果としてあげられた回答数を示す。

表 34 親に対する取組みの効果

| 親に対する取組みの効果 | 回答 教会数 |
|--------------------------------|-----------|
| 1 親の次世代育成に関する意識向上に役立った | 45 |
| 2 親の次世代育成に関する取組みが強化された | 20 |
| 3. 次世代育成に取り組む親の交わりが促進された | 37 |
| 4 次世代育成に取り組む未信者の親が、教会の活動に加えられた | 34 |
| 5 その他 | 10 |

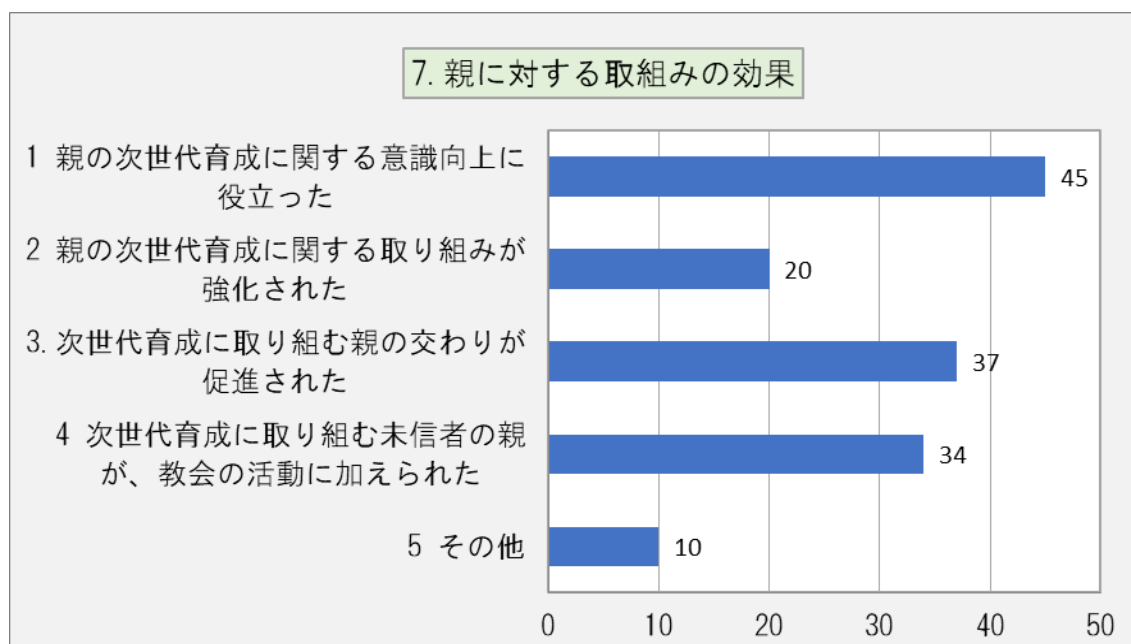


図 32 親に対する取組みの効果

7. 5 項の取り組みについて、どんな課題がありますか？

- ・親に対する取り組みの課題としては、表 35 に示すように、教会の人材不足が多く挙げられているが、4 項の結婚適齢期の対象者への取り組みの課題と同様に、結婚適齢期の青年が教会に少ないことや、親の意識が薄いこと、地域との繋がりが弱いこと等も大きな課題として考えられる。

表 35 親に対する取り組みの課題

| 親に対する取り組みの課題 | 回答 教会数 |
|---------------------------|-----------|
| 1 取り組みを維持・発展させる経費の捻出 | 13 |
| 2 取り組みを維持・発展させる人材の不足 | 53 |
| 3 取り組みを維持・発展させる方法やノウハウの不足 | 46 |
| 4 取り組みを維持・発展させるための教会の協力 | 19 |
| 5 その他 | 11 |
| 6 無回答 | 139 |

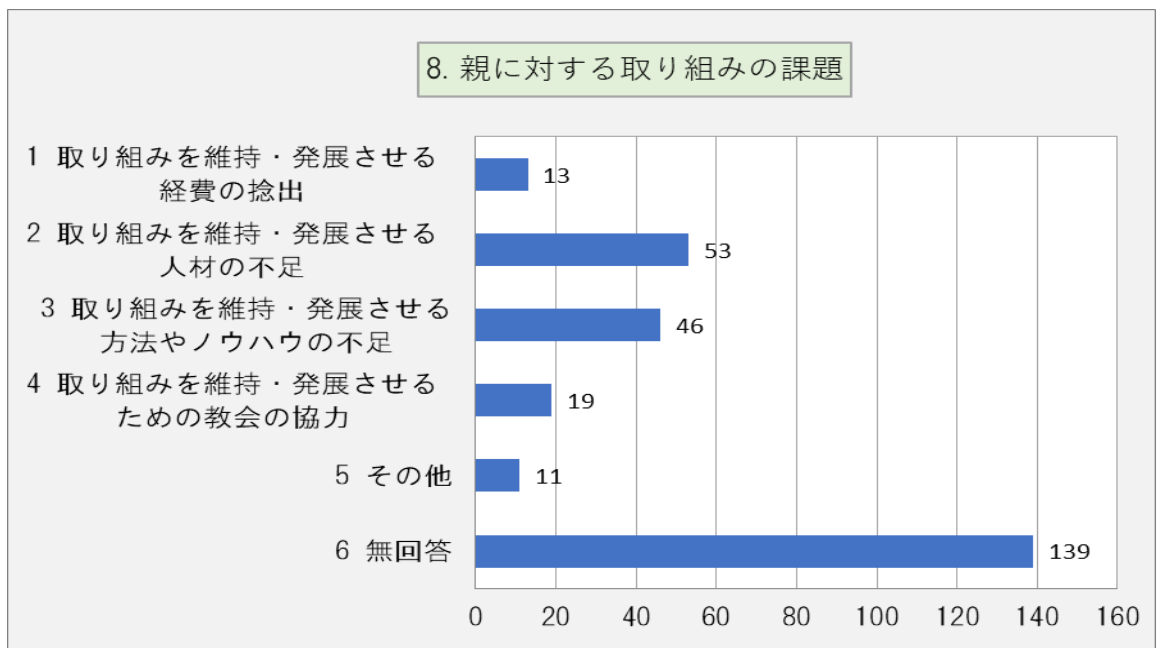


図 33 親に対する取り組みの課題

<その他の回答>

- ・必要性をまず認識してもらう必要がある。自分の生活、信仰で精一杯
- ・対象となる方が来会されない
- ・未信者の夫が救われていないので、救われて欲しい
- ・時間的余裕もない。もっと頻繁にやればいいのだろうが、そこまでの人的資源がない
- ・何と言っても、クリスチャンの子育て世代がいないので、未信者も集まらない
- ・地域との繋がりが

8. 親子の取り組みについて地域との連携がありますか。それは何ですか？
- ・無回答の回答をした教会が 77%あることや、その他の回答を見ても、親子の取り組みについて地域との連携をしている教会は、ほんの一部にとどまっている。

表 36 親子の取り組みに対する地域との連携

| 親子の取り組みに対する地域との連携 | 回答教会数 |
|-------------------|-------|
| 1. 学校機関誌の配布 | 6 |
| 2. 子育て講座 | 7 |
| 3. 個別相談 | 12 |
| 4. 子育て支援ネットワーク作り | 2 |
| 5. 預かり保育サービス | 5 |
| 6. 保護者会 | 3 |
| 7. 子育てサークル | 15 |
| 8. 教会外機関への紹介 | 2 |
| 9. その他 | 18 |
| 10. 無回答 | 179 |

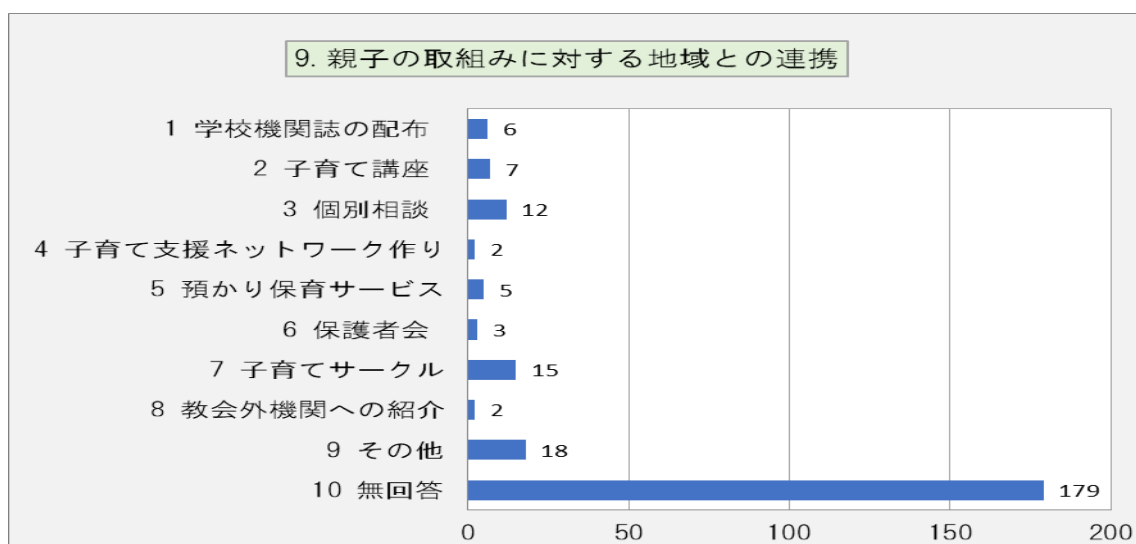


図 34 親子の取り組みに対する地域との連携

<その他の回答>

- ・クリスチャンのカウンセラーの紹介。ぜひ子育てサークルを実施したいが、着手できていない
- ・放課後子どもクラブやファミリーサポートなどを牧師夫婦で手伝っている
- ・協力宣教師による英会話クラス、英語クラス
- ・子育てサークルの紹介、イベントをスーパーや幼稚園などに掲示してもらう
- ・CS へのお誘い
- ・社会福祉協議会が力を入れてくれるが、なかなかつながりにくい。
- ・区役所、市役所、市民活動センター、青少年活動センター、市民新聞等への紹介
- ・NPO ほっとマナを立ち上げ、そこを新たな扉とし、地域との接点とし自治連合会、学校、役所と風通しが良く（途中切れ）

9. 発達障害、知的障害、精神障害などを抱えた子供や青年はいますか？
- ・発達障害、知的障害、精神障害などを抱えた子供や青年がいると答えた教会は、表 36 から 63%となる。

表 37 障害を抱えた子ども、青年はいますか？

| | 回答 教会数 |
|-----|-----------|
| いる | 147 |
| いない | 49 |
| 無回答 | 36 |
| 計 | 232 |

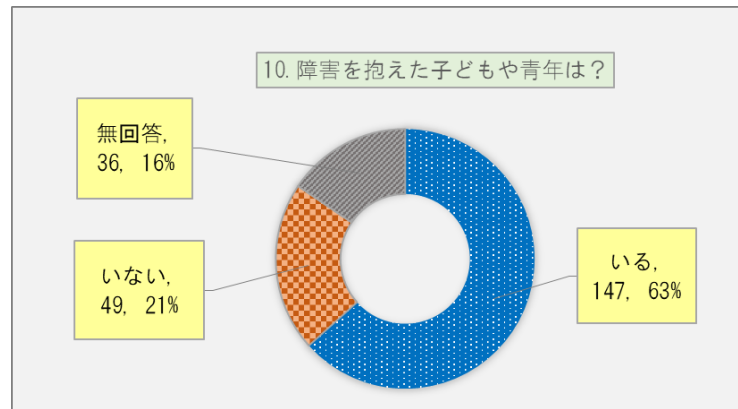


図 35 障害を抱えた子ども、青年はいますか？

10. 9項で、「いる」と答えられた場合、教会としてどのような対処をしていますか？
- ・発達障害、知的障害、精神障害などを抱えた子供や青年がいる教会としての対処としては、特にしていないと回答した教会が約半数である（表 38）。

表 38 障害を抱えた子供や青年に対する教会としての対処

| 障害を抱えた子供や青年に対する 教会としての対処 | 回答 教会数 |
|--|-----------|
| 1. 特にしていない | 71 |
| 2. セミナーを開催して、教会員の理解を促進 するようにしている | 10 |
| 3 個別カウンセリングの場を設けている | 46 |
| 4 親の会などを開催し運営している | 5 |
| 5 教会外の行政、精神保健福祉センターなど と連携して活動を進めている | 18 |
| 6 その他 | 25 |

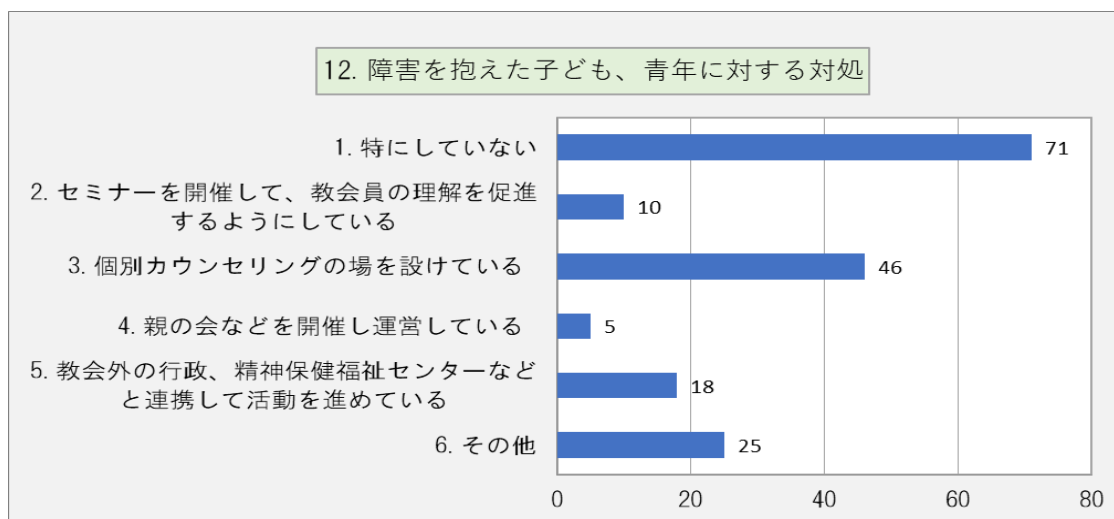


図 36 障害を抱えた子供や青年に対する教会としての対処

11.その他、特別に記載すべき事項や、JEA に対するご意見・ご要望があればお書きください。

◇①日本の特に地域教会の中で、過疎地域などの悪条件にもかかわらず、健闘している教会のリサーチまたは、海外で宣教の困難な中で実を結んでいる教会の実例（都市型や大教会ではなく）の検証と紹介。

②日本に來ている宣教師へのリサーチ（日本での宣教において何が課題なのか？など）

◇北海道浦河町の浦河ベテルの家を参考に「当事者研究会」をしている。

*編集者注：「当事者研究」とは、統合失調症などをもちながら地域で暮らす当事者の生活経験から生まれた自助－自分を助け、励まし、活かす－のプログラムのこと。

◇当教会も含めて、地方の教会の場合、就職、就学、結婚などにより、若者を主体に県外に出ている者が多い親がその方の分も月定献金をしてくれる場合がほとんどで、また県外に居住したあとも月定献金をして下さっているの、教会員（正教会員）としての人数はそれなりにいるが、実際に地元に残って教会生活をしている方は正教会員の 3/4～2/3 位となっているのが現実。また、年に 2 回程度だけは出席するような者もいる。アンケートを取るうえで、どこまでを対象とするか規定したほうが現状にマッチするのでは。

◇核になるクリスチャンホームがなく、教会員も少ないので、なかなか難しいのが現実です。未信者の家庭から来た子どもたちはなかなか育成までいけませんし。また近くの教会と言っても、車で 30 分から 1 時間以上かかるので、協力して取り組んだこともあるのですが、継続するのが難しいのが実情です。

◇このアンケートの背景もそうですが、色々な点で、福音派自体が、難しい所に立っているのかもしれない。私共は小さな教会ですが、また私は牧師として、年はいっていますが、経験年数も未熟です。立場をわきまえずに語っているのかもしれませんが。

◇何か、神様が為されるダイナミックな出来事を、聖霊臨在と共に経験した証しを、自由に語る空気が必要と感じています。この信仰の経験が、“確信”として、信仰生活に大きな歩みを残すと信じています（信仰者であっても、不安等の精神的悩みを抱えた人が、余りにも現在は多いのではないのでしょうか）。また、この事は、伝道・宣教の原動力にもなっていると思います。

※イエス様の説教と共にされる病人を癒し、悪霊を追い出す活動を権威ある働きとして多くの人々が認めていた。そして群がっていた。

戦後の福音派の歩みは何があったのか、検証する必要はないでしょうか。大変僭越で申し訳なく思います。

◇私たちの教会は、昨年創立 40 周年を迎えた長い歴史のある教会ですが、現在、教会は弱っているという状況があります。私は 2015 年に赴任し、2016 年 10 月からは協力宣教師が与えられました。今、協力宣教師の働きを通して、地域の若い子育て世代の家族が、教会に集いつつあります。そのため、現状では次世代に関するアンケートに書けることがあまりありませんが、今後の展開に期待して、祈っている最中です。

その中で感じていることは、教会には牧師や宣教師以外に、モデルとなるクリスチャンホームが必要だということです。現状、私たちの教会には、家族で教会に來ている方はいませんので、そのような家族が与えられるように、とも祈っています。

- ◇アンケートの奉仕を感謝します。質問項目の設定は難しいと思いますが、質問の意図と選択肢の項目、また回答経路の導入などあまり答えやすすくないようです。答えやすいためには「伝道として」外向けにしているか、育成といっても「信徒の家庭（子ども）に対してしているか」明確に分けないといけなんでしょう。
- ◇様々な意見があると思いますが、未信者との結婚を強く否定する結果、適齢期の若者が教会からも離れてしまい、その子どもたちまで教会に寄り付かなくなるような姿勢ではなく、結婚と家庭を祝福の基であるキリストに結びつけるような取り組みが必要だと思えます。
- ◇広島のことだけかもしれませんが、市教委、県教委のキリスト教に対しての首長の思想を確かめて行動しないとイケないと思う。児童館職員が子どもにあげたものを取り上げる等の暴挙を働かれた例が複数あった。また CSの在り方も根底から考え直した方が確度の高い次世代育成につながるのではないかと。
- ◇しばしば、すごいプログラムを用いているところがクローズアップされて紹介され、多くの教会では参考にならないこともあるので、一般的な小規模の教会ですぐ出来るヒントやきっかけなどが紹介されることを願っています。
- ◇早天礼拝や日々の祈りが相当大きいです。それと、プログラムではなく主の臨在。教会学校よりも、家での信仰継承です。今のところ信仰継承率は 100 パーセントです。
- ◇教会が高齢者だけになってしまわないための対策として重要なことの第一は、幼子を大切にすることだと思えます。もう一つは、教会に来ている中高生を信仰告白に導くことです。私たちの教会では、礼拝中の子どもたちの対応について、毎年親たちが集まり、話し合います。（定例の「保育会議」と称しています）
- 始めのうち、子どもたちは礼拝中には別室に遊びに行く、というのが普通でしたが、「保育会議」を何年も繰り返すことにより、今ではほとんどの乳幼児が礼拝中も会堂にいられるようになりました。中高生のためには、隔週で土曜日の夜に集会を開いており、ここ数年は中高生の受洗が続いています。
- 子育てをしている親に対する特別な取り組みはありませんが、日曜日の午後、子どもたちが遊んでいる傍らで親たちが交わりをし、憩うことによって、子育ての重荷を下ろすことができているのではないかと思います。
- 次世代の育成に必要なのは、何らかのプログラムや取り組みではなく、毎週の礼拝と交わりをいかに豊かなものにするのかに尽きると思えます。私たちの教会は決して大きな教会ではありませんが、その結果として、会員の年齢構成は、上記に示したとおり、各年代ほぼ均等ですし、この他に未受洗の子どもたちも 5～6 人が礼拝に出ています。（記載 吉田浩二）
- ◇当教会は開拓 10 年目の教会で、地域的に人口の流入・流出の多い地です。教会のある戸田市は、子育て世代が多い市で、行政もこの世代に対して積極的に取り組み、専門的な、楽しい、充実した様々なプログラムを提供しています。そのため、教会プログラムとの比較が行われ、苦戦しています。これまで「子連れお料理教室」、「子連れバイブルクラス」「子供英会話」等、様々なプログラムを行い、多くの参加者がおりましたが、お子さんの保育園・幼稚園入園と共にお仕事を始めるため、参加が困難となっています。いったん、人の流れが切れると集客の難しさがあります。現在は、高齢者向けのプログラムを提供し、地域との交流を図っています。状況は、この 10 年、様々に変化しましたが、いずれにしても、次の世代を覚えながら前向きに取り組むたいと願っています。

◇教団の同じ地区の教会とは物理的な距離があり、交流が難しい。教団を超えて近くの教会との交流を活性化することの方が、物理的に近道になるかと思うが、教派、教団の関係で難しさも感じる。小さな教会は、地域、近くの教会と有効な協力関係が、今後ますます重要になると思う。

次世代に対する働きにおいて、良い考え、メソッドが知れ渡ってきているので、それを実践できる状況が各教会、地域に整えられると同時に、専門的働き人、コーディネーター等とともに教会が働きを進めることが出来ると良いかと思う。

◇質問の言葉の説明が足りないうえに、理解が難しい質問や突っ込みたくなる質問いくつもあったので、答えるのに一苦労した。あと、ページを戻るという選択肢がないので、後で間違いに気づいても戻れなかった。もっと質問を練ってからアンケートを依頼してくださると助かります。

4.2.4 教会アンケートのまとめ

以上のようなアンケート調査の結果から、回答教会の最大公約数的な教会像としては、次のように表すことができるかと思う。

- ・首都圏の郊外型住宅地の都市部にあり、伝統的な中規模の教団に属する教会
- ・礼拝出席者数は大体 35 人程度で、過去 10 年間ほぼ変わらない
- ・教会員の年齢構成としては、50 歳代から 70 歳代が多い

上記のような教会像を前提として、「次世代育成」に関する最大公約数的な取り組み状況としては、次のように表すことができる。

- (1)「次世代育成」として、毎週定期的に行うプログラムがあり、幼児、小学生、中高生を対象とした教会学校を行っている。
- (2)「次世代育成」の活動を継続して行っていくための課題としては、次のようなものがあげられる。これらは、「次世代育成」のプログラムを定期的に行っていない教会が抱える課題と共通していると考えられる。
 - ①地域に子どもはいるが、人的なつながりや教会と地域とのつながりがないうえに生徒の出席者の確保が難しい。
 - ②牧師以外に人材がいない、或いは人材はいっても時間的な余裕がなかったり、対応能力に問題があるため、教師・スタッフの確保・教育が難しい
- (3) 教師、スタッフに対する研修内容としては、聖書の学びと実践的な学び(説教、牧会、リーダーシップ、カウンセリング、アドミニストレーションなど)が多い。
- (4) 教師、スタッフに対する研修方法としては、教会内と所属団体内での研修が多く、専門団体による教師養成セミナー等は比較的少ない。
- (5)「次世代育成」について地域の他の教会との連携としては、夏期学校やキャンプ、野外活動等を合同で行っている。
- (6) 近隣の青少年向けの宣教団体(KGK、hi-b.a.等)の集会と連携を取っている教会は、それほど多くはなく、今後宣教団体の集会やイベントに対象者を参加させたり、宣教団体のスタッフを教会の研修会の講師に招いたりして、人的な交流を図ることや、教会と宣教団体とが、互いに必要な情報を常に交換し合える関係を構築することが必要である。
- (7) 近隣のキリスト教学校と積極的に連携を取っている教会は少なく、近隣にキリスト教学校があっても連携を取っていない教会がある。キリスト教学校との具体的な連携内容としても、礼拝出席の受け入れがほとんどで、やや受け身的である。

- (8) 20-40代の結婚の問題についての取り組みとしては、カウンセリングによる個別指導が多いが、教団主催の婚活セミナーや婚活イベントの利用も多く見られる。
- (9) 結婚問題についての取り組みとしては、そもそも結婚適齢期の青年が教会に少ないことや、教団や教会が婚活に熱心に取り組んでも、当事者にその意欲や意識が薄いこと等も大きな課題としてあげられる。このことは、親に対する取り組みにも同様のことが言える。
- (10) 発達障害、知的障害、精神障害などを抱えた子供や青年がいる教会は、比較的多いが、その対処としては、特に何もしていない教会が多い。
- (11) その他、特別に記載すべき事項や、JEAに対するご意見・ご要望を項目別にまとめたものを、図37に示す。

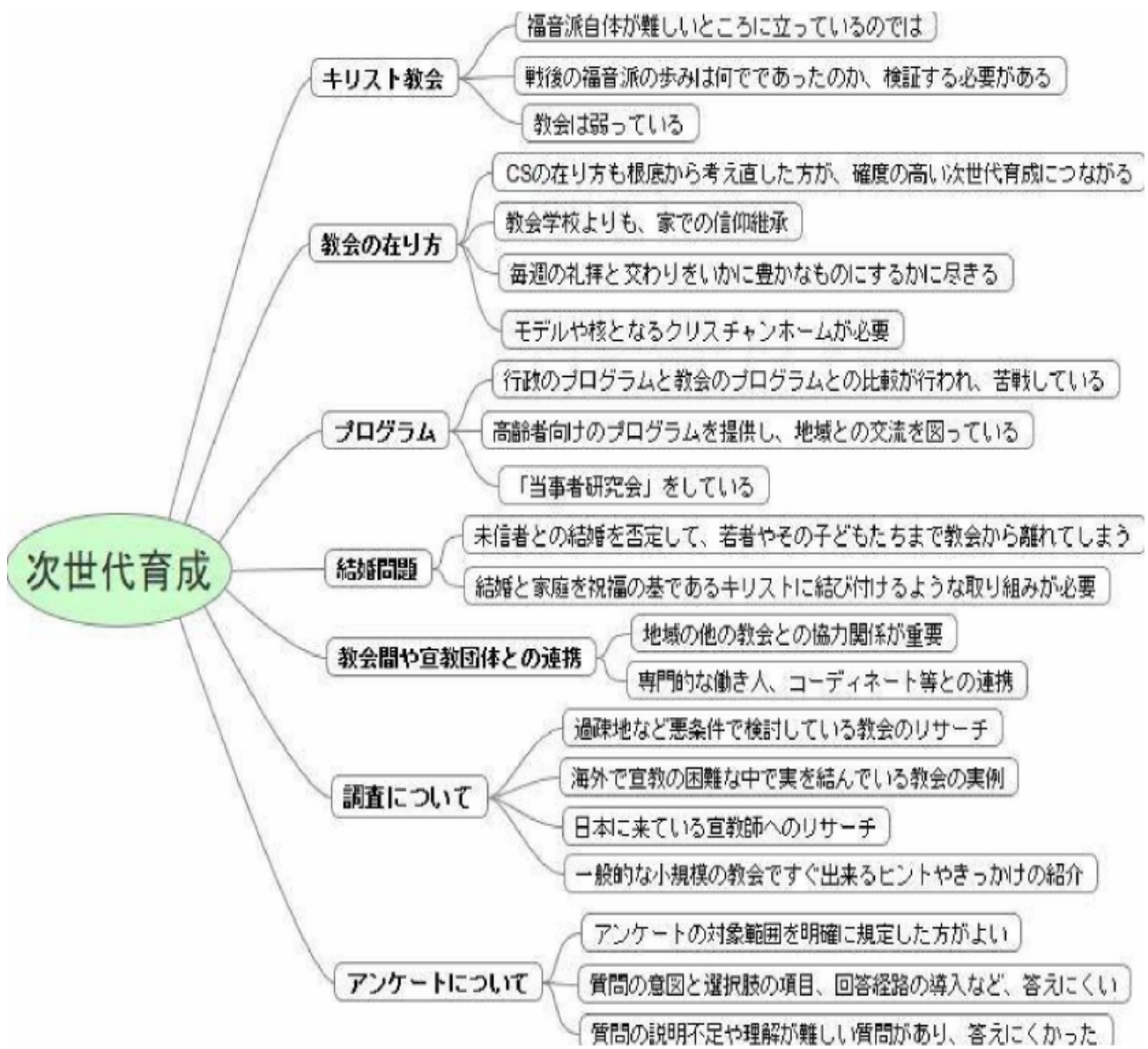


図 37 その他、特別に記載すべき事項や、JEA に対するご意見・ご要望

4.3 宣教団体の取組み状況の調査

4.3.1 回答のあった宣教団体の概要

(1)実施期間 : 2018年5月～12月

(2)調査対象 : 「次世代育成」に関係する宣教団体

(3)回答団体数 : アンケート発送数 : 29団体、有効回答数:13団体、回収率 : 44.8%

・「次世代育成」に関係すると思われる宣教団体として 29 団体にアンケート調査をお願いしたが、回答をいただいたのは、表 39 に示す 13 団体である。

表 39 アンケート調査にご協力いただいた団体

| No | 団体名 | 代表者 | | 対象・専門種別 | | | | | | | | | |
|----|-------------------------|------|--------|---------|-------|-------|-----------|------|---------|------|-----|-----|---|
| | | | | 児童伝道 | 中高生伝道 | 大学生伝道 | ユースミニストリー | ビジネス | 結婚・夫婦関係 | 家族関係 | 子育て | その他 | |
| 1 | MEBIGセミナー委員会 | 委員長 | 内越 努 | ○ | | | | | | | | | |
| 2 | CS成長センター「成長」 | 編集長 | 佐藤 祐子 | ○ | ○ | | ○ | | | | ○ | | |
| 3 | レインボー・ミニストリー | 代表 | 杉本 玲子 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | | |
| 4 | ワンホープ・ジャパン | 代表 | 宇賀 飛翔 | ○ | ○ | ○ | | | | | | | |
| 5 | AWANAジャパン | 理事長 | 横山 幹雄 | ○ | | | | | | | | | |
| 6 | 中学生聖書クラブ協力会 | 総主事 | 嶋田 博孝 | | ○ | | ○ | | | | | | ○ |
| 7 | 高校生聖書伝道協会 (hi-b. a.) | 代表役員 | 中台 孝雄 | | ○ | | | | | | | | |
| 8 | キリスト者学生会 (KGK) | 総主事 | 大嶋 重徳 | | | ○ | | | | | | | |
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | 代表 | 江渕 篤史 | | | ○ | | | | | | | |
| 10 | プリペアー・エンリッチJapan | 代表 | 西岡 まり子 | | | | | | | ○ | | | |
| 11 | 日本YWCA | 代表理事 | 実生 律子 | | | | | | | | | | ○ |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | 代表 | 玉井 邦美 | | | | | | | | | | ○ |
| 13 | ファミリーネットワーク | 代表 | 尾山 謙仁 | | | | | | | | | | ○ |

4.3.2 宣教団体アンケートの回答

<アンケートの設問と回答>

1.どのような基本理念（ビジョン・使命・祈り等含む）のもとに活動をされているでしょうか？

・各宣教団体の基本理念（ビジョン・使命・祈り等含む）を、表 40 に示す。

表 40 各団体の基本理念（ビジョン・使命・祈り等含む）

| 団体名 | 回答 |
|----------------------|--|
| MEBIGセミナー委員会 | 【MEBIGの理念】「子どもという子どもはいない。子どもという人間がいる。」 |
| CS成長センター「成長」 | ・教会学校教案誌「成長」とそのカリキュラム、関連教材、セミナーを通して、子どもたちの教いと成長を導き、またCS教師の育成や交流の場を提供する。 |
| レインボー・ミニストリー | ・「教会教育」「家庭教育」「学校教育」を含む「キリスト教教育」全体の推進のために仕える。 |
| ワンホープ・ジャパン | ・すべての子どもと青年に主のみことばを。(God's word, Every Child) |
| 中学生聖書クラブ協力会 | <p>＜聖書同盟(CSK) ミッションステートメント＞</p> <p>【ミッション】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聖書同盟・CSKは、子どもも大人も聖書のことばを通して主の救いに導かれ、みことばを愛し、みことばを愛する世代を育てたい。 ・聖書同盟は、その生涯を全うすることを助けます。 【ビジョン】 ・聖書同盟は、主との交わりの中に成熟し、礼拝者として主の教会を建て上げていくキリスト者の育成を助けたい。 ・聖書同盟は、主の御心に賛同し、聖書通読と信仰生活を助ける文書や教材を出版、作成し、頒布したい。 ・聖書同盟は、主の御心に賛同し、聖書のことばにより救われ、みことばを学び、信仰の確信に導かれ、主にありたい。 ・聖書同盟は、主の御心に賛同し、聖書のことばにより救われ、みことばを教える世代を導く奉仕者の育成のために教会に協力したい。 ・聖書同盟は、主の御心に賛同し、聖書のことばにより救われ、みことばを教える世代を導く奉仕者の育成のために教会に協力したい。 ・聖書同盟は、主の御心に賛同し、聖書のことばにより救われ、みことばを教える世代を導く奉仕者の育成のために教会に協力したい。 |
| 高校生聖書伝道協会 (hi-b. a.) | <p>・全ての高校生に福音を伝える。現時点では47都道府県に定期集会活動を行う目標を立てている。</p> <p>【KGKのことば】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キリスト者学生会 (KGK) 70周年にあたり、KGK学生、卒業生、主事、および支援協力するすべての主にある兄弟姉妹とともに、KGKを建て上げてきた礎のことばを宣明します。 <p>「置かれた地で福音に生きる」：福音の豊かさを知り、キリストの教会を建て上げ、全生活・全生涯をもって証する</p> <ol style="list-style-type: none"> (1)福音の豊かさを知る(福音主義) <ul style="list-style-type: none"> * 学生時代にキリスト者として、福音のホーリスティック(全包括的)な豊かさを知る * 神のことばである聖書を通して、福音の交わりを生かされる * 福音の豊かさを結実としての人格的交わりを成熟を目指す (2)キリストの教会を建て上げる(超教派) <ul style="list-style-type: none"> * キリストの教会を歴史的告白に基づき、教会から送り出され、互いに協力する * キリストの教会を歴史的告白に基づき、その重荷を担い、労苦をも喜び仕える * 福音の豊かさを結実としての人格的交わりを生かされる * 聖書の世帯を伴う信仰の成熟を目指す (3)全生活・全生涯をもって証する(学生主体) <ul style="list-style-type: none"> * 派遣意識と、主体的な交わりの形成を通して、隣人に福音を伝える * 聖書の世帯を伴う、学問、職業、全生活を通して証する * 神の国の完成を待ち望み、学内、日本、アジア世界の宣教に仕える * 現代学生に届く宣教に努めるため、組織および支援体制を構築する |
| キリスト者学生会 (KGK) | <p>日本キヤンパス・クルセード・フオー・クライスト</p> <p>【使命】「どこでも神の国ムーンメントを」〜地上の全ての人が、神の国のリアリティに生きる弟子を知っている〜</p> <p>・神のかたちである男女の結婚。その結婚の中で愛の実践がなされるように、カップルの結婚の準備をサポートし、既婚カップルの絆の成長を願ってすべての人に仕えることに活動しています。</p> |
| 日本YWCA | <p>【使命(ミッション)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する。 ・世界の人人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む。 【ビジョン】 ・地域で女性達が主体的に活動することを通して、以下の社会をめざします。 (1)平和憲法が生かされ、核も暴力もない社会 (2)女性と子どもが尊厳を守る社会 (3)若い女性がリーダーシップを発揮する社会 (4)多世代・多文化で多様な背景を持つ人びとを尊重する社会 |
| オアシス・チャーチ・ミニストリー | <p>(1)礼拝、特価メッセージ、また各種の信徒研修会のパログラムをもって、日本の諸教会を励ますこと。</p> <p>(2)家族、夫婦、親子セミナーなどを開催し、クリスチャンホーネスを励ますこと。</p> <p>(3)牧師夫婦へのカウンセリング、セミナーなどを通して、彼らを励ましその働きをサポートすること。</p> |
| ファミリーネットワーク | <p>・「日本のリバイバルは夫婦円満から」</p> |

2. 次世代を担う青少年や社会人に対する活動において、どのような時代の変化を感じられているでしょうか。また、今までのやり方やあり方に対して、どのようなチャレンジを受けておられるでしょうか。

・表 41 に、各宣教団体が感じている時代の変化、受けているチャレンジを示す。

表 41 感じている時代の変化、受けているチャレンジ

| No | 団体名 | 回 答 |
|----|-------------------------|--|
| 1 | MEBIGセミナー委員会 | <p>【感じている時代の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個を大切にしすぎる故に、間違った価値観やコミュニケーションのひずみ（コミ障）などが増えていると思う。クレマーが増えているのも、その一つだと思う。 <p>【受けているチャレンジ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MEBIGでは遊びを大切にしている。遊ぶことを通して成長していくことを常に考えている。 |
| 2 | CS成長センター「成長」 | <ul style="list-style-type: none"> ・聖書物語中心のCSでいいのかなど。中学生になると教会から「卒業」していってしまう（しかも同世代が少なく、励まし合うことができない）子どもたちの信仰の成長をどう助けられるのか。 |
| 3 | レインボー・ミニストリー | <ul style="list-style-type: none"> ・最近には特に次世代を意識したイベントが非常に増えてきたと思う。今後も、この傾向が日本中に広がり、継続して欲しいと願います。 |
| 4 | ワンホープ・ジャパン | <ul style="list-style-type: none"> ・文書伝道において、文字や絵、画像中心から動画中心に移行する必要がある。 |
| 5 | AWANAジャパン | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが忙しかったり（勉強・習い事・スポーツクラブなど）、楽しいイベントが多いため、教会学校や子ども集会などに子どもたちが集まらない。 ・奉仕者の高齢化と奉仕者の確保が難しい。 |
| 6 | 中学生聖書クラブ協会の | <ul style="list-style-type: none"> ・クリスチャン人口が約1%という状況が長く続き、一方で、一般の人々にグローバルな視点や関心が広がっています。聖書同盟はこれまで、3年に1度の「青少年国際キャンプ」によって、人生の早い段階に経験できる他の国の信仰者との交わりの機会を諸教会の若い人たちに提供してきました。この働きをさらに力を入れるため、2018年12月に「国際キャンプ委員会」を常設委員会としました。 |
| 7 | 高校生聖書伝道協会 (hi-b. a.) | <ul style="list-style-type: none"> ・選択肢が多く見える時代の中で、一見自由を獲得したように見えるが選択肢が多いゆえに、進路や生き方が定まらない青年や社会人が増えているように思える。ICTが発達したことによりオンライン上で人と人の繋がりが容易にできるようになったが、本来コミュニケーションは顔と顔を合わせてするもので、返って孤独を感じるものが増えたと思う。 ・今までのミニストリーは去年行われていた行事の繰り返しが多く見受けられるが、今後は目標を定め具体的に目標を達成する新たな試みと行動が必要だろう。（目標：日本全国に教会をバランスよく置き、地域の声を汲み上げ上げミニストリーを計画するなど）今後はオンラインの集会告知や福音のネット配信の可能性を考えていきたい。 |
| 8 | キリスト者学生会 (KKG) | <p>【感じている時代の変化】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションツールの変化（現在はSNSが主流）とそれに伴う人間関係作りの不得手（個人主義の蔓延、他人と深く関わることを苦手とする傾向など）。 ・学生の忙しさが増し（バブル経済の崩壊後、就職難に陥り、大学教育が就職者養成へとシフトチェンジした結果、学業がより大変になった）、それに伴い学生時代に人生について深く考える機会（例えば、人生の目的は何か？など）を失いつつある。 ・夫婦関係・親子関係に難しさを抱えている家庭が増えたため（クリスチャンホームも例外にあらず）、精神的に不安定な学生、精神的なケアを必要とする学生がより多くなった。 ・ライフスタイルが多様化し、それに対応しようとすると手間暇がかかる。 <p>【受けているチャレンジ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来の帰納的グループ聖書研究スタイルが現代学生に最適か ・従来の個人的な関係性を重視した学内伝道スタイルが現代学生に最適か |
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | <ul style="list-style-type: none"> ・若者の本質的な必要や求め（恋愛、アイデンティティー、人間関係など）は、今も変わっていませんが、過去20年間で、インターネットやSNSの急速な発達により、良くも悪くも日々受け取る世の情報量が急増し、互いのコミュニケーション方法に変化が生じているように感じています。 |

| No | 団体名 | 回 答 |
|----|------------------|--|
| 10 | プリベアー・エンリッチJapan | ・結婚においては、大きなチャレンジの時代となりました。婚活や関係構築のための学びの必要性が叫ばれている昨今です。結婚の関係は努力して築き上げるものなので、どのような努力をしたらよいのかを伝えていく責任を感じています。 |
| 11 | 日本YWCA | 【時代の変化】 ・若者の貧困、長時間労働によって枯渇していること。 ・そのため、思いがあってもボランティア活動等に参加できず、生活に追われて物事を考えることができない状況です。 ・人とのつながりが希薄となっていることも、若者を取り巻く現在社会の課題です。 【チャレンジ】 ・安心・安全ないい場所づくり ・自己肯定感の回復 |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | ・IT時代。魂の問題より、物や情報に関心のある時代。また、教会にも知らず知らず、世俗化の波が押し寄せている。従って教会はそんなに魅力的な場所ではなくなりつつあるのでは？ さらに、教会はミー主義に陥り、伝道へのチャレンジ、またその証し力がなくなりつつあるのでは？ ・方法論ではない。こういう時代だからこそ、聖書に立ち返り、み言葉に生き、今も生きて働かれる主のみわざを体験し、そのことを証して行くダイナミックな教会形成が必要だと思う。 |
| 13 | ファミリーネットワーク | ・効率主義に基づいた、キリスト教業界の「勢力拡大」に対して根本的な問題意識を感じています。次世代はその点に関して敏感に察知して、魅力を失っているのではないのでしょうか。 |

3.今年度の活動目標や、特に重点的に取り組む課題としては、どのようなものがあげられるでしょうか？

・表 42 に、各宣教団体の今年度の活動目標や、特に重点的に取り組む課題を示す。

表 42 今年度の活動目標及び重点的に取り組む課題

| No | 団体名 | 回 答 |
|----|-------------------------|--|
| 1 | MEBIGセミナー委員会 | ・特に今年は新会堂になったので、新しい魂の獲得が課題です。 |
| 2 | CS成長センター「成長」 | ・今後の教案誌、教材のあり方、CS教師の育成（メッセージの伝え方）の模索。 |
| 3 | レインボー・ミニストリー | ・ウェブでの「レインボーニュース」の公開を積極的に進めていきたい。 |
| 4 | ワンホープ・ジャパン | ・38万冊を配布。動画を通してみことばを届ける。 |
| 5 | AWANA ジャパン | ・Awanaプログラムを地域教会に紹介すること。 ・奉仕者の育成。 ・子どもの救い。 |
| 6 | 中学生聖書クラブ協力会 | ・第2回日本青年伝道会議（NSD II）の開催年でしたので、他の青年伝道団体との協力を心掛けました。しばらく、聖書同盟総主事の嶋田博考がCSK主事を兼任してきましたが、加えて2018年度、もう一人の非常勤主事として大條瑛子CSK協力主事を擁立しました。7月にhi-b. a. との協力が実現できて感謝でした（下記）。9月24日（月）～25日（火）に名古屋で開催された、JEA宣教フォーラム@東海とMission & U（ミッション・アンド・ユー）にも参加できました。嶋田と大條が参加しました。 |
| 7 | 高校生聖書伝道協会（hi-b. a.） | ・前で述べたポイントと被るが、オンラインネット配信の可能性とそれぞれ事情が異なる地域のニーズに応える福音的活動だろう |
| 8 | キリスト者学生会（KGK） | 【2018年度の活動目標・特に重点的に取り組む課題】 ・2019年2月開催の全国集会 ・被災地支援活動 |
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | 1. デジタル戦略の強化 2. 各都市の宣教チームの信頼&コーチング関係の強化 |
| 10 | プリベアー・エンリッチJapan | ・現在は、働きを紹介するために基本的な年4回の定期のファシリテーター養成講座と要請に応じて各地での養成講座を開催しています。私たちは、カップルに直接かかわるファシリテーターの養成と教育が主な働きとなります。 |
| 11 | 日本YWCA | ・若い女性の人材養成 |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | ・いつでも重点的に取り組まなければならないのは、聖書をしっかりと学び、神のみ心を知り、それに喜んで従い、神の栄光を現していくこと。 |
| 13 | ファミリーネットワーク | ・人的な目標設定はちょっと違うと思います。日々主の導きの中を歩んでいます。 |

4.今年度の活動内容やプログラムとしては、どのようなことを計画されているでしょうか？

・表 43 に、各宣教団体の今年度の活動内容やプログラムを示す。

表 43 今年度の活動内容やプログラム

| No | 団体名 | 回答 |
|----|-------------------------|--|
| 1 | MEBIGセミナー委員会 | ・国内各地及び海外でのMEBIGセミナー、MEBIG体験セミナーの開催。 |
| 2 | CS成長センター「成長」 | (回答無し) |
| 3 | レインボー・ミニストリー | ・「レインボーミニストリー」が主体的に何かを計画するというよりは、次世代ミニストリーに取り組んでいる方々とのネットワークを広げ、励まし合い、情報発信をしていきたい。 |
| 4 | ワンホープ・ジャパン | ・こども聖書クラブ。 4/14カンファレンス。 |
| 5 | AWANAジャパン | ・奉仕者の研修会。 ・Awanaクラブデモンストレーション ・子どもたち(Awanaクラブを超えた)交わり ・Awanaクラブをしている教会の訪問 ・子どもプロジェクトや4/14の窓の協力&参加 |
| 6 | 中学生聖書クラブ協力会 | ・7月21日(土)、福島県の郡山キリスト福音教会(木田恵嗣牧師)をお借りし、hi-b. a. (高校生聖書伝道協会)との協力により、「中高生のために祈る会」を開催しました。郡山市内と比較的近い距離にある諸教会に案内をし、16名の集会となりました。東北地区KGK(キリスト者学生会)の老松望主事も仙台から駆けつけてくださいました。hi-b. a.からは川口竜太郎代表スタッフ、聖書同盟からは総主事兼CSK主事の嶋田博考と稲垣博史理事長が参加しました。 |
| 7 | 高校生聖書伝道協会(hi-b. a.) | ・定期集会・キャンプ・特別集会 |
| 8 | キリスト者学生会(KGK) | 【2018年度の活動内容・プログラム】 ・全国9地区における学生による主体的な取り組み ・全国的な取り組み ①NET:2020年2月開催の全国学生訓練会の準備 ②Global Mission:海外交流ツアー、留学生伝道、世界宣教への励まし、帰国者フォロー ③Material:聖書研究テキスト作成、ブックレット作成 ④Social Engagement:被災地支援活動、被造物ケアの学び、教会と国家の学び ⑤Partnership:JEAとの関わり、日本ローザンヌ委員会と関わりなど ⑥Research:学生宣教に関する調査 |
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | 1. 宣教のデジタル戦略を見直すためのタスクフォース・チーム結成と取組み(2019年3月に学生対象のデジタル宣教トレーニングを神戸で開催予定) 2. 御霊による歩みを励ますため、男性スタッフ・リトリートを10月に企画。「霊的な聖さ」(性・高慢・金銭の問題)に関するテーマ。期待する結果→リトリート後、スタッフ間で定期的に正直の内面がシェアされ、互いに責任を負い合う関係が築かれていく。 その結果として、学生間においても、成長に必要な不可欠なアカウンタビリティ関係が生まれていく。 |
| 10 | プリペアー・エンリッチJapan | ・基本的な年4回の定期的ファシリテーター養成講座と要請に応じて各地での養成講座を開催しました。2月には、子育てバージョンの学び会を開催予定です。 |
| 11 | 日本YWCA | ・ひろしまを考える旅 ・日韓ユースカンファレンス ・中高YWCA地区カンファレンス |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | ・教会における継続した信徒教育 |
| 13 | ファミリーネットワーク | ・人的な目標設定はちょっと違うと思います。日々主の導きの中を歩んでいます。 |

5. それらの活動やプログラムを実施する上で、具体的なテキストや教材等がありますか？ ある場合は、具体的に教えてください。

・各宣教団体が、使用しているテキストや教材等を表 44 に示す。

表 44 使用しているテキストや教材

| No | 団体名 | 回 答 |
|----|-------------------------|---|
| 1 | MEBIGセミナー委員会 | (回答無し) |
| 2 | CS成長センター「成長」 | (回答無し) |
| 3 | レインボー・ミニストリー | ・「4/14の窓」グローバル・カンファレンスで、世界中のプレゼンから情報を得るようにしている。カンファレンスの発表や資料から情報を得ている。 |
| 4 | ワンホープ・ジャパン | ・こども聖書アプリと独自スクリプト。 |
| 5 | AWANAジャパン | ・2歳児～高校生までのAwanaクラブのテキスト (奉仕者用の教案、奉仕者基礎訓練マニュアル、ゲーム集・イベントアイデア集) |
| 6 | 中学生聖書クラブ協力会 | ・聖書通読を兼ねたデボーションガイドである「月刊ジュニアみことばの光」(通称「ジュニみこ」)を毎月発行しています。聖書日課は5年で聖書66巻を読み進めます。2019年4月号から表紙デザインをリニューアルし、定価300円から定価330円に価格改定をします。 |
| 7 | 高校生聖書伝道協会 (hi-b. a.) | ・デボーションガイド・HIBAテキスト |
| 8 | キリスト者学生会 (KGK) | <ul style="list-style-type: none"> ▪ 決まったテキストや教材はない ▪ KGKで作成しているマテリアルを使う場合もある(学生の自由) |
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | ・特にはありませんが、担当者が韓国やアメリカのセミナーを受講して、学んだテキストなどを参考にはします。 |
| 10 | プリペアー・エンリッチJapan | ・米国で家族療法の先駆者オルソン博士により作られた、カウンセリング用のプログラムがあります。約200問の質問への回答で、カップルの関係を分析し、ワークブックを用いて関係を構築していくプログラムです。そのファシリテーター養成のためのテキストなどもそろっています。11か国語で翻訳されており、35年に渡り世界中で用いられているプログラムです。 |
| 11 | 日本YWCA | ・テキストや教材はありませんが、YWCAのミッション・ビジョンを伝えるための材料として、「YWCAハンドブック」「YWCAブックレット」「機関紙」などがあります。 |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | ・教団発行のテキストもあるが、ほとんど自作のテキストを用いている。 |
| 13 | ファミリーネットワーク | ・基本的には恵みによる福音理解と律法主義からの解放です。「恵みの歩み」(絶版) |

6. 活動拠点と活動拠点別のスタッフ数（専任・常勤スタッフ、協力スタッフ）を教えてください。

・各宣教団体の活動拠点と活動拠点別のスタッフ数を、表 45 に示す。

表 45 活動拠点と活動拠点別のスタッフ数

| No | 団体名 | 回 答 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|-------------------------|---|------------|----|--------|--|--|----|------------|---|---|-----|---|--|---|----|---|--|---|----|---|--|---|---|----|---|---|----|----|---|---|---|---|----|---|---|---|-----|---|--|---|---|----|---|--|---|----|--|---|---|----|---|---|---|----|--------|---|--|---|------|---|--|---|-----|---|--|---|-----|---|--|---|----|----|----|----|
| 1 | MEBIGセミナー委員会 | ・教役者：6名、コンサルタント：2名、有給スタッフ：3名、 児童伝道（MEBIG）の教師・スタッフ：60名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 | CS成長センター「成長」 | ・正職員：1、嘱託：1、アルバイト：1、執筆者、協力者：約20名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 | レインボー・ミニストリー | ・専任スタッフはいない。活動拠点となる事務所もない。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 | ワンホープ・ジャパン | ・シェアオフィス1ヶ所。常勤スタッフ：1名、協力スタッフ：1名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 | AWANAジャパン | ・Awana事務所：石川県河北郡内灘町3-13 ・スタッフ：内灘2名（東日本担当主事、西日本担当主事） 新潟1名（新潟・東北担当主事） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 中学生聖書クラブ協力会 | ・関東および全国：聖書同盟総主事兼CSK主事1名、CSK協力主事1名（非常勤） 関西地区：関西地区CSKキャンプアドバイザー1名（ボランティア） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 | 高校生聖書伝道協会（hi-b. a.） | ・関東（15名）・東海（4名）・関西（6名）・東北（1名）・九州（1名） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 | キリスト者学生会（KGK） | <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">2018年度</th> </tr> <tr> <th>常勤</th> <th>非常勤 ・GA</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">北</td> <td>北海道</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>東北</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>北陸</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">東</td> <td>関東</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>東海</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">西</td> <td>関西</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>中四国</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">南</td> <td>九州</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>沖縄</td> <td></td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>国際</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">全国</td> <td>学生宣教局長</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>卒業生会</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>事務局</td> <td>4</td> <td></td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>総主事</td> <td>1</td> <td></td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>23</td> <td>13</td> <td>36</td> </tr> </tbody> </table> | | | 2018年度 | | | 常勤 | 非常勤 ・GA | 計 | 北 | 北海道 | 1 | | 1 | 東北 | 1 | | 1 | 北陸 | 1 | | 1 | 東 | 関東 | 6 | 5 | 11 | 東海 | 1 | 1 | 2 | 西 | 関西 | 3 | 2 | 5 | 中四国 | 1 | | 1 | 南 | 九州 | 1 | | 1 | 沖縄 | | 1 | 1 | 国際 | 1 | 4 | 5 | 全国 | 学生宣教局長 | 1 | | 1 | 卒業生会 | 1 | | 1 | 事務局 | 4 | | 4 | 総主事 | 1 | | 1 | 合計 | 23 | 13 | 36 |
| | | 2018年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 常勤 | 非常勤 ・GA | 計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 北 | 北海道 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 東北 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 北陸 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 東 | 関東 | 6 | 5 | 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 東海 | 1 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 西 | 関西 | 3 | 2 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 中四国 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 南 | 九州 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 沖縄 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 国際 | 1 | 4 | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 全国 | 学生宣教局長 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 卒業生会 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 事務局 | 4 | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 総主事 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | 合計 | 23 | 13 | 36 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | ・スタッフ数：岩手：2名、東京：22名（短期宣教師17名）、 横浜：2名、静岡：1名、名古屋：8名、大阪：6名、 京都2名、神戸：7名、福岡4名 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | プリペアー・エンリッチJapan | ・活動根拠地は代表の所在地で（〒350-0854 川崎市寺井240-1）、 代表1名、協力ボランティア2名、ファシリテーターは各地に140名程います。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 日本YWCA | ・活動拠点：24地域YWCA、学校YWCA（中学校・高等学校）37校 ・日本YWCA（ナショナルオフィス）のスタッフ：9名（フルタイム6、 短時間正職員1、パートタイム2） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | ・教会には専任者はひとりもない（それぞれ仕事を掛け持ち）。 でも教会運営は開拓当初からの献身した6名のスタッフで行っている。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

7. 今後、活動を維持・発展させていくために必要なこと（もの）、或いは不足していることは何でしょうか？

- ・各宣教団体が、活動を維持・発展させていくために必要なこと（もの）、或いは不足していることを、表 46 に示す。①～④各項目の全ての必要、不足をあげる団体が多い。

表 46 活動を維持・発展させるために必要なこと、或いは不足していること

| No | 団体名 | ① ・ス タ フ ツ フ の 確 保 | ② リ ー ダ ー の 育 成 | ③ 活 動 資 金 | ④ 地 域 教 会 の 協 力 | ⑤ そ の 他 | コメント |
|----|-------------------------|--|--------------------------------------|-----------------------|--------------------------------------|------------------|--|
| 1 | MEBIGセミナー委員会 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ・全部必要で、全部不足している。お友達伝道の重要性の理解が必要。 |
| 2 | CS成長センター「成長」 | ○ | ○ | | | | |
| 3 | レインボー・ミニストリー | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ・全て必要だが、ないものに目を向けるのではなく、与えられているものを感謝して用いていきたい。超教派団体、教団・教派の壁を越えて、次世代のための働きが広がって欲しいと祈る。 |
| 4 | ワンホープ・ジャパン | | | | ○ | | |
| 5 | AWANAジャパン | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ・全て必要。地域教会が次世代のために、活動、人材、財産、時間をもっとかける必要がある。 |
| 6 | 中学生聖書クラブ協力会 | ○ | ○ | ○ | ○ | | ・教会協力の大切さを理解し、個々の地域教会のあり方を尊重でき、所属教会からの理解を得て送り出される、中高科教師・スタッフが必要です。聖書信仰に立ち、神学教育を受けた、ある程度の人数のジュニみこ執筆者と、中期的に責任を担うジュニみこ編集責任者の人材が絶えず必要としています。 |
| 7 | 高校生聖書伝道協会 (hi-b. a.) | ○ | ○ | ○ | ○ | | |
| 8 | キリスト者学生会 (KGK) | ○ | | ○ | | | |
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | ○ | ○ | ○ | ○ | | ・本来は私たちが教会の必要を知り、それに仕えるべきですが、敢えて申し上げさせて頂けるならば、もっとCCCを信頼し、クリスチャン学生を送って頂けるように成長出来ればと願っています。 |
| 10 | プリペアー・エンリッチJapan | ○ | ○ | ○ | | | |
| 11 | 日本YWCA | ○ | ○ | ○ | ○ | | ・YWCAの活動を知っていただきご協力いただくために教会訪問をしています。礼拝後に少し時間をいただき、活動への参加とご寄付のお願いをさせていただきたく、お願いいたします。 |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | | ○ | | | ○ | ・クリスチャンホームの増加と育成。青年達の訓練育成 |
| 13 | ファミリーネットワーク | | | | ○ | | ・本音の交わりが大切だと思います。 |

8. 「次世代育成」のために、他の宣教団体や地域教会、キリスト教系学校等とどのような連携を期待されますか？

- ・他の宣教団体や地域教会、キリスト教系学校等との連携として期待することを、表 47 に示す。各団体が定期的に集まって学び会や意見交換の場を持つとか、合同のイベントを開催する等の協力関係の構築を求める意見が多い。

表 47 他の宣教団体や地域教会、キリスト教系学校等との連携

| No | 団体名 | 回 答 |
|----|-------------------------|---|
| 1 | MEBIGセミナー委員会 | ・神学校で授業を持つことと、セミナーへの教会による積極的参加を期待します。 |
| 2 | CS成長センター「成長」 | ・幼児から大学生までの宣教にかかわる団体の意見交換の場 |
| 3 | レインボー・ミニストリー | ・定期的に集まって、交わり、学び合う、ゆるい協力関係が継続されるよう祈る。 |
| 4 | ワンホープ・ジャパン | ・次世代育成のためのイベントを、各地方都市で開催できるためのネットワークと仕組み。 |
| 5 | AWANAジャパン | ・定期的に学びの時を持ったり、合同で子ども会やキャンプなどできたらよいと思う。 |
| 6 | 中学生聖書クラブ協力会 | ・hi-b. a. スタッフをCSKキャンプの講師としてお招きしています。また、上に記したとおり、hi-b. a. と新たな地域での展開において協力を進めています。KGKの元総主事や現総主事をCSK教師研修会の講師としてお招きしています。継続したいと思います。 |
| 7 | 高校生聖書伝道協会 (hi-b. a.) | ・中高生セミナー開催にあたっての協力 |
| 8 | キリスト者学生会 (KGK) | <ul style="list-style-type: none"> ▪ 地域教会の若い教職者にKGKで奉仕していただく「協力者」制度をさらに充実させ、賜物や情熱がある働き人が活躍できる場所を提供したい。 ・神学校の神学生がKGKで奉仕をし、単位認定される「インターンシップ」制度を作っていきたい。 |
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | (回答無し) |
| 10 | プリペアー・エンリッチJapan | ・結婚の働きをしている団体と 結婚への準備をする世代へ働き掛けられたと願っています。 |
| 11 | 日本YWCA | ・キリスト教を基盤として活動するYWCAは、地域の教会のバザーに参加したり、教会を活動の拠点としているYWCAもあります。また、キリスト教学校37校が日本YWCAに加盟し、地区カンファレンスや全国カンファレンスを実施しています。これらの関係をさらに強めたいと考えます。 |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | ・毎年、東京キリスト教学園からの実習生が来てくれるので、青年たちには良きチャレンジとなっている。 |
| 13 | ファミリーネットワーク | (回答無し) |

9. 「次世代育成」に対し、地域教会やキリスト教系学校に対する要望事項はありますか？

- ・ 宣教団体から、地域教会やキリスト教系学校に対する要望事項を表 48 に示す。各団体の活用を要望する意見が多い。

表 48 地域教会やキリスト教系学校に対する要望事項

| No | 団体名 | 回 答 |
|----|-------------------------|--|
| 1 | MEBIGセミナー委員会 | ・ セミナーへの参加 |
| 2 | CS成長センター「成長」 | ・ 特にない |
| 3 | レインボー・ミニストリー | ・ 可能であれば、ミッション系の学校に通う生徒や学生に「教会出席」をより積極的に勧めて欲しい。ミッションスクールで働くことを希望する学生のために、クリスチャン教員の募集の情報を。 |
| 4 | ワンホープ・ジャパン | ・ あなたの町でイベントを要望されているなら、4/14チームに問合せしてください。 |
| 5 | AWANAジャパン | (回答無し) |
| 6 | 中学生聖書クラブ協力会 | ・ 教会学校中高科との連携、キリスト教系学校の学校礼拝や聖書の授業との連携。 「ジュニみこ」は、新共同訳聖書でもできるようになっていますので、礼拝出席のために教会を訪れるミッションスクールの中高生、ミッションスクールにおいて聖書や教会に対して関心を示す様子が見られる中高生のために、広く用いていただきたいです。 |
| 7 | 高校生聖書伝道協会 (hi-b. a.) | ・ 定期集会活動の連携 または校内の聖書の学びを担当する可能性 |
| 8 | キリスト者学生会 (KGK) | <要望事項> ・ 教会にいる学生をぜひ積極的にKGKに送り出していきたいと思っています。諸教会から送り出されていた学生たちを、諸教会との協力の下で大切に育てていきたいと思っています。私たちも、教会から喜んで学生を送り出していただけるといいようなKGKであるように、今後も努力していきたいと思っています。 |
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | ・ 若者に宣教の機会（証、伝道。宣教旅行など）を与え、一生涯に渡って失われた魂への重荷を育む育成ができるよう心から応援して頂ければ幸いです。 自分に死に、入を生かそうとする宣教のコンテキストの中に次世代育成の可能性が秘められています。 |
| 10 | プリペアー・エンリッチJapan | <要望事項>教会で結婚に関する学び、結婚準備や夫婦に対するカウンセリングなどを担当する人材を育てる協力をさせていただきたい。 |
| 11 | 日本YWCA | (回答無し) |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | ・ 特にない |
| 13 | ファミリーネットワーク | ・ 特にない |

10. 「次世代育成」に対して、特に注目される教会の取り組み例（モデルケース等）をご存知でしたらご紹介ください。（複数可）

- ・中学生聖書クラブ協力会から、表 49 の教会の紹介があった。

表 49 特に注目される教会の取り組み例（モデルケース等）

| No | 紹介団体名 | 教会名 | 内容 |
|----|-------------|-----------------|---|
| 7 | 中学生聖書クラブ協力会 | 福音交友会 昭和聖書教会 | ・教会学校の子どもたちに世界宣教の大切さを教える機会として、他の国のスクリプチャー・ユニオンの働きを子どもたちに紹介してくださる。聖書同盟CSKを世界宣教団体として見てくださる。 |

11. 「次世代育成」に対してご意見や提言があれば、なんでも結構ですからお願いたします。

- ・表 50 に、各団体からの「次世代育成」に対するご意見や提言を示す。

表 50 「次世代育成」に対する意見や提言

| No | 団体名 | 回答 |
|----|-------------------------|--|
| 5 | AWANAジャパン | ・(8)項と関連するが、学びや子ども会、キャンプなどを各地域ごとで中心になってくださる方がいないと難しいと思う。 |
| 7 | 高校生聖書伝道協会 (hi-b. a.) | ・特になし |
| 8 | キリスト者学生会 (KGK) | ・特にありません。 |
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | ・霊的リーダーの育成のためには、イエスがされたように宣教というコンテキストの申で人を育てることが一つの鍵かと思えます。若者にとって集会中心の信仰生活から、いかに地道な生活の場での信仰生活を教えるかも重要な気がします。そのためには、若者に忍耐強く関わり続ける霊的メンターが必要です。 |
| 10 | プリペアー・エンリッチJapan | ・結婚への準備も次世代育成の大切な一部になると思われる。どうかして、その領域でのお手伝いできていたらと思います。 また、親世代が良い夫婦の見本を見せてくだされば、一番大きな影響を与えることができることでしょうか。 |
| 11 | 日本YWCA | ・YWCAが主催するユース関連プログラムのチラシや機関紙を、教会内においていただき、次世代の皆さんへご紹介くださいましたら幸いです。 |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | ・教会が生き生きと霊に燃え、主に仕え、主を崇めて行くこと。そして何よりも、そういう中で多くの魂が救われ、喜びに満ち溢れていること。そのような生きた教会こそ、次世代の若者たちにチャレンジを与え、彼らを育成して行く最高の土台となる（私個人の経験より） |
| 13 | ファミリーネットワーク | ・育てるのではなく、自分たちの在り方が問われていると思います。子は親の背中を見て育ちます。私たちが本当にエンジョイして生きているのか、せこい自己中心的な「成長」「勢力拡大」を目指しているのかは次世代が察知します。魅力がなければ世代交代はありません。 |

12.その他、特別に記載すべき事項や、日本福音同盟宣教委員会に対するご意見・ご要望がありましたらお書きください。

- ・特別に記載すべき事項や、JEA 宣教委員会に対する意見、要望を表 51 に示す。

表 51 特別に記載すべき事項や、JEA 宣教委員会に対する意見、要望

| No | 団体名 | 回 答 |
|----|-------------------------|---|
| 9 | 日本キャンパス・クルセード・フォー・クライスト | ・このようなアンケート調査を下さり、本当にありがとうございます。主が次世代育成のために宣教委員会を用いて下さいますようお願い致します。 |
| 10 | プリペアー・エンリッチJapan | ・今のところ特にありません。このようなお働きを感謝いたします。 |
| 11 | 日本YWCA | ・いつも活動へのご理解とご協力をありがとうございます。 |
| 12 | オアシス・チャーチ・ミニストリー | ・青年たち主催の伝道フェスティバル（集会）のようなものがあったらどうでしょうか？ |

4.4 キリスト教学校の取組み状況の調査

4.4.1 回答のあったキリスト教学校の概要

(1)実施期間 : 2018年5月～12月

(2)調査対象 : 451校(日本全国のプロテスタントのキリスト教学校)

(3)回答学校数: 37校、回答率: 8.2%

(4)回答学校 :

- ・アンケートの回答があった学校を表52に示す。地域的にも東京、神奈川が多い(表53)。また、回答のあった学校のクリスチャン専任教員の分布を図37に示す。

表 52 アンケート回答学校

| No. | 学校名 | 所在地 | 学校種別 | | | クリスチャン 教員の割合% | |
|-----|-----------------|------|------|-------------|-------------|------------------|------|
| | | | 小学校 | 中学・ 高等学校 | 短期大学 ・大学 | 専任 | 非常勤 |
| 1 | 群馬フェリーチェ玉村国際小学校 | 群馬県 | ○ | | | 26 | 5 |
| 2 | 青山学院初等部 | 東京都 | ○ | | | 80 | 30 |
| 3 | 啓明学院初等学校 | 東京都 | ○ | | | 16 | 20 |
| 4 | 捜真小学校 | 神奈川県 | ○ | | | 77 | 63 |
| 5 | 関東学院小学校 | 神奈川県 | ○ | | | 30 | 31 |
| 6 | 北陸学院小学校 | 石川県 | ○ | | | 55 | 15 |
| 7 | ときわの森三愛高等学校 | 北海道 | | ○ | | 16 | 32 |
| 8 | 東奥義塾高等学校 | 青森県 | | ○ | | 6 | 50 |
| 9 | 盛岡大学附属高等学校 | 岩手県 | | ○ | | 0.06 | 0 |
| 10 | 盛岡スコール高等学校 | 岩手県 | | ○ | | 3 | 15 |
| 11 | 宮城学院中学校・高等学校 | 宮城県 | | ○ | | 40 | 13 |
| 12 | 聖学院中学校・高等学校 | 東京都 | | ○ | | 35 | |
| 13 | 玉川聖学院 | 東京都 | | ○ | | 74 | 56 |
| 14 | 女子聖学院中学校・高等学校 | 東京都 | | ○ | | 79 | |
| 15 | 捜真女学校 | 神奈川県 | | ○ | | 54 | |
| 16 | 関東学院六浦中学校・高等学校 | 神奈川県 | | ○ | | 20 | 3 |
| 17 | 横須賀学院 | 神奈川県 | | ○ | | 19.3 | 20.8 |
| 18 | アレセイア湘南中学・高等学校 | 神奈川県 | | ○ | | 10 | 10 |
| 19 | 横浜女学院 | 神奈川県 | | ○ | | 8 | 13 |
| 20 | 北陸学院 | 石川県 | | ○ | | 27 | |
| 21 | 山梨英和中学校・高等学校 | 山梨県 | | ○ | | 30 | |
| 22 | 聖隷クリストファー中・高等学校 | 静岡県 | | ○ | | 6 | 4 |
| 23 | 平安女学院中学校・高等学校 | 京都府 | | ○ | | 10 | 0.4 |
| 24 | 啓明学院中学・高校 | 兵庫県 | | ○ | | 26 | 19 |
| 25 | 日ノ本学園高等学校 | 兵庫県 | | ○ | | 10 | 10 |
| 26 | 広島女学院中・高等学校 | 広島県 | | ○ | | 19 | 8 |
| 27 | 西南学院中学校・高等学校 | 福岡県 | | ○ | | 26 | 21 |
| 28 | 折尾愛真高等学校 | 福岡県 | | ○ | | 14 | 12 |
| 29 | ルーテル学院中学・高校 | 熊本県 | | ○ | | 20 | 20 |
| 30 | 青山学院女子短期大学 | 東京都 | | | ○ | | |
| 31 | 青山学院 | 東京都 | | | ○ | 13 | |
| 32 | 国際基督教大学 | 東京都 | | | ○ | 100 | 不明 |
| 33 | フェリス女学院大学 | 神奈川県 | | | ○ | 15 | 不明 |
| 34 | 同志社女子大学 | 京都府 | | | ○ | 若干 | 若干 |
| 35 | 大阪女学院短期大学 | 大阪府 | | | ○ | 57 | 不明 |
| 36 | 大阪女学院大学 | 大阪府 | | | ○ | 48 | 不明 |
| 37 | 西南学院大学 | 福岡県 | | | ○ | 16.6 | 不明 |
| | 計 | | 6 | 23 | 8 | | |

表 53 都道府県別回答学校数

| | 小学校 | 高等学校 ・ 中学 | 短期大学 ・ 大学 |
|------|-----|-----------------|-----------------|
| 北海道 | | 1 | |
| 青森県 | | 1 | |
| 岩手県 | | 2 | |
| 宮城県 | | 1 | |
| 秋田県 | | | |
| 山形県 | | | |
| 福島県 | | | |
| 茨城県 | | | |
| 栃木県 | | | |
| 群馬県 | 1 | | |
| 埼玉県 | | | |
| 千葉県 | | | |
| 東京都 | 2 | 3 | 3 |
| 神奈川県 | 2 | 5 | 1 |
| 新潟県 | | | |
| 富山県 | | | |
| 石川県 | 1 | 1 | |
| 福井県 | | | |
| 山梨県 | | 1 | |
| 長野県 | | | |
| 岐阜県 | | | |
| 静岡県 | | 1 | |
| 愛知県 | | | |
| 三重県 | | | |
| 滋賀県 | | | |

| | 小学校 | 高等学校 ・ 中学 | 短期大学 ・ 大学 |
|------|-----|-----------------|-----------------|
| 京都府 | | 1 | 1 |
| 大阪府 | | | 2 |
| 兵庫県 | | 2 | |
| 奈良県 | | | |
| 和歌山県 | | | |
| 鳥取県 | | | |
| 島根県 | | | |
| 岡山県 | | | |
| 広島県 | | 1 | |
| 山口県 | | | |
| 徳島県 | | | |
| 香川県 | | | |
| 愛媛県 | | | |
| 高知県 | | | |
| 福岡県 | | 2 | 1 |
| 佐賀県 | | | |
| 長崎県 | | | |
| 熊本県 | | 1 | |
| 大分県 | | | |
| 宮崎県 | | | |
| 鹿児島県 | | | |
| 沖縄県 | | | |
| 計 | 6 | 23 | 8 |

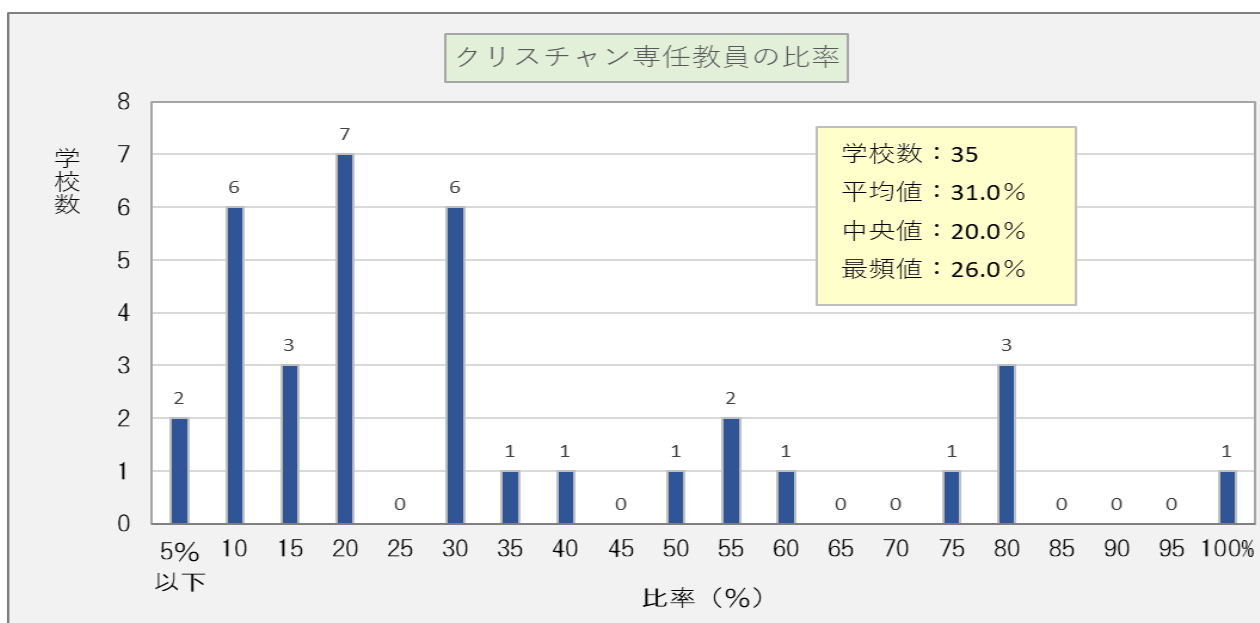


図 38 クリスチャン専任教員の比率

4.4.2 キリスト教学校アンケートの回答

＜アンケートの設問と回答＞

1.貴校では、建学の精神を維持発展させるため、学内においてどのような生徒への取り組みをされていますか？

- ・回答のあった小学校、中学・高等学校の全てで、「聖書授業」「礼拝」が必修となっている（表 54）。

表 54 建学の精神を維持発展させるための取り組み

| 取り組み内容 | 小学校 | 中学・ 高等学校 | 短期大学 ・大学 | 計 |
|-----------------------|-----|-------------|-------------|----|
| ①聖書授業, 必修 | 6 | 23 | 8 | 37 |
| ②聖書授業, 選択 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| ③礼拝, 必修 | 6 | 23 | 3 | 32 |
| ④礼拝, 選択 | 0 | 0 | 5 | 5 |
| ⑤その他の宗教行事 | 4 | 20 | 8 | 32 |
| ⑥ボランティア | 3 | 18 | 6 | 27 |
| ⑦個人的な信仰指導・ カウンセリング | 1 | 5 | 4 | 10 |
| ⑧その他 | 0 | 0 | 0 | 0 |

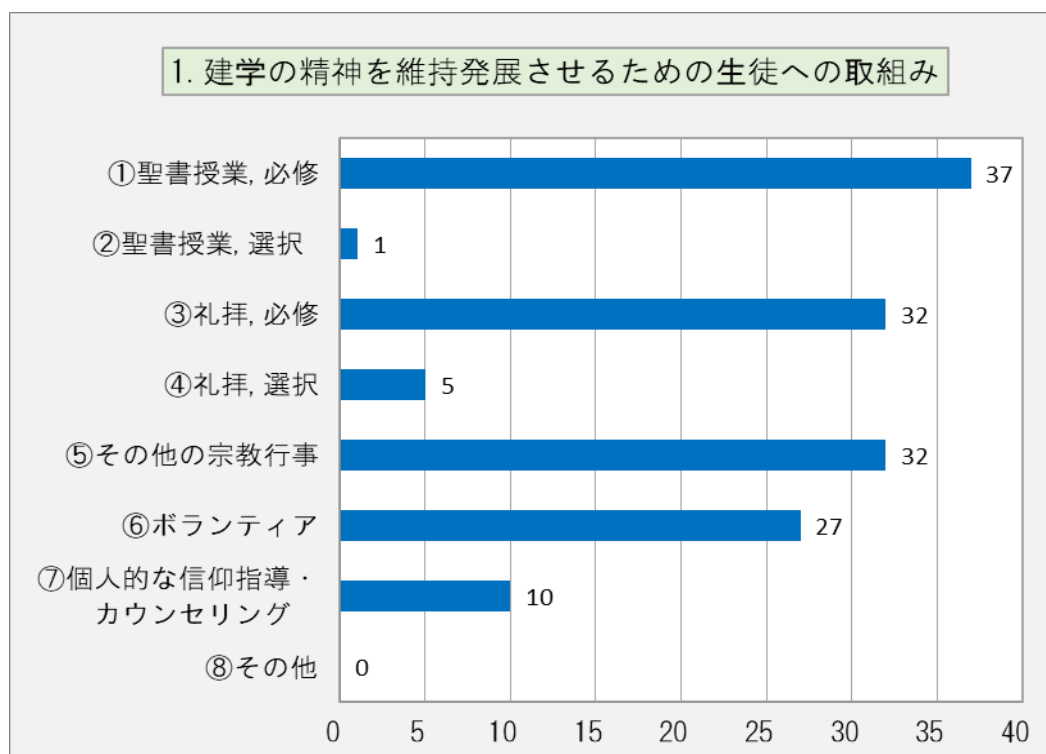


図 39 建学の精神を維持発展させるための取り組み

2. 貴校においては、建学の精神に沿って、近隣の地域教会や学生・生徒対象の宣教団体との連携の取り組みはされていますか？

- ・回答のあった中学・高等学校の80%は、近隣の地域教会との連携を取っているが、宣教団体との連携は約40%となっている（表55）。

表 55 近隣の地域教会や宣教団体との連携

| 取組み内容 | 小学校 | 中学・高等学校 | 短期大学・大学 | 計 |
|---------------------------|-----|---------|---------|----|
| ①特に連携の必要を感じていない | 0 | 1 | 1 | 2 |
| ②必要を感じているが、現在のところ連携はしていない | 2 | 3 | 0 | 5 |
| ③近隣の教会と連携をしている | 3 | 19 | 3 | 25 |
| ④宣教団体と連携をしている | 1 | 9 | 4 | 14 |
| ⑤その他 | 1 | 1 | 4 | 6 |

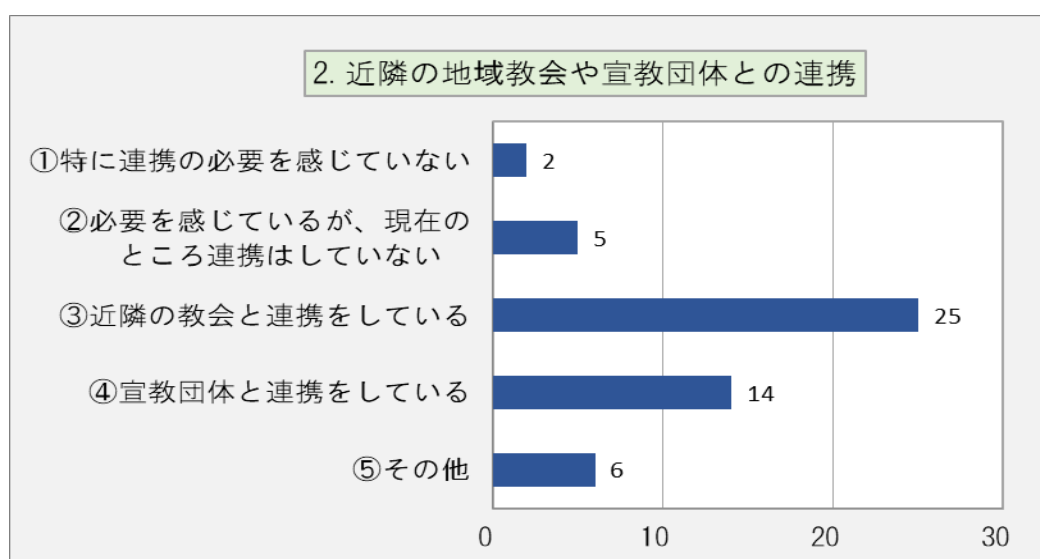


図 40 近隣の地域教会や宣教団体との連携

<その他の回答>

- ・小学生なので取り組みの機会がない。（群馬フェリーチェ玉村国際小学校）
- ・建学の精神に沿って連携しているのではなく、生徒がお世話になっている教会があるので、必要に応じ情報交換をしている（盛岡スコール高等学校）。
- ・学内に地域に開かれた教会を設立（国際基督教大学）
- ・礼拝に近隣の牧師を招いて奨励していただく（大阪女学院短期大学、大阪女学院大学、同志社女子大学）

3. 2項、②の場合、どのような必要を感じていますか？

- ・特別礼拝にいらしていただいたり、聖書科カリキュラムに助言をいただいたりできる関係を築きたい。(啓明学院初等学校)
- ・地域の教会に生徒たちを送り出しているがうまく定着しない。全校礼拝の講師に近隣教会牧師や宣教団体スタッフを招いているが、それ以上に進展しない。(聖学院中学校・高等学校)
- ・信仰の定着、伝道(捜真女学校)
- ・ミッションスクール福音主義協議会のようなものを作り、福音派の教会とミッションスクールへの奉仕者の相互協力支援組織が必要です。(横浜女学院)

4. 2項、③の場合、それはどのような取り組みですか？

- ・回答のあった中学・高等学校のほとんどが、近隣の教会との連携として、「教会訪問およびレポート課題の提出」「礼拝出席の奨励」を行っている(表56)。

表 56 近隣の教会との連携

| 取り組み内容 | 小学校 | 中学・高等学校 | 短期大学・大学 | 計 |
|--------------------------|-----|---------|---------|----|
| ①礼拝出席の義務化 | 0 | 5 | 0 | 5 |
| ②礼拝出席の奨励 | 4 | 14 | 2 | 20 |
| ③教会訪問およびレポート課題の提出 | 1 | 21 | 2 | 24 |
| ④教会行事への参加の奨励 | 3 | 9 | 2 | 14 |
| ⑤近隣の地域教会との合同イベント、懇親会、相談会 | 1 | 7 | 1 | 9 |
| ⑥必要な情報の交換 | 1 | 8 | 1 | 10 |
| ⑦その他 | 1 | 4 | 0 | 5 |

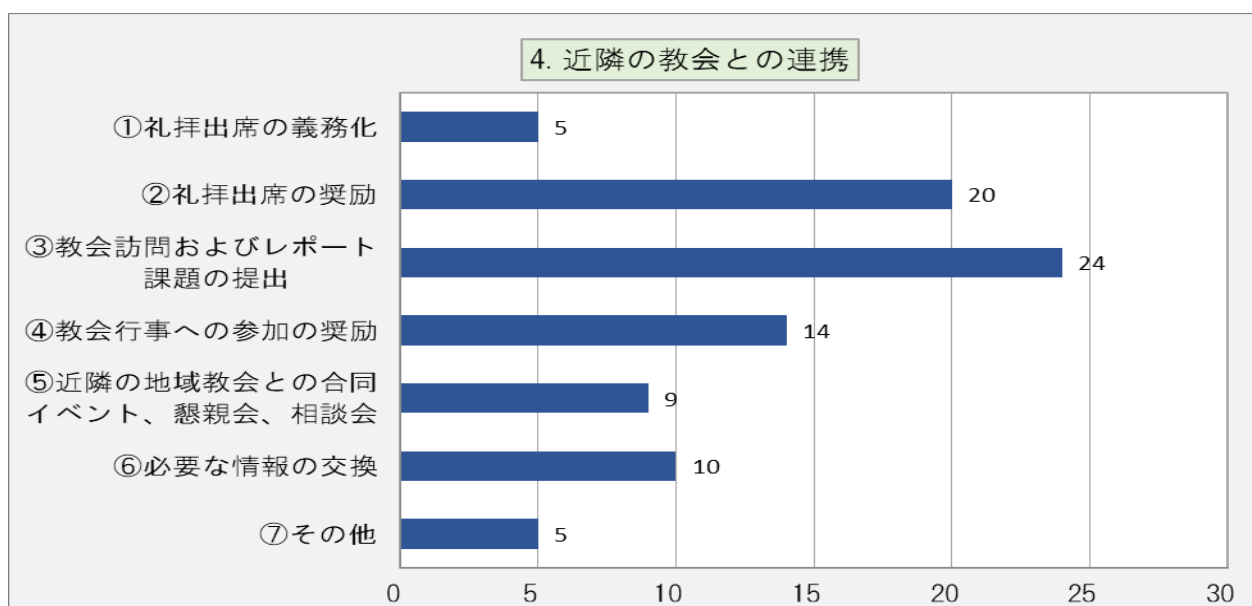


図 41 近隣の教会との連携

<その他の回答>

- ・教会のイベントのチラシ等の配布（青山学院初等部）
- ・年に一度近隣教会の牧師に説教を依頼（捜真小学校）
- ・KGK 主事をチャペル講師として迎え大学生になっても KGK とつなぐようにしている。（西南学院中学校・高等学校）
- ・牧師と宗教主事のコンタクトの強化（関東学院六浦中学校・高等学校）
- ・地域牧師会を、本校を会場に年一回開催（ときわの森三愛高等学校）
- ・本校の礼拝説教や宗教行事の講師として地域の教会の牧師や働き人に協力していただいている。（折尾愛真高等学校）

5. 2項、④の場合、それはどのような取り組みですか？

- ・宣教団体との連携としては、一部の学校に留まっている。

表 57 宣教団体との連携

| 取組み内容 | 小学校 | 中学・高等学校 | 短期大学・大学 | 計 |
|-------------------------------|-----|---------|---------|---|
| ①評議会などのメンバーに加わってもらっている | 0 | 3 | 0 | 3 |
| ②情報交換のための懇親会、相談会などを開いている | 2 | 4 | 0 | 6 |
| ③団体主催のイベント、集会などへの参加について協力している | 1 | 6 | 2 | 9 |
| ④その他 | 0 | 2 | 0 | 2 |

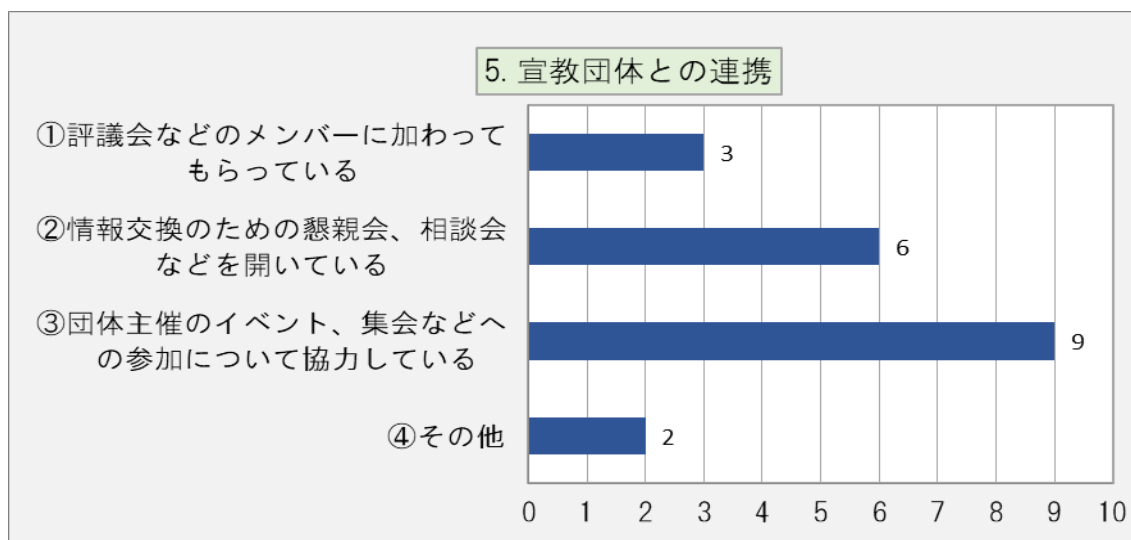


図 42 宣教団体との連携

<その他の回答>

- ・大学進学直前の高3対象の特別礼拝の講師に、KGK、CCC等の団体からお招きすることがある。（玉川聖学院中等部・高等部）
- ・宣教団体（KGK、hi-b.a他）と連携すると思います。ミッションスクールはクリスチャン教員が不足しています。キリスト教学校教育同盟の窓口ですと、日本キリスト教団関係の教会が優先されてきました。現代青山学院でキリスト教学校の---（途中切れ）（横浜女学院）

6. 2項、③の近隣の教会との連携の結果、学生・生徒が卒業後も当該教会につながっているかどうかの調査はなされていますか？
- ・学生・生徒が卒業後も教会につながっているかの調査は、ほとんどの学校で行なわれていない（表 58）。

表 58 卒業後教会とつながっているかの調査

| | 小学校 | 中学・ 高等学校 | 短期大学 ・大学 | 計 |
|----------|-----|-------------|-------------|----|
| ①調査していない | 4 | 19 | 3 | 26 |
| ②調査している | 0 | 1 | 0 | 1 |
| ③その他 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| ④無回答 | 2 | 3 | 5 | 10 |

7. （省略）

8. 貴校が置かれている地域は、建学の精神に沿った教育をする上で、どのような特色、および課題がありますか？

- ・次のような回答があった。

- ◇群馬県は先人の影響が残る地域でキリスト教教育に抵抗感はない。しかし、地方であるため、伝道的祭りや習慣を無意識に受け入れている。聖書の永遠の生命の救いだけでなく、人間の生き方を教えてくれる書物として理解されるように努めたい。（群馬フェリーチェ玉村国際小学校）
- ◇本校の周辺にはたくさんの教会があります。学校としては児童とその家族を教会に送り、教会は伝道対象者として祈り、迎えていただける関係を築くことが大切ではないかと考えます。（青山学院初等部）
- ◇横浜は開港後に多くの宣教師が来日した影響でキリスト教学校も多く、比較的キリスト教に対する抵抗感が少ない。（捜真小学校）
- ◇帰国生受け入れ校としてスタートし、現在は近隣に米軍基地があること等から国際結婚家庭の児童も多い。多様性を受け入れる学校という特色を持ち、その点は地域にも知られているが、受容の背景としてキリスト教の精神をさらに打ち出していきたい。（啓明学院初等学校）
- ◇北陸で唯一の私学であり、少人数で、一人ひとりの個性を大切にする教育をしている。（北陸学院）
- ◇建学の精神に賛同し、教師としてのアイデンティティにキリスト教的人間理解を取り入れようと努力する若手教員の採用が極めて困難である。（聖学院中学校・高等学校）
- ◇物質的な豊かさの中で、経済第一主義の価値観にどっぷりつかっている感じが否めない。弱い者の立場に立つことに課題がある。（玉川聖学院）
- ◇本校の置かれている北区は東京ばかりでなく埼玉・千葉からも通学可能の距離にある。教育の務めを通して、当該地域の方々へ福音を伝え、仕えていく使命を持っているものとする。また北区の課題は一段と進んだ高齢化にある。学校活動を通してなされる福音伝道により、高齢の方々が高齢の希望と触れる機会となるように願うものである。（女子聖学院中学校・高等学校）
- ◇山梨県内唯一のキリスト教学校であり、卒業生の多くが県内の教会で信仰生活をしている。（山梨英和中学校・高等学校）

- ◇交通の便は決して良くはないが、豊かな自然に囲まれている。こども、中高、大学、大学院がひとつのキャンパスにあり、法人全体の宣教活動が可能であり、クリスマス行事などは象徴的なものである。(宮城学院中学校・高等学校)
- ◇奉仕の精神の具現化を一人ひとりに求めるとともに、ボランティアやグローバルな学びの中に、その機会を提案することを意識的に行っています。(啓明学院中学・高校)
- ◇仏教が根強い、しかし宗教に対する尊敬はある。入学時にキリスト教教育を受ける承諾をしてもらっている。(北陸学院)
- ◇The students receive a basic knowledge of God's word and they will sometimes attend church to find that peace that they have experienced. (日ノ本学園高等学校)
- ◇卒業時に宗教主任による教会への紹介状を希望する者に渡し、進学先での教会出席をすすめている。西南学院と深い協力関係にある日本バプテスト連盟の教会が多くあり、また、福岡女学院の働きを支えている教団の教会も多く、チャペル運営や聖書科の非常勤講師を得るうえで恵まれていると思います。KGKの松雄主事にチャペル等お助けをいただいております。課題としては、九大、福大、西南学院等大学が多いことから、カルト団体の活動も活発なところで、その対策に力を入れなければと思われています。(西南学院中学校・高等学校)
- ◇地域の中ではキリスト教学校としての存在は根付いている。
課題：信仰(宗教)への興味、信仰に至る人数が少ない。(ルーテル学院中学・高校)
- ◇地域に卒業生が多いことから地域での理解・地域でお仕えいただける。
神の国の実現のために働くということの具体化として、地域の課題に取り組むことが重要。(関東学院六浦中学校・高等学校)
- ◇本校の建学の基本精神は「敬神・愛人」、生活目標は「誠実・努力・奉仕」です。基本精神と生活目標を、より具体的にするために2014年「ミッションステートメント」(下記)が制定されました。(横須賀学院)
横須賀学院は、キリスト教の信仰に基づく教育によって
神の前に誠実に生き、真理を追い求め、愛と奉仕の精神をもって
社会に、世界に対して自らの使命を果たす人間の育成を目指します
- ◇平和教育・活動との連携(広島女学院中高等学校)
- ◇キリスト教精神はあっても、それを教育理論、教育活動の実践となると、大きくキリスト教精神から逸脱していきます。クリスチャンの教師なら、まだ多少は保たれますが、「キリスト教教育理論」「キリスト教教育の実践」「キリスト教教育の神学」という研究がなされていて、実践していかないと、今後多くのミッションスクールは形骸化していくと思われれます。(横浜女学院)
- ◇クリスチャン教員の不足が最大の課題(東奥義塾高等学校)
- ◇聖隷事業団の多くの福祉施設、病院等に囲まれた環境にあり、その協力のもと、労作等の授業を通し建学の精神を実践的に学ぶことができます。(聖隷クリストファー中・高等学校)
- ◇本学の建学の精神を知り、入学する生徒がいる。また洗礼を受けようとする生徒も現れている。またキリスト教主義学校進学のために教会で礼拝を守り、教会生活をする者もいた。地域の教会は協力的である。(盛岡大学附属高等学校)
- ◇人口減少している地方都市にあるキリスト教学校である。地域教会に青年が少なくなり、地域のクリスチャン教師希望者も少ない状況である。聖書を土台とした

人格教育を施すという建学の理念が形骸化しないように、中学・高校のクリスチャン教師が加えられていくことが大きな課題である。(折尾愛真高等学校)

- ◇横浜は古くからキリスト教とゆかりのある土地であり、キリスト教学校にとって活動しやすい場所であると感じる。(フェリス女学院大学)
- ◇交通の便が良いため、多くの人々の中継地、交差点としての伝道の可能性を秘めています。(青山学院)
- ◇ノンクリスチャンの学生・教職員が多数のため、各プログラムが宗教的な「押しつけ」にならないように、かつ、将来に向けての種まき、人生の糧となるように留意している。カルト対策、特に韓国系の団体は、地理的に近いためか学内への出入りが絶えないため、注意・警戒している。(西南学院大学)
- ◇置かれている地域よりもキャンパスの広さに大きな特徴があるため、地域との関連で特色をあげるのは難しい。都心にもほど近く、学生、教職員(国内外より)にとってアクセスがよい。(国際基督教大学)
- ◇建学の精神に沿った教育をする上で、地域として抱えている課題が特にないように思います。(大阪女学院短期大学、大阪女学院大学)

9.その他、特別に記載すべき事項や、JEA 宣教委員会に対するご意見・ご要望がありましたらお書きください。

- ◇私学の中・高を選ぶ物差しとして、偏差値による判断が大勢を占める中で、教員の採用時にも同じ判断が入ることが多いと聞きます。今こそ、クリスチャン教員が必要ですが、ある学校では「クリスチャン教員希望者はいるのに、能力の面で届かず採用できない」とも聞きました。でもクリスチャン教員を能力は多少不十分だとしても、まず採用する、そして育てるという方法もあるのではと思ったり、そのように期待しても、長続きせず途中で退職したりと現場の悩みも尽きません。牧師・宣教師不足も大きな問題ですが、クリスチャン教師不足も、日本全体では大きな問題だと思います。(玉川聖学院)
- ◇福音の前進のためさらなる情報の交換ができればと願っています。(女子聖学院中学校高等学校)
- ◇教会とキリスト教学校が協力、協働すべき時がいよいよと迫っていると感じますが、教派の枠の中にとらわれていては何もできないと考えます。具体的な取り組みをしようとしている学校もありますが、全体では稀少です。もう一方で教会が何をしようとしているのか見えにくいと感じることもあります。社会のニーズに応えることも神の国の実現に必要な業ですし、他では示せない神を礼拝する空間をアピールすることも同じと考えます。キリスト教学校にしかできないこと、教会にしかできないことがあり、キリスト教学校だからしなければならないこと、教会がしなければならないことの捉え直しが迫られていると思います。今までのやり方、しきたりにとらわれているところに閉塞感が強まっているのではないのでしょうか。(関東学院六浦中学校・高等学校)
- ◇宣教委員会の中に、「ミッションスクール部会」のような会を作り検討する必要があるかもしれません。(横浜女学院)
- ◇全国の福音的な教会とキリスト教学校教育同盟に加盟している学校との間で、クリスチャンで教師希望の学生の情報を共有出来たらと願っている。(折尾愛真高等学校)

5. 総括・まとめ

日本福音同盟宣教委員会宣教研究部門からお願いした「次世代育成」に関するアンケート調査に、それぞれ 29 の教団・教派、232 の地域教会、13 の宣教団体、37 のキリスト教系学校から御回答をお寄せいただきました。貴重な資料の作成に御協力をいただきましてありがとうございます。有益な情報が集まったと思っております。

今後この基礎資料の分析を続け、御協力いただいた教団教派、各教会、各団体、キリスト教系学校、ならびに日本福音同盟、日本のキリスト教界に何らかの提言を出したいと願っております。

今後続けて行うインタビュー調査にも御協力をよろしくお願い致します。またこの基礎資料を御覧になった御感想や御意見もお伝えいただければ感謝です。

日本福音同盟（JEA）宣教委員会
委員長 中西 雅裕

【IEA 宣教委員会宣教研究部門】

- 中西 雅裕（日本ホーリネス教団）
- 神谷 典孝（日本福音キリスト教会連合）
- 福井 誠（日本バプテスト教会連合）
- 趙 南洙（日本同盟基督教団）
- 横田 法路（日本イエス・キリスト教団）
- 柴田 初男（東京基督教大学国際宣教センター日本宣教リサーチ）

【付属資料】

1 各教団の取り組み事例

「教団・教派宛アンケート」の回答の中で、より詳細な資料提供を求めたところ、次のような資料の提供があった。

1.1 日本ホーリネス教団

「次世代育成プロジェクト」の取り組み

- ・次世代育成ワーキンググループ（2011～2012）
- ・次世代育成プロジェクト（2013～2016）
- ・教団委員会直轄次世代育成プロジェクト（2017～ ）
- ・次世代育成局（？）

◇教団委員会直轄次世代育成プロジェクトの目的

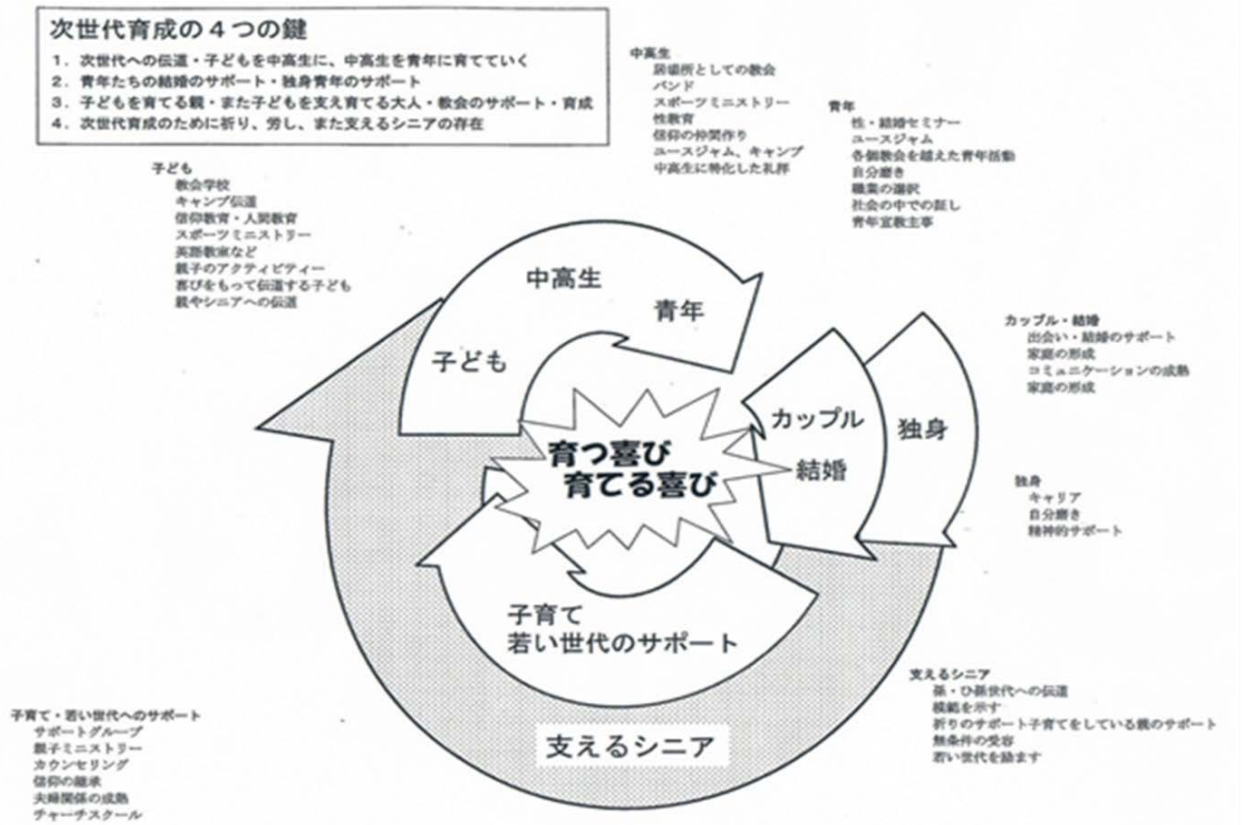
- ①次世代育成を体系的かつ継続的に考え、進めていく。
- ②現状の教団組織では次世代育成に関しての働きが色々な局に分散していることから生じる弊害を解消する。
- ③次世代育成基金を有効に運用する。

◇次世代育成の考え方：キーワード「循環」

誕生→ 幼児期→ 少年少女期→ 青年期→ 壮年期→ シニア 最終的なゴール
 ・義認→ 聖化→ 栄化

◇教会を場としての次世代育成（教団がどのようにサポート出来るかも含めて）

1. 次世代育成の循環：「次世代育成の4つの鍵」



2. 次世代育成プロジェクト・・・育つ喜び、育てる喜び

- ① 親への働きかけ
- ② 結婚・独身青年へのサポート
- ③ クリスマンホームへのサポート
- ④ シニアの働き
- ⑤ 次世代への働きかけ

次世代育成ワーキングプラン・・・育つ喜び、育てる喜び

教会にいる次世代を担う人々を育て、さらに新たに主に導くために・・・

次世代育成の全体像を示し、教会の現状やニーズ、牧師や信徒の賜物に合ったリソースを提供する

「信仰継承」という言葉のもっている祝福と厳しさ → 成功とか失敗というラベルを貼らない → まかれた種に期待する
共感・教育・伝道

次世代の育成は、教会に集う世代全体の活性化と深くつながっている。

→ たとえば、シニアの活性化は次世代の活性化につながり、次世代の活性化はシニアの活性化につながる。

全世代のつながり = 永続的な循環システムの構築

全体像を把握した上で、今取り組むべき課題と取り組んでいく

| 親 | 子ども | 中高生 | 青年 | 結婚 | 家庭 | シニア |
|--|--|---|--|--|---|--|
| 親のサポート・教育 両親が信者の場合 片方の親が信者の場合 両親が未信者の場合 | 乳児 幼児 児童 | 信仰教育=人間教育 性・結婚セミナー カウンセリング 居場所としての教会 教会学校・ジュニアクラス | 男性力・女性力の強化 性・結婚セミナー カウニング 続く世代との関係・育成 | 結婚 出会い・結婚のサポート 家庭の形成 コミュニケーションの成熟 | クリスマンホームの 形成サポート クリスマンホームの 理想と現実 | 孫・ひ孫世代への伝道 模範を示す 祈りのサポート 親のサポート 無条件の受容 |
| サポートグループ 親子ミニストリー カウンセリング | 教会学校・ジュニアクラス キャンプ伝道 キャンプ主事 CS 宣教主事 | 教会と世 世に遺わされている青年 学生としてのキリスト者 社会人としてのキリスト者 | 独身 キャリア 自分磨き 結婚願望 孤独感 | 夫婦関係の成熟 信仰継承 カウンセリング | | |
| | 喜びをもって伝道する子ども・中高生 親やシニアへの伝道 ユースジャム→フォローアップ 中高生・青年伝道に特化した礼拝の可能性 各教会の枠を越えた青年の地区活動の活性化 次世代宣教プログラムの検証と提供 チャーチスクールの可能性の模索 | 青年宣教主事 | シングル・アゲイン 挫折感 結婚願望 経済的な困難 | | | |
| 働き手・献身者の育成と発掘・教会間協力による傷を負っている人のサポート | | | | | | |
| 次世代を支える教会の育成 | | | | | | |



そのために・・・青年宣教・次世代育成サポート部門の設置

次世代育成基金の設立

◇教会を場としての次世代育成

- ①どの年代でも協力して関われる
- ②どの教会でも現状に合わせて行える
- ③教会で具体的な方策を考え、実行していく
- ④必要なら教団は支援をしていく

◇具体的な働き

- ・青少年委員会（キャンプ、ユースジャム、青少年主事、世界ホーリネス連盟青年・青少年委員会、ユースイベント参加支援）
- ・教会学校研究会、聖書の光編集委員会
- ・東京聖書学院
- ・MMお茶会
- ・次世代育成のための教区・教会活動支援
- ・次世代育成を促す人材の確保・育成・派遣

◇公開講座のテーマ（意識改革を目的として）

- ・「10代をどう育てるか」
- ・「信仰の伴侶との出会い」
- ・「聖書の教える夫婦のあり方」
- ・「教会で『性』をどう教えるか」
- ・「子どもたちを取り巻く厳しい現状を 考える」
- ・「教会学校を見直す」

◇宣教協力の立場から

- ・各教団もそれぞれいろいろな視点から次世代育成を考え、計画し、アプローチをしている。
- ・それを担当者同志が、パラチャーチの担当者も含めて、情報交換し、意見を交わして、互いに活かしていくことによって更に働きが広がっていく。

MMお茶会

🌸 MMお茶会(クリスチャンの出会いパーティー)

<プログラム>

- ・ウエルカムタイム
- ・自己紹介
- ・食事と交わり
- ・フリートーク
- ・自己紹介カード交換



*一人でも多くの青年たちが、神さまに祝福された結婚に導かれて欲しいとの願いと祈りの内に、2014年にスタートしたJIP-M(次世代育成プロジェクト・結婚)の働きは、これまでに6回のMMお茶会(1回はYJ2016で)と、1回のMM講演会を開催しました。

これまでのMMお茶会に参加した青年たちは、会場教会の牧師夫人&教会の方々&JIP-Mスタッフ手作りの美味しい料理をいただきながら、同世代のクリスチャンたちとの主に在る交わりを楽しみ、信仰の友が与えられ、「来てよかった」「楽しかった」「励まされた」「心のこもった美味しい料理に感激した」等々の感想を寄せてくださいました。

そしてお茶会で出会った方々の中から3組が結婚に導かれ、幸いなクリスチャンホームが誕生しています。今回はその中から2組の方々に感謝のコメントを寄稿していただきました。

*今年度は第7回MMお茶会、第8回を沖縄信徒大会で、第9回を近畿で開催予定です。これからも、青年たちが神さまの御心のパートナーと出会う場として、MMお茶会が祝され、用いられていきますように、お祈りくださり、青年たちを励ましてMMお茶会に送りだしてくださいませ。

次世代プロジェクト委員・JIP-M担当・杉本敬子

(MM=Meeting for Marriageの略)

MM講演会

- テーマ : “幸せを生むクリスチャンホームの形成”
- 講師 : KGK総主事 大嶋重徳先生&裕香先生
- 期 日 : 2017年 12月29日(金)
- 会 場 : 横浜教会
- プログラム : 講演・質疑応答・コーヒー&ティータイム



JIP-M初めての試みとして、結婚&クリスチャンホームの形成について具体的に学ぶ講演会「MM公開講座(MM講演会)」を、2017年12月29日に横浜教会で開催しました。

「幸せを生むクリスチャンホームの形成」というテーマで、日本各地そして海外でも活躍されているKGK総主事・大嶋重徳先生ご夫妻を講師にお迎えすることができ、仲睦まじく息の合ったお二人の、テンポよく、聖書的に深く、具体的でわかりやすいお話と質疑応答に、参加者し58名が聞き入り、それぞれに教えられ、励まされ、恵まれた素晴らしい講演会となりました。

参加者の中の間もなく結婚予定のカップルや、祈りつつ真剣に交際しているカップルの方々には、先生方の語られたお証詞が、今後の歩みのヒントとなったことと思いますし、それ以外の方々も、神さまの備えられたパートナーと出会い結婚へ導かれる希望が与えられ、祈り備え、信仰者として整えられていく決意が与えられたことと思います。

今回の講演会は本当にすばらしく、また開いて欲しいとの声も上がっていますので、ぜひまた開催したいと願っています。

MMお茶会で結婚へ導かれた方々

「神さまの御心を真剣に祈り求めた末、最善の出会いが与えられました。多くの方の祈りに支えられ、感謝しつつ歩んでいます」T兄



▲N夫妻(出会いはYJ2016*2017年11月結婚)

「ただただ、主の導きに感謝です。ステキなクリスチャンホームを築いていきたいです」S兄



「主が共にいてくださり三つよりの糸となった私たちは決して切れません。たくさんのお祈りと励ましに感謝です」M姉

▲Y夫妻(出会いは第6回MMお茶会*2018年4月結婚)

1.2 日本同盟基督教団

「DS Com（青年部主催青年+R5:V5 交流会）」の内容

青年宣教拠点プロジェクト案

＜プロジェクトの概要＞

青年部では、これまで青少年ビジョンの実現に向けて DS シリーズなどの様々な取り組みを行ってきました。諸教会と青年たち自身の協力によって、青年たちがともに学び、励まし合う交わりが築かれてきたことに心から感謝いたします。しかし、その一方で、青少年宣教ビジョンの 5 において、「私たちは、青少年たちによって同世代への最も効果的な伝道がなされると確信します」としているにも関わらず、これまで青年部として青年自身が主体的に伝道するためのプログラムを提供できていなかったことも事実です。

そこで現在、青年による宣教の場の提供を目指して、「青年宣教拠点プロジェクト」を計画しています。平日に都心で働いている社会人青年を対象として、彼らがアクセスしやすく、また、友人を誘いやすい拠点を設け、未信者の青年たちが教会につながる足がかりとしたいと願っています。クリスチャンの青年と未信者の青年が出会い、互いに共通した課題を聖書から学ぶ中で、青年自身が聖書的価値観、ひいては福音を分かち合う場となることを目指します。そして、そのような関係性の中で、未信者の青年たちが自分の住む地域の教会につながっていくようにコーディネートしていきます。集った未信者の青年たちが、それぞれの地域教会につながることを、このプロジェクトの目標です。

この取り組みは、青年による同世代への伝道だけではなく、青年たち自身の信仰の成長と励ましに寄与することも目指しています。これまでの青年部の取り組みの中で、平日は仕事のため教会の集会に参加できず、日頃の霊的養いを必要としている青年たちがいることを実感してきました。彼らが仕事帰りに立ち寄りみことばを学び、祈り合う継続的な交わりを得ることで、遣わされている職場で神の栄光を現わし、ますます所属する教会を愛し、仕える者へと成長することができるようにサポートしたいと願っています。この点は、これまで DS シリーズなどで行ってきた取り組みを、より青年の日常に密着した継続的なものへと発展させるとも言えます。

2017 年度、青年部としては、青年たちを愛し、育み、新たな青年たちを招くこのプロジェクトの具体化に向かいたいと願います。

青年宣教拠点プロジェクト理念案

＜理念＞ 私たちは、同盟教団の青年たちが、自分の所属する教会を愛し、遣わされている職場・地域で神の栄光を現すために、キリストの似姿に成長し（グローイング）、主にある交わりを形成し（ネットワーキング）、喜んで福音を伝えることができる（シェアリング）場所を作ります。

＜実現のためのコンセプト＞

I. グローイング

青年たちが、日頃直面する具体的な課題について聖書的価値観に基づいて物事を判断し、行動する者へと成長するために、平日にもみことばを学ぶことができる場所を目指します。

《青少年ビジョンとの関連》

1. 私たちは、教会に与えられている青少年を本気で愛し育成することが重要だと

確信します。

4. 私たちは、専門的な青少年育成の働きをしているパラチャーチとの積極的な協力関係が重要だと考えます。
6. 私たちは、毎週の礼拝を大切にし、教会を愛する青少年たちを育成することが重要だと考えます。
9. 私たちは、牧師・宣教師として献身する青少年が起こされることが重要だと確信します。

II. ネットワーキング

青年たちが、互いのために祈り、励まし合い、またノンクリスチャンにも開かれた交わりを形成するために、アクセスの良い地を用い、多くの人と出会うことができる場所を目指します。

《青少年ビジョンとの関連》

2. 私たちは、宣教区・青年部のイベント、キャンプ、教団の諸大会などを通して青少年同士のネットワークを作ることが信仰継承や信仰の成長の大きな助けになると考えます。
7. 私たちは、クリスチャンホーム建設を励ますことが重要だと考えます。
8. 私たちは、青少年たちが遣わされている学校・職場・地域・政治の場で神の栄光を現すことが重要だと考えます。

III. シェアリング

青年たちが、主体的、積極的に宣教に参加するために、ノンクリスチャンの友人を誘い、互いに協力して地域の教会、そして、イエス・キリストへ導くことができる場所を目指します。

《青少年ビジョンとの関連》

5. 私たちは、青少年たちによって同世代への最も効果的な伝道がなされると確信します。

<その他の大切にしたい事柄>

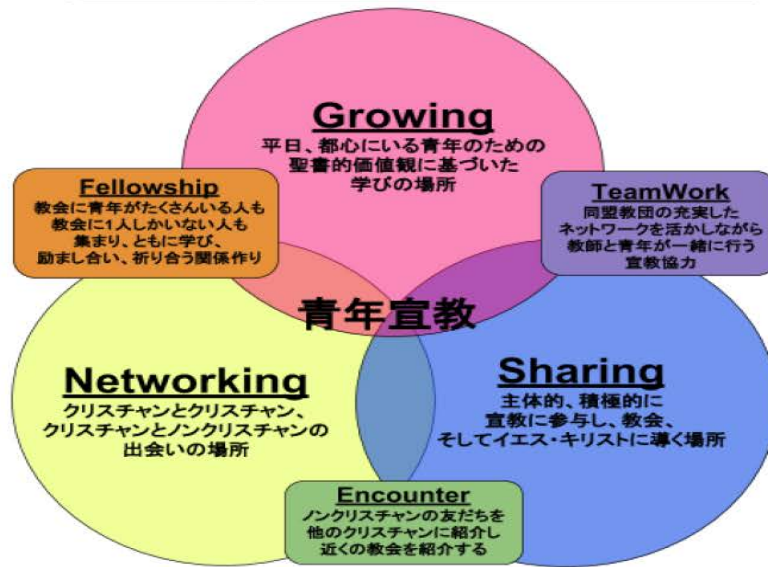
宣教協力：この働きは教会のための働きです。そして関東にある教会、地方教会、諸宣教区を超えた教団の宣教協力の場です。

組織：青年宣教に召しを受けた同盟教団に属する教師と青年によって組織され、運営されます。

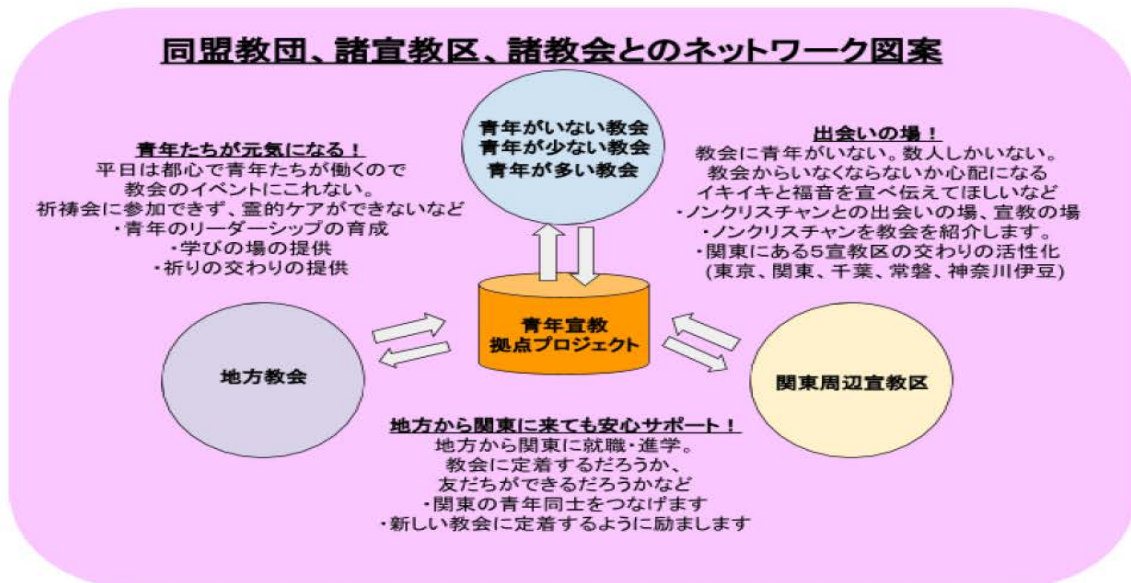
《青少年ビジョンとの関連》

3. 私たちは、青少年の多様性と主体性を尊重し、与えられている賜物を生かすことが青少年宣教に重要だと考えます。

青年宣教拠点プロジェクトのイメージ



同盟教団、諸宣教区、諸教会とのネットワーク図案



<青年宣教プロジェクトメンバー> 増井 恵 後藤正樹 中谷 献一

1.3 東京フリーメソジスト教団

「次世代育成ミーティングについて」

2019年3月12日 牧師会資料

1、概要、始まりのきっかけ等

2017年9月の牧師会で、中高生・青年をどう導くかについて意見が出された。子ども、ティーン、青年、修養会の各委員長が話し合うこととなり、10月に第1回のミーティングを持つ。その後、2名の牧師が加わり、7人によって現在まで行われている。メンバーは40代以下の牧師。適宜、話し合われたことを教団に提案し牧師会で話し合う。

2、開催頻度 年に3回。

2019年度日程：6月25日(火)南大沢 10月29日(火)桜ヶ丘

2020年3月3日(火)小金井

3、現在までに行ったことや教団への提案

①FMTCの年齢構成の変更

現状に即して、中高生から大学生までを参加可能とした。上の年代の人が、下の年代を支えることが出来ることを目指す。

②修養会の検討

青年達が参加しやすい内容、時期等を検討。例年行っている夏ではなく、別の日程を提案した。9月の連休。青年の中から委員をリクルートすることも考えていく。

③日本青年伝道会議参加者へのサポート

2018年に行われた日本青年伝道会議の参加費一部を教団(青年委員会)から負担し、青年達が出席しやすくした。各教会や委員会で参加を呼びかけた。

④委員会間のつながりの強化や協力

委員会を越えて協力出来ることがあれば行うように連携を取る。次年度の計画や日程等を伝え、調整し、各委員会の動きや働きを把握する。委員会の年間計画を合同で作成できないか検討する希望もある。

⑤伝道者研修会への提案

次世代育成のテーマで伝道者研修会を行うことを牧師会に提案。講師選定も行った。

4、ミーティングの特徴

①教団の現状認識に立つて

第1回のミーティングで、どの教会にも中間世代(40~50代)が教会にいない、少ない現状が共有された。この現状への危機意識を持ち続けて働きを進めていく。

②牧師同士の関係強化を目指し

今まで以上に同労者として励まし、支え合う関係作りをする。牧師同士の良い関係が教団全体に良い影響を与えることを願い、交わりを深める時とする。互いの働きのために祈る時を持つ。

③互いに研鑽し合う

次世代育成について、個人や各教会での取り組みや活動の分かち合い。他団体の様子や牧師研修会等を受けての分かち合い。

全体として

他の委員会や話し合いと違い、自由に語り合うことが出来る場を目指している。開催場所を7つの教会とし、それぞれの現場に行くことで、様子を知り、重荷を新たにすることが出来る。

5. 今後の展望

今まで出された意見から (一部抜粋)

- ・修養会に、青年から40代位に意図的に参加を呼びかけ、企画するのはどうか。
- ・外部団体、超教派団体をさらに活用したい。信徒も共に参加し、良いものを吸収したい。
- ・各教会の中高科スタッフの育成にさらに重荷を持つ必要がある。
- ・牧師が出席するファミリーキャンプの実施。牧師の子どもたちの修養会出席につなげたい。

- ・教会間の垣根の引き下げ。牧師や信徒の賜物を生かすことをしたい。
例：賜物のある信徒を他教会の働きのために送り出し、集会等を行いやすくする。
- ・若くて元気な信徒が少ないか。信徒として社会で献身する人を育てるようにしていきたい。
- ・きよめや献身、神の国など神学的なテーマをもっと話し合いたい。
- ・社会でのクリスチャンのあり方を掘り下げる必要があるか。
- ・中間世代がいないことや20年後の教会への危機感を持って話し合っていく必要がある。
以上

「子どもと青少年の学び：グループ発表について」

「子どもと青少年の学び」と題された研究グループでは、3人の牧師がそれぞれの教会での事例を中心に学び合い、励ましあい、一年間考えてきた成果を発表した。2017年度から2年間、リーダーが交代しつつも同じメンバーで継続された。

【事例1】子どもの教理教育のためのカテキズムの試み

中学校にあがると同時に教会を離れる子があとを絶たないために、継続的な教理教育について考えました。実際に教会学校で実践をしています。

- ・主の祈り、使徒信条、十戒、詩篇23篇
- ・ハイデルベルク信仰問答の学び

課題としては、根気がいらいます。時間もかかります。私を含む親たち自身がこのような教理教育を教会でみっちり受けたわけではない、ということもあります。

【事例2】子どもが教会に「定着」するには

ある教会では、ここ数年で多くの子どもたちを教会に集めることができるようになりました。同時に、教会が新たに気がついた課題は、子どもの「定着」でした。土曜日のイベントであるならば50～60人すぐに集まるが、その子どもたちが日曜の教会学校に来るか、といえば必ずしもそうではありません。あるいは一度二度来た子どもが、定着してレギュラーになっていくか、といえばもっとそれは難しくなります。その課題に対して、一年前から教会と牧師が取り組み始めました。

- 子どもたちを集めるためにやったこと：PTA会長を引き受け、地域の信頼を得ていった。
- 子どもたち定着のためのチャレンジ：教会全体で子どもの名前を覚えて祈ったことで、教会員が子どもと親しくなっていた。

こうした事実を通して、「子どもたちを、わたしのところに来させなさい」（マルコ10：14）が、教会全体で、直接かかわるスタッフ、祈りを通して関わる信徒が心ひとつに、子どもたちを祈りを通してイエス様に近づけて教会学校への定着という大きな課題に向かってのみことばの成就、信徒の喜びへとつながっているように感じている。

【事例3】青年たちの成長の課題を考える

ある教会における、家庭での課題を抱えている青年たちの事例を検討しました。また牧師夫妻だけではなく教会全体で取り組むように教会のあり方を考えていった事例などが分かち合われ、検討された。

1.4 日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

「次世代育成」の取り組み

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の次世代育成のための取り組みは、次世代宣教のためのユースリーダーを育成することが中心である。その働きの中心が「ユースリーダーカンファレンス」であり、そこで育てられたリーダーたちが互いにつながりを持っていこうとするための「青少年伝道ネットワーク」という集会がある。

次世代宣教は、若者にどのように福音を伝えるかということを考える前に、若者たちを引っ張っていく同世代のリーダーをどう育てることが重要であると考えている。

また、前は一度、全国の伝道部をなくし、地区に主体的に動いてもらう時があった。しかし、教団は改めて次世代育成のために、青少年伝道部の必要性を覚え、7年前から全国的な動きが復活した。現在、青少年伝道部は、全国の青少年伝道の底上げを図るべく、様々な支援と共に、地区として青年宣教の働きが困難な地域をサポートしている。2019年の青少年伝道部の担当は、布施宣義師(函館ベテルチャーチ牧師)、2018年度予算170万円は、40万円が全国のキャンプの費用、他は、委員会費、教区連携費(各地区のキャンプの援助)や教団内外交流費(マレーシア、インドネシア、フィリピンで行われる青年宣教大会への参加費の援助)等に用いられた。

1. 「ユースリーダーカンファレンス」

ユースリーダーカンファレンスは、全国のもは2年に一度企画され、前回は沖縄で行われた。またこのカンファレンスは各地区でも行われている。その目的は、ユースリーダーの育成と発掘、牧師の意識改革、そして各教会の青少年伝道の活性化である。

2. 「青少年伝道ネットワーク」

青少年伝道ネットワークは、年1回、教団本部で各教区青少年伝道担当教職が集まり行われる。また、教区間の連携を強化し、青少年伝道に関する取り組みや課題の情報提供と共有のため、青少年伝道ネットワークからFacebook上の情報交換ツールとして「Youth-Box」と「全国ユースキャンプ」が作られた。現在この働きから、夏のキャンプシーズンに「祈りの課題」や、キャンプのプログラムが動画配信され、各地区で共有されている。

3. 「全国ユースキャンプ」、「北陸プレイズ」、「全国青年大会」

以前、各教区の働きとして行われていた青少年伝道の働きが、全国的な取り組みとなってから、「全国ユースキャンプ」、「全国青年会」、そして「北陸プレイズ」が行われてきた。

① 「全国ユースキャンプ」 全国中高生～青年

これは2018年に沖縄で、全国の中高生～青年を対象に初開催されたものだが、参加者263人、次回は2021年を予定している。この時のテーマは「“Surf the wave”～聖霊に満たされて出ていく～」。第1日目は信仰決心、第2日は聖霊の満たし、第3日は献身を目的として聖会が行われた。これまでは各教区が主体的にキャンプなどを行ってきたが、ユースキャンプなどは青年が少ない地域では開催が困難なため、全国規模のキャンプが計画されたのである。

② 「全国青年大会」

約3年に1回【仙台(2013年)、千葉(2017年)】全国の中高生～青年を対象に開催。全国ユースキャンプとの違いは、全国青年大会が「全国聖会」の中で行われているこ

とである。2013年に仙台で行ったときは、午前中フットサル。全国から20チームが参加し、午後はプレイズパーティー（交わりと聖会）。2017年の千葉は、聖会とナイト de ライトコンサートを行った。

③ 「北陸プレイズ」

年1回9月(3年計画2018年が最終年)、石川県北陸教区教職、中高生～大人を対象に開催。この働きは、各教区ごとに「ユースキャンプ」を行ってきたが、北陸は開催が困難なため、全国青少年伝道部の支援で行われたものである。

1.5 日本フォースクエア福音教団

トランスフォーマーセミナーについて

1. トランスフォーマーセミナー

トランスフォーマーセミナーとは、新しい人、世代が救われる為に、まずは自分たちが変わる必要があると言う意味でつけられました。

セミナーは4セッションで行われ、自分が受ける信仰生活から、受け、共に変わり、弟子を育てるとクリスチャン聖書の教え、またプロセスの説明がされます。

【セミナー1】「救いにこだわる」

イエス様が地上に来られたメインの理由は人々の救い。弟子たちもイエス様を多く知る前から「人をとる漁師」としてのアイデンティティーを与えられている。神様は自分が人の救いに関わって行く為に救い成長させてくださるという理解を持ち、考え方、生き方、信仰生活において変えられていく。

教会の存在の理由、活動等が賛美、祈り、学び、伝道、交わりがそれぞれ独立した大切な働きとしてみるのではなく、すべての活動が「神を愛し、人を愛する」為であり、神の愛するキリストを知らない人々に福音の生き様とメッセージを伝える教会、個人として変えられていく。

【セミナー2】「奉仕の心」

救いにこだわる為に変わる (transformation) のはプロセスであり、教会に人を招くことや証ができるようになるだけでは無い。今、置かれている教会での奉仕をどのような思いで行うかが他の若者に影響を与えることができることを教える。

奉仕は義務ではなく、最高の特権であり、すべての奉仕が自分の心を変える機会として用いられ、また救いの使命に直結しているという理解し、その働きの重要性理解し、働きに対して良い意味でのプライドを持つ。

【セミナー3】「教会文化とマトリクス」

救いを願うにあたり、教会が新しい人が来ると言う前提に立ち、新しい若い人がウエルカムされ、受け入れられ環境(文化)を整える必要性。

また受け入れるだけではなく、新しい人がその環境で神様との関係、人との関係、成長、喜んで仕える者、キリストを伝え、弟子を育てる文化を教会にもたらす。(それが救われた新しい人にとってある意味当たり前になる。周りの信徒がそれを実践し、そこを目指しているから。)

神様は様々な方法で人を救われる中、人が神様と出会い、福音を聞き、救いに導かれ、キリストの弟子として生きることを学び、弟子を育てる弟子を育てるかと言う時系列(マトリクス)。

マトリクスに関してはメールでの説明は少し難しいのですが、以下の図面を参照していただいで多少伝わればと思います。

マトリクスの理解を共有することによって、どのように未信者と関わりの大切さ、

キリストを伝える準備、人との良い深い関係を作る為に必要な学び、環境、訓練が分かる。

【セミナー4】弟子を育てる弟子を育てる

牧師、長老、信徒リーダーだけが弟子を育てると言う考えから、キリストを信じる全ての人が弟子として育てられ、そして次の弟子を育てる為に関わることによって自らが用いられる喜びを体験し、神様の働きが世代を超えて続くビジョンを持つ。

2. 次世代育成について取り組みについての、背景となる事情。

8年ほど前、教団内の若手と呼ばれる牧師と教団の高齢化、また子どもや若者が少ない、またはいない教会が多く存在していたことに危機感を感じ、何かできないかと祈り分かち合ったことが始まり。

それから話し合い、何が各教会で変わらなければならないかを考え。その変化をもたらす為に自分たちがどのように変わり、信徒を導くかを話し合った。

その後、自分がフォースクエア教団の代表になり、在籍中の4年間（2012年～2016年）教団としてこの働きを教団内の牧師に伝えた。

代表ではない今でも、教団の働きとしてTFC（トランスフォーメーションチャーチ）と言う委員会として活動中。

次世代を育てるためという目的の為につくられた働きではないが、既存（高齢）の信徒に新しい概念、また文化、関係作りなどを実践することを伝えるのが難しいこともあり、若者中心に行われ来ているのが現状です。

3. 現在の取り組みにおける課題。

現在の課題は、当初牧師の理解をなかなか得られないことでした。時間が思ったよりもかかる。プログラムとして理解、成立しても実際にそれらを活動に取り組む難しさ。既存のプログラムや価値観をどのように徐々に変えていくか。新しい働きをする為には何かをやめなければならないことが多いが、それに対する反対意見などをどのようにするか。

牧師によっては神学的な見解が違うので、そもそも受け入れられない。セミナーを教団の4つの地域（北部（東北、北海道）東日本、西日本、南部（九州、沖縄））で開催しましたが、そこでトランスフォーマーのビジョンと概要を理解してもらっても具体的に何をどのように変えていくか、何を今すべきかと言うような話し合いができる機会と予算が無い。

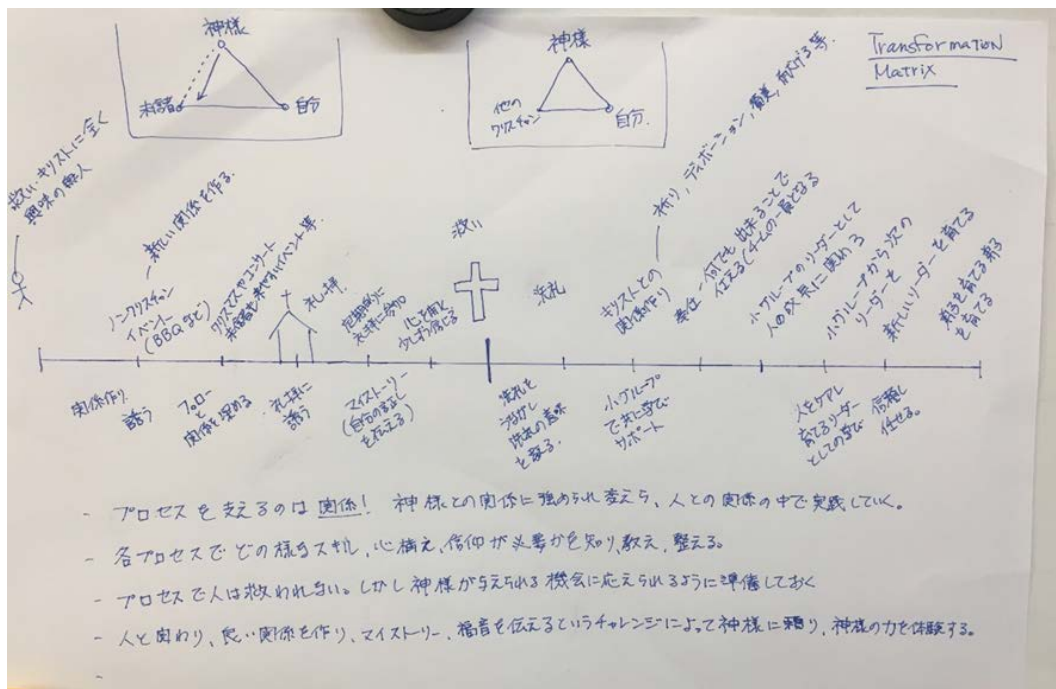
時間がかかる変化（トランスフォーメーション）の期間、目的をはっきりさせ、すぐに結果が出なくてもやり続ける為に、多くの励ましが必要であると感じます。

4. 次世代育成についての超教派的な必要があるのかどうか。

次世代育成についての超教派的な働きは必要だと思います。具体的な働きの方法、取り組み方は教団の歴史、神学的立場などで変わってくると思いますが、その上で各教団が次世代の為に関わっていることを知り、理解することで、違う働きを拒否したり、批判するのではなく、取り込んでいけるアイデアを得る機会が増えると思います。

超教派の働きを恐れるその理由の一つとして、他の教会の働きや活動を見る若者がその教会に流出する可能性だと思います。

これに関しては、やはり次世代との信頼関係と彼らに変われる、教会も変わる、という希望を与え、その一員としてやろうというビジョンを与え続けることが必要だと思います。（増井記）



KFBS 関東フォースクエア聖書学校

1・設立の背景

私たちのフォースクエア教団は、2007年当時、日本人の牧師達と、海外からの宣教師で構成されていました。日本人の献身者は少なく、その事に、私（大城）は、憂いを感じていました。海外からの宣教師を受け入れるのは良いけど、日本人の献身者・牧師を産みださなければならない事を感じていました。それで、「聖書学校を始めましょう」と、理事会やその他の会議で提案をしました。しかし、当時は、神学校は古い、自分の教会で弟子を生み出し、育てるという考えがあり、受け入れてもらえませんでした。

でも、何度も神学校・聖書学校を始めなければ、日本人の働き人は起こらない事を語りました。そのような、特別な祈りをしている時、神様はみことばを与えて下さいました。「あなたをクレテにおいてきたのは、わたしがあなたに命じておいたように、そこにし残しておいてきたことを整理してもらい、また、町々に長老を立ててもらうためにほかならない」（テトス 1:5）と。

パウロが弟子のテモテへ語られたみことばですが、私が、沖縄からなぜ、東京に移され置かれたのかを、神様から語られたのです。

そんな折、ある教区会で、又私は、聖書学校を始めた方が良いと語り、「やったほうがいいです」と・・・。「では、誰がやりますか？」「大城先生、あなたがやるべきです・・・」と、そのような会話が、会議の中で行われました。時は来て、ドアが開きました。

その年の9月からスタートし、教団からも許可が出て行われ今日に至っております。授業の内容、誰がなにを教えるかなど・・・神様は、すでに私にお語り、すべてのカリキュラムと、やり方はノートに書いてありました。当時、理事会や会議で北海道から沖縄まで、上京する牧師たち、また関東にいる牧師達の中から、スケジュールと方法を用いて、今に至っています。

週3回・木・金・土で行いました。それをDVDに撮り、遠くの方々には、郵送し学んでもらっています。現在は、生講義は・木・土で後は、DVD単位制です。基本、2年分のカリキュラムですが、4年かかる方もいます。

2・目的

フォースクエアの働き人を起こすためです。埋もれた人たちを発掘し、働きに着かせる。ある者は牧師へ。ある者は教会の働き人として。コンビニのような機能を持つ教会を作る事を、常々、学生たちに語っています。コンビニの店長のようになれ。店長も自分の売る商品は知っている。私たちも自分が何を、人に売るか・・つまり、自分が人々に紹介する聖書・神様の事を基本的な事は知らないといけない事。大きな、大教会の牧師にはなれないかもしれないけど、大きなモールや大きなスーパーマーケットのような教会は作れないかもしれないけど、神様が立てる場所、置かれる所がある事を、学生たちに語っています。

終わりの時代、日本にリバイバルが起こる事を思い願う中で、地域にあるコンビニのように、かけこめる教会作りを目指して、彼らを指導し、語っています。

3・状況

この聖書学校は、フォースクエアの為に始めました。しかし、時が経って、フォースクエア以外からも受け入れるようになりました。そのニーズあるからです。フォースクエアの先生がその人を受け入れ、推薦をしてくれる方の入学は受け入れております。

2019年5月18日

日本フォースクエア福音教団総理

関東フォースクエア聖書学校学館 大城けい子

1.6 日本キリスト合同教会

YAPP(Youth Activity Planning Product) について

1. YAPP は、最初は中高科の働きを継続して考えていこうとするプロジェクトから始まった。従来型の CS の働きが難しくなり、その中で変化しつつあるユースのニーズを考えてきた。そこで、それまで各教会から CS の先生が集まってキャンプをしてきたものを、専門的にキャンプの働きを考え、毎年計画していくチームを作った。具体的には屋代教会の石坂先生を中心に牧師や信徒たちも入ったチームとなり、YAPP となる。

YAPP は、小学生以下の「わくわくキャンプ」を卒業すると、YAPP に入っていくという連携を図るためのものでもある。

2. 石坂師はこの働きの中心であると同時に、自分の教会でも日曜に教会に来ないような子どもたちに「バイブルプレイヤーズ」を用いた平日のプログラムを行っている。

3. つるかわ台教会三浦師が考えていること

従来型の日曜の CS は難しい時代なので、Weekday に何かできないか。

つるかわ台教会では「ギョーザ会」など「食べる」ということを中心に子どもたちを導いてきた。このはたらきは、最初小学生の子どもたちから始まり、現在 10 人ほどの中高生が継続して来てくれている。

教会の文化を押し付けるのではなく、中学生、高校生の生活や文化を知り、彼らと付き合っていくことが大切。毎週来なくても、平日に来ている子たちの中に「自分たちは教会とつながっている」という意識がある。これは大事なのではないか。

これから、Hi-b,a と連携して「食べる」会を持っていけたらと願っている。特別なことをしなくても、そこに高校生たちと普段付き合い、重荷を持っている人たち

がいるだけで違うのではないか。

「ずっと青山」の経験から、各教団教派が「神の国マインド」に立って一緒にやっ
ていこうとすることが大切だと考えている。鶴川には近隣に四教会あるが、意識
の壁を感じているが、町田市の中で立ち上がった「防災ネットワーク」の働きは毎
回 15 教会くらい集まり、ともにやっていく意識があると感じている。

1.7 日本イエス・キリト教団 九州教区

「シエマ教育」の取り組みの紹介

「きょう、わたしがあなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれを
あなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起き
る時も、これについて語らなければならない。」（申命記 6：6～7）

シエマ (שמע) 教育とは申命記 6：4～9 に出てくるシエマ (שמע) 「聞きなさい」、
み言葉に提示されている子ども教育原理と方法を今日私たちの現実に合うように適
用したものである。子どもを持つ親がまず神様の御言葉を心に刻み、神様を正しく知
り、神様を愛する人にならねばならない。それから親が子どもに神様の御言葉の通り
に教え、子どもも神様を正しく知り畏れ敬い、神様を愛するように導くべきである。
新約の至上命令（マタイ 28：18～20）が地の果てのすべての国民に福音を宣べ伝える
ことであれば、旧約の至上命令（申 6：4～9）は子どもに御言葉を受継がせる事であ
る。つまり新約の至上命令は水平的宣教であり、旧約の至上命令は垂直的宣教である。
多くの教会は新約の至上命令は成功したが、親が子に神様の御言葉を伝授しなさいと
言う旧約の至上命令に対してあまり関心を持たない。これが現代教会が持っている根
本的問題である。これからは旧約の至上命令と新約の至上命令を共に行うべきである。
実際、イエスの至上命令にも地の果てまで福音を宣べ伝えて、すべての国民を弟子と
するだけでなく彼らに御言葉（命じておいたいっさいのこと）を教え、彼らが保存
（子々孫々）出来るようにすることも含まれている。

悲しいことに現代の多くの教会に若者たちが教会から離れていく。理由は真の御言
葉教育が成り立っていないからである。シエマ教育は聖書的キリスト教教育方法で御
言葉中心の信仰教育を志向する。シエマ教育は旧約の至上命令と新約の至上命令を区
分して適用するのではなく、その二つの命令が志向している御言葉の権威と力を回復
して伝え、教え守るようにする事であり、特に神様の命令に従って親が子に直接神様
の御言葉を教える御言葉中心の信仰教育である。

歴史上このように神様の命令に従い守った民族がユダヤ人である。正統派ユダヤ人
たちはアブラハム以来、今に至るまでなんと 4000 年間神様の御言葉を子ども達に継
承して来た。しかし、シエマ教育はユダヤ人の専売特許ではない。彼らは神様の御言
葉通り子どもを教育したが私たちはそうする事が出来なかった。シエマ教育はユダヤ
人の子ども教育ではなく聖書が言っている子ども教育の原理であり、方法である。二
世教育＋教会成長＋世界宣教である

- ・あなたの子どもはあなたが教えなさい。
- ・幼い時から教えなさい。
- ・聖書をテキストにしなさい。
- ・繰り返して教えなさい。
- ・質問と討論式でしなさい。

1. 質問の種類

- ・ 聖書内容を確認する質問
- ・ 分かち合いの質問
- ・ 適用質問

2. 帰納法式で導く

3. ヘブルタ (אָפּרױטן) とディベート (debate) 方式

* ヘブルタの有益

- ① 脳を動かす。
- ② 質問は人を考えさせる。(多様な見解、多様な観点、多様な見方を持たせる)
- ③ 表現力と発表力が向上する。
- ④ 社会性が大きく発達する。
- ⑤ 興味と好奇心を呼び起こす。
- ⑥ 相手の理解程度が分かる。
- ⑦ 自ら問題を解決するようになる。
- ⑧ 効果的なフィードバックをもらう。
- ⑨ コミュニケーション能力、傾聴する能力、説得する能力が向上する。

① シェマは教会成長プログラムではなく聖書中心教会

- ② 本質に充実にすれば成長は付いて来る
- ③ 親は子どもの憧れ (子どもに焦点を合わせる)
- ④ 地域にも影響与える教会
- ⑤ 次世代のための対案である事を知っていく

* シェマ教育を教会に取り入れた経緯？

教会にクリスチャンホームの子どもいなくなる。特に中学生になると部活などで教会に来なくなることが多い。共働きや子どもたちの塾、習い事などで親子のコミュニケーションを取る時間が少ない家庭が多くなった。

小さい時から神様を第一にするとときに祝福されること、私たちが一番心に留めるべきであることを小さい時から教えていき、子ども自身でどのような選択をするようにする。子ども教育を夫婦で考えるようになる。親とのコミュニケーション、家族関係回復

* シェマ教育を実践して現状や今後の課題

鳥栖曾根崎キリスト教会では4年前から(月2回 土曜日 10:30~11:30 シェマ教室)3つの家族で始めました。初め頃は4才の子どもは1時間椅子に落ち着いて座ることがなかったが、時間が経つ事に自ら席についてみ言葉を覚えて家族で分か合うようになった。子どもたちがみ言葉(暗唱する)に親しみ、教会奉仕にも積極的に参加している。教会全体が子どもの霊的成長のために祈り、支えている。

◎ 日本イエス・キリスト教団鳥栖教会 シェマ教室の実際進行順序

1. 始まる前の質問
2. 導入質問 (5分)
3. 聖書を読む・本文の説明 (20分)
4. 質問及び討論&ホット (Hot) 討論 (20分)
5. まとめ質問&褒める、願いを言う (I-message) (5分)
6. スローガン三唱
 - ・ 暗唱発表及び授賞

* シェマ教育にさらに他教会に広がるために必要なことは？

- ① 家族の回復、次世代、子どもの霊的成長の為、必要であることをまず教職者の意識が必要。

- ②セミナーを開きたいと願う(九州教区ではセミナーを3回開いた)。
- ③九州教区では春休みを利用してシェマキャンプ(親子1泊2日)を開いている。
- ④日本語のテキスト翻訳を必要とする。

※シェマ教育は、韓国果川約守(ヤッガァチョン)教会のソル・ドンジュ牧師によって提唱されたものです。

【資料配布者】日本イエス・キリスト教団 幌向小羊教会牧師 飯田勝彦

2. 「次世代育成」に対して特に注目される教会の取り組み例

2.1 キリスト兄弟団三ツ境キリスト教会

住所：横浜市瀬谷区二ツ橋町 362-6

電話：045-362-2725、 メール：m-shigemura@nifty.com

牧師：重村正巳 教会員数：73名

【活動事例】

(1)「デナリフェスティバル」について

①始まったきっかけや経緯、具体的なニーズ：

- ・CSの活性化のため(人数が減って来たので増やすため)

②理念、目的、特徴：

- ・教会学校へ出席しているお友だちへの励ましとして
- ・地域の子どもたちへの伝道のため

③活動内容、宣伝方法：

- ・日曜日に出席した子どもたちに、デナリ券を配ってCSクリスマスにデナリ券を買い物券として文房具やお菓子、その他の景品と交換する
- ・CS出席で5デナリ、暗証聖句で5デナリ、大人の礼拝出席で5デナリ、週間ディボーションで5デナリを上げて、年末に一括して買い物をする
- ・CSクリスマス時に子どもたち全員に100デナリをプレゼントする
- ・ゲーム(みことば暗唱、組み立て、絵合わせなど)を準備してさらにデナリ券をゲットし買い物ができるようにする
- ・クリスマス時には人形劇、腹話術、パペットなどの講師を1人招き合わせてする
- ・学校前でチラシ配布をし、案内をする(200枚)

④成果：毎年50～60人の子どもが参加している(但し翌週の出席は少ない)

(2)「グレイス」について

①始まったきっかけや経緯、具体的なニーズ：CSの活性化のため

②理念、目的、特徴：

- ・日曜日のCSに出席出来ない友だちと新しい友だちをCSへつなぐため

③活動内容、宣伝方法：

- ・第4土曜日に2時から4時まで、スライム、クレイプ、桜もち、おだんご、パンケーキなどを行い、その後ショートメッセージをする
- ・前日に小学校でチラシを配布し案内をする(80枚)

⑤成果：不定数で少ない時は3名くらいで多い時は9名くらい出席し翌日曜は少ない

(3) 「ミニ運動会」について

- ① 始まったきっかけや経緯、具体的なニーズ：CS活性化のために
- ② 理念、目的、特徴：9月第1日曜日に子どもたちと教師たちが振起日を兼ねて行う
- ③ 活動内容、宣伝方法：6～7種目を準備して公園（雨天は室内）で子どもと一緒に教師が競技を楽しむ
- ④ 成果：年1度なので子どもたちも楽しく行っている

2.2 日本キリスト合同教会屋代教会

住所：長野県千曲市屋代 2091

電話：026-272-0620 E-mail アドレス：takayouji@hotmail.com

牧師：1名（石坂和久）、教会員数：17名

【活動事例】

(1) 遊び場（カードゲームやボードゲームが主）

① 始まったきっかけや経緯、具体的なニーズ

教会学校は休校状態にあった。子どもとの接点を作るため、その当時（2007年）ブームになりつつあったカードゲームの大会を毎月開催。そこから毎週土日の午後、教会を遊び場として開放。さらに一年後、日曜日の遊び場では、夕方に聖書の話をするようになり、現在は夕拝として献げている。

こういった環境の中でバイブルプレイヤーズの開発も行われた。

② 理念・目的・目標／特徴

子どもの居場所づくり

み言葉に触れる場所

③ 活動基本情報

開催日時：毎週土日午後、場所：屋代教会ホール

対象者：小学生・中高生・大学生・青年

結果的にカードゲームやボードゲーム好きの人が集まってきている。

参加人数：2～8名、会費：無料

スタッフ・奉仕者人数：1～2名、責任者名 石坂和久

④ 活動内容：

プログラム：いるメンバーで楽しそうなことをやる

宣伝方法：口コミ、カードゲーム大会に参加して、友人を増やし誘う

⑤ 今までの成果／今後の課題／展望

受洗者4名

カードゲームのブームが落ち着いてきたので、新規メンバーの入り鈍ってきている。ほかのツール（入口）の模索が必要

ここから社会人対象の金曜日の夜の集まり（通称：金夜）が生まれている。

夏には、「やりすぎキャンプ」と命名した一泊二日の教会泊キャンプを実施している。

2.3 チャーチ・オブ・ゴッド川崎キリスト教会

住所：神奈川県川崎市幸区南幸町 3-20-1

電話：044-511-0641、 E-Mail： cogkawasaki@gmail.com

牧師：古波津保秀（主任）、光子、真琴、悠、教会員数：140 名程

【活動事例】

(1)ユース・ワーシップ

①始まったきっかけや経緯、具体的なニーズ

従来の CS は乳幼児～高校生だったのだが、人数の増加に伴い、世代を分ける必要が出てきた。そこで、小学生以下と、中学生以上とに分けて礼拝として開始。小学生以下の子たちの参加は禁止とした。

そうしないと、結局下の世代に合わせてしまって、内容が幼稚化し、ユースのものではなくなってしまふ。それに合わせられるような子は良くて、自分の世代のものではないと感知したものは、無言で去っていく。

そのようなことにならないために、小学生以下の参加は禁止としている。このことの評価は正しかったと思う。

②理念・目的・目標／特徴

礼拝するユースを育てる。祈るユースを育てる。仕え伝えるユースを育てる。

2011 年から、2020 年までに 100 名のユースをと掲げている。

2019 年現在、35 名。イベントでは、前回 78 名。一発だけでも、2020 年までに届かないか。数以上に問われるのは、彼らの礼拝、祈り、伝道への意識の向上。

そのために、毎週のユース・ワーシップ、毎週の祈り会、定期的なイベントやストリートライブに取り組み、個人ではディボーションや学びを励ましている。

③活動基本情報：

開催日時：毎週日曜日 2:30-4:30、場所：当教会の礼拝堂

対象者：中高生・大学生・青年

クラス分け：中学生男子、中学生女子、高校生男子、高校生女子、
青年男子（青年、大学生の 2 枠）、青年女子（大学生、青年混合）

参加人数：平均 35 名、会費：礼拝なので献金

スタッフ・奉仕者人数：基本、キッズの頃から鍛えられている人たちが 3 分の 2 ほどいて、実働、自分たちで形作っています。チームリーダーがそれぞれに立てられているので 7 名。

責任者名 古波津真琴

④活動内容：

プログラム：賛美 6 曲、ゲームタイム 30 分、証タイム（平均 3,4 名が自主的に証している）、メッセージ 20 分、献金、祝祷、チームタイム（分かち合いをして解散）

イベント：新年度、秋、クリスマスに伝道イベント、よみうりのジョイフェスに参加、月に 1,2 回のストリートライブ、春と夏にキャンプ、他 フォローアッププログラムなど

宣伝方法：「友だちが友だちを誘う（ロコミ）」、学校前のチラシ配り、ウェブサイト（kccuth.weebly.com）、SNS（インスタ、ライン@、ツイッター）など

⑤今までの成果／今後の課題／展望

始めたばかりの 10 年前は 7、8 名（チームリーダー含む）で、前で賛美リードをする人の方が多いこともあった。入りたがる小学生を入れてやりたい気持ちも

あったが、「ユースのため」を貫き通して良かったと思う。

今後の課題としては、青年層の結婚。

展望としては、2020年に100名に届かなくても、目指し続ける。

結果として、数以上に求められてくるのが、一人一人の献身となる。

それぞれの分野で、キリストにある献身者として育てたい。

(2)乳幼児礼拝（らぶり・Joyくる）

①始まったきっかけや経緯、具体的なニーズ

ユース・ワークショップが始まり、小学生以下の礼拝という形で、最初は乳幼児も含まれていた。しかし、人数の増加に伴い、世代を分ける必要が出てきた。

そこで、小学生と、乳幼児とに分けて礼拝として開始。

乳幼児といっても、0～6歳。大きな動きの差がある。それだけでも大変なのに、そこに小学生が入っているのは身体的接触から怪我を起こしかねない。そのような配慮から始まった。結果も良かった。

小学生は、乳幼児を気にすることなく楽しむことができる。

乳幼児は、安心して過ごすことができ、しかも自分の礼拝として意識し始めた。賛美を進んでし、暗唱聖句をこなすようになり、証しもするようになった。

②理念・目的・目標／特徴

礼拝する乳幼児を育てる。祈る乳幼児を育てる。お手伝いをする乳幼児を育てる。何よりも愛されていることを徹底的に教える。

目標としては、純粋人数で20名の乳幼児をレギュラー化したい。現在15名ほど。そのために、毎週のらぶり・Joyくる、毎週の祈り会、定期的なイベントや公園伝道に取り組み、個人ではスタッフによる手紙、訪問を心がけている。

③活動基本情報：

開催日時：毎週日曜日 8:55-10:15、場所：当教会の礼拝堂後方

対象者：未就学児

クラス分け：3歳以下クラス、4歳以上男の子クラス、4歳以上の女の子クラス

参加人数：平均25名（スタッフ含む）、会費：礼拝なので献金。

スタッフ・奉仕者人数：10名、責任者名 古波津真琴

④活動内容：

プログラム：賛美、ゲームタイム、献金、メッセージ、グループタイム

イベント：年3回の小学生合同イベント、夏に一日イベント、秋のジョイフェスに参加、親子ピクニック年2回ほど、等

宣伝方法：親御さんの口コミ、ライングループ（親御さん連絡用）、ウェブサイト（joykuru.weebly.com）、SNS（インスタ、ライン@、ツイッター）、乳児と親子の会（マミー&ミー）が月2回火曜日にあり、そこにくる地域の人が、らぶりに繋がるケース出てきている。

⑤今までの成果／今後の課題／展望

小学生は、別の場所で乳幼児を気にすることなく楽しむことができる。

乳幼児は、安心して過ごすことができ、しかも自分の礼拝として意識し始めた。賛美を進んでし、暗唱聖句をこなすようになり、証しもするようになった。

今後の課題としては、乳幼児は、小学生に送る一方なので、新乳幼児の獲得。地域からの新規開拓がとても重要。

展望としては、小学生の礼拝の場所。ユースの礼拝の場所。共同の礼拝の場所を見せ続けることによって、礼拝者として育てていくこと。

(3)小学生礼拝（スペシャル・J o yくる）

①始まったきっかけや経緯、具体的なニーズ

従来からあったCSの形が、ユース・ワーシップへの展開、らぶり礼拝への展開を経て、小学生のためだけの礼拝となった。

これにより小学生は、幼児に遠慮することなく楽しみ、スタッフも目の前にいる小学生に集中できるようになった。

②理念・目的・目標／特徴

礼拝する小学生を育てる。祈る小学生を育てる。仕え伝える小学生を育てる。

何よりも愛されていることを徹底的に教える。

目標としては、25名の小学生をレギュラー化したい。現在20名ほど。

そのために、毎週のスペシャル・J o yくる、毎週の祈り会、定期的なイベントや公園伝道に取り組み、個人ではスタッフによる手紙、ディボーション交換を心がけている。

③活動基本情報：

開催日時：毎週日曜日 8:55-10:15、 場所：当教会のワーシップホール

対象者：小学生

クラス分け：1,2年クラスの男子と女子、3,4年クラスの男子と女子、

5,6年クラスの男子と女子の計6クラス

参加人数：平均30名（スタッフ含む）、会費：礼拝なので献金。

スタッフ・奉仕者人数：12名、責任者名：古波津真琴

④活動内容：

プログラム：賛美4曲、ゲームタイム、証し、献金、メッセージ、グループタイム

イベント：年3回のイベント、夏にぶっとびキャンプ参加と、J o yくるキャンプ、秋のジョイフェスに参加、男子会・女子会、など

宣伝方法：小学校前のチラシ配り、ウェブサイト(joykuru.weebly.com)、SNS(インスタ、ライン@、ツイッター)、毎週土曜の公園伝道、など。

⑤今までの成果／今後の課題／展望

10数年前、乳幼児から高校生まで片手で数えられるくらいだったのが、主の憐みによって、3つの礼拝、16のクラスに分けられるまでにされていること。

小6をいかにして、中学生になっても来続けるようにさせるかということは、常なる戦いです。教育が重要だと思います。

展望としては、この中から洗礼者、主に仕える献身者が興され続けること。

2.4 シオン・キリスト教団蒲田教会

住所：東京都大田区西蒲田 7-27-3

電話：03-3731-5939、 E-Mail：zion@am.wakwak.com

牧師名：主任牧師 石田敏則／担任牧師 荻野泰弘

教会員数：192名

【活動事例】

(1)ウイレレ

①始まったきっかけや経緯、具体的なニーズ

a. 始まったきっかけや経緯

- ・自然発生的に生まれて現在に至っているが、背景にはゲームが現代の子どもたちのコミュニケーションツールとなっていることが挙げられると思う。
- ・10数年前、ある子どもが教会に Nintendo64 を持ってきて「スマブラ」を始めた。
- ・会堂内の牧師館に荻野牧師家族が住んでいる。息子が小学校に入学後、友だちが遊びに来るようになった（教会の一室を開放しテレビゲームで遊ぶ）。友だちが日曜日にも出入りするようになった。
- ・ユース世代では、クリスチャンホームの子弟が学校での人間関係に悩むなど社会での生きづらさを感じていた。教会の友人たちとゲームをすることが励ましとなり、日曜日の夜遅くまで教会に残るようになった。当初は遅くまで家に帰らないことを心配する教会員の声もあったが、親は「教会で時間を過ごすなら何時までいても構わない」と認めていた。
- ・日曜日の午後は夕方までは小学生、夕方以降はユースが遊ぶようになり、ユースがウイイレを始めた。

b. ニーズ

- ・蒲田の小学生事情：蒲田は広い公園が少ない。家庭は共働きで友だちを呼べない。安全な居場所を求めている。
- ・蒲田のユース事情：友だちと過ごす場所を求めている。蒲田はゲーセンなどが多く安全な居場所が必要。信仰を持ったユースが心を許せる仲間と遊び励ましを得る場所と時間が必要。

c. ゲームの役割

- ・子どもたちをつなぐ助け
- ・小学生、ユース、スタッフという年齢を超えた関わりが生まれる距離感が縮まる。
- ・ユースの福利厚生：ウイイレのプレイメンバーは役員、教会学校教師、青年会会長などで日曜日は多忙。信仰によって奉仕に励んでいるが、重荷になりすぎないように楽しい時間も必要。

② 理念・目的・目標／特長

- ・子どもや若者たちに安心して過ごせる場所と時間を提供する。
教会の外の子どもたちには教会が楽しくて安心できる場所であることを示し、関係作りをする。教会のメンバーには気張らずに楽しめる場所を提供する。

③ 活動基本情報：

開催日時：小学生－おもに日曜日の午後（夕方5時終了）、ユース（ウイイレ）－日曜日の夜、ほかに土曜日・平日など、 場所：会堂4階和室
 対象者：小学生－教会員の子弟、近隣の子どもたち
 ユース（ウイイレメンバー）－社会人4名、高校生1名、中学生1名、小学生1名、牧師1名
 責任者名：小学生－荻野久仁子／ユース（ウイイレ）－荻野泰弘

④ 活動内容

小学生：日曜日午後に遊び場所として開放。友だち同士で自由にゲームなどをしている（午後5時終了）
 ユース（ウイイレ）：メンバーでのオフライン対戦。勝率を競う。ドラフトを行い、マイチームを構成。

⑤ 今までの成果／今後の課題／展望

- a. 今までの成果としては、遊びに来ている地域の子どもたちが教会につながる（礼拝出席、クリスマス集会などへの来会、バイブルキャンプへの参加など）。親の来会もある。小学生の保護者（未信者）から、「子どもが日曜日に教会で過ごすので、

夫婦でゆっくり過ごせました」と言われて、子育て世代への支援になっていることを実感した。ウイイレメンバーとの交わりが、引きこもりがちだった若者の回復の一助となった。

- b. 今後の課題としては、小学生と関わり続けること。ウイイレについては、ユースに勝率を献上しまくっている牧師が腕を磨き、若者たちの成長のために立ちほだかること。
- c. 今後の展望としては、小学生に対しては、午後の時間に新しいプログラム「わくわくサンデー」を実施する。体験型のプログラムを提供することで子どもたちの成長を助ける。

ウイイレについては、一般のeスポーツ大会への出場やウイイレなどゲームを通じて地域教会との交流ができたらいねと話している。

3. 提言

3.1 保守バプテスト同盟「次世代育成アンケート結果 2017」からの提言

保守バプテスト同盟議長

塩釜聖書バプテスト教会 大友 幸証

保守バプテスト同盟は、東北を中心に約 70 教会から成る団体です。保守バプテスト同盟では、2016 年末から 2017 年にかけて「次世代育成の取り組みに関するアンケート」を所属教会に対して実施しました。これは、「みらい大会」という次世代育成キャンプの開催に先立って実施したアンケートです。結果的に 46 の教会がアンケートに答えてくださり、同盟の教育委員会がその結果に対し、分析と提言を加えて一冊の小冊子としてまとめました。

ここでは、アンケートの結果を全て網羅することはできないので、教育委員の一人であった私が担当し執筆した「提言」の部分から分かち合わせていただきます。また具体的な事例としては、私が牧師をしている塩釜聖書バプテスト教会のケースを引用させていただきます。



なお、アンケート結果のファイルに関しては、隣の QR コードのリンク先からダウンロードが可能なので、ぜひご参照していただければと思います。

1. 地域の必要を知り、応える

アンケートを通して分かったことは、日曜日以外の教会のプログラムに多くの子ども達がいるという現実である。内訳としては、平日の日曜学校に加えて語学教室、スポーツ、ゴスペル、学習教室などが挙げられる。これらはいわゆる「習い事」という分類に入る。少子化に伴い各家庭での教育費の割合が高くなっている社会の中で、親は質が高い安全な習い事へと子供達を送りたいと願っている。その必要に教会が応えるならば、子ども達はおのずと教会に送られてくる。これらは直接的な伝道の働きではないにしても、地域での良い証しになり、子ども達が教会の集会に集うきっかけになる。習い事なので親も関わってくる。クリスチャンが外部の親子と毎週顔を合わせ、子ども達に対する真摯な態度や情熱、愛を示すことで、保護者の信頼を勝ち取ることができる。子ども食堂もひとつの大きな地域貢献になり得る。主イエスも人々の具体的な必要に応え、良い評判を受けながら宣教活動を続けられた。

教会として、まずは地域に出て行き地域の必要を知ることから始めていこう。

2. 関係性を途切れさせない

3 割以上の教会が、中高生が教会に来なくなる原因として部活動をあげている。一方、4 割以上の教会で、週日の中高生対象のプログラムが行われていないということも明らかになった。つまり、日曜日に部活動に行く子ども達の多くが、他の日に何の

フォローアップも教会から受けられず、教会に行く習慣が損なわれている現状がある。

特に中高生は関係性を重視するので、教会員との関係性が途切れると、他の関係性の強いところに流れてしまう傾向がある。どんなに小学生の時に仲が良くても、中学校の部活で1年間も顔を合わせないとなると、その子に対する教会の影響力は随分と失われてしまう。もし、彼らを教会内に留めたいのであれば、彼らとの関係性を途切れないように教会が工夫する必要がある。教会の誰かと繋がり続けることで、勉強や部活で一区切りがついた時に、彼らは教会に自然に戻って来ることができるようになるだろう。

中高生の都合や現状に合わせて、日曜学校以外で彼らが集まれる場所を教会が設けることで、彼らと教会との関わりが継続化する。スポーツや夕食会など気軽に集まれる定期的なイベントが効果的と思われる。また、同世代のクリスチャンとの関わりも彼らにとっては非常に重要である。同世代が参加するキャンプや集会に、中高生を祈りつつ誘い、必要であれば経済的支援をして、同世代のクリスチャンとの交わりを促進し、彼らの信仰のメンテナンスをすることも有益かと思われる。若い世代へのスマートフォンの普及によって SNS によるグループチャットも、こまめな連絡手段としては有効であるが、スマートフォンを持っていない子供達への配慮も必要だろう。

若い世代との関係性を大切にしていこう。

3. クリスチャンホームを祈り求め、建て上げていく

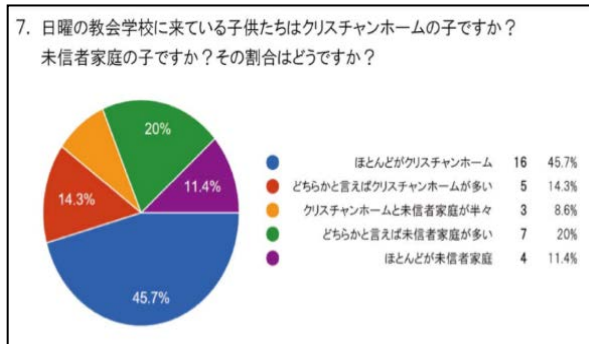
教会の日曜学校参加者の内訳を見ると、半数の教会で参加者の「ほとんどがクリスチャンホームの子」であることが分かる。端的に言えば、クリスチャンホームが増えれば、次世代の子ども達が増加することであり、教会はクリスチャンホームが増えるように祈り求めていく必要があると言える。

しかし、時代性もあり若者が結婚を躊躇する傾向がある。クリスチャンの結婚観について、若者に対して教会が定期的に語り続けることは重要である。結婚後の子育て、経済、夫婦の関わりなどに関して、聖書の価値観をはっきりと教え、若者の内側にある不安を取り除いてあげることで、彼らは結婚に対して前向きな思いを持つことができるようになる。

また、教会内の既婚者達が良い模範を若者たちに示す必要がある。自らの結婚生活を教会員一人一人が吟味し、課題があれば乗り越えていく姿勢を示すことが、教会内の次世代育成事業の重要な一部分であることを認識すべきである。

また、キリストの弟子作りは家庭から始まるということを考える時、教会がどのようにして若いクリスチャンホームと関わるのかが次世代育成の鍵となる。家庭内で、子ども達が親の信仰をしっかりと受け継げるように、教会全体として関心を持ち、祈り、励まし、支えなければ、次世代育成事業は、その親達に丸投げにされてしまう。クリスチャンホームの子ども達を主にあって建て上げていくためには、そのクリスチャンホーム自体を建て上げることを教会全体として考えなければならない。そのためには、CS 教師と若い世代の親たちとの密な交流によって子育てを共にしていくことを心がけたい。

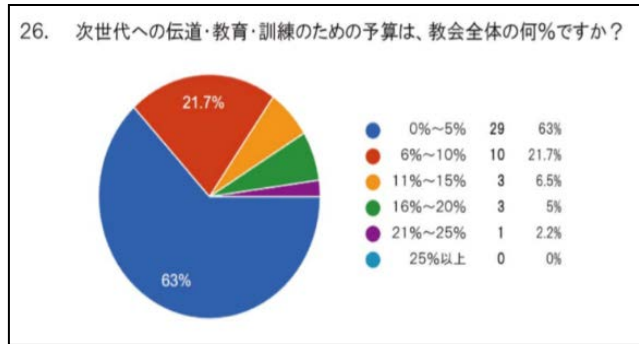
教会内の若いクリスチャンホームのために関心を持ち、祈り、何ができるのかを考え始めよう。



4. 次世代のための予算枠を上げる

何かの事業に予算をつけるということは、その事業に真剣に取り組むという姿勢を外部にも内部にも、そして主の前にも示すことである。

この度、同盟が次世代育成のための基金を立ち上げたのも、そのような意味合いがある。多くの教会がギリギリの予算の中で主の働きをしておられることは承知している。しかし、同時に次世代への投資を積極的に行わなければ、教会全体の予算が将来的に増えることはありえない。主イエスもタラントの例えを通して、教会が未来に対して投資することの重要性を語っておられる。



投資は無駄と思えるような使い方がされる場合がある。そのような点で「投資」は、堅実な歩みを大切にしている教会にとっては似つかわしくないと思われるかもしれない。しかしながら、私たちは主に対して投資をするのであり、主ご自身がその投資に応じてくださるという信仰を持つことができる。そういう意味では、世の中の不確かな投資とは全く別ものであり、裏切られる結果になることはない。今回のアンケートで、次世代育成のため

の予算が、教会の年間予算の10%以下であると答えた教会が8割以上にのぼった。ゆえに具体的な投資目標として、最低10パーセント以上の予算が全ての教会で次世代のためにつけられるようになれば、諸教会の次世代育成の環境がかなり変わってくるのではないかと考えられる。どうしても予算に計上できない場合でも、子ども達への献金を募る方法はいくらでもある。例えば、ある教会では夏のキャンプシーズン前に有志がケーキやクッキーを作り教会に献品をする。そしてそれを他の教会員が「献金」という形で購入し、子ども達や付き添いスタッフのキャンプ参加費補助としている。

なんとか資源を生み出し、次世代のためにどんどん投資をしていこう。

5. ネットワークを活用する

次世代育成に対し、様々な提言がなされたとしても、子ども達や働き人が少ない中で次世代育成事業に取り組むのは、一つの教会だけでは非常に難しいという現実もある。その現実を打破するためには、ネットワークを活用するという方法がある。

例えば、クリスチャンキャンプ場で行われる若者対象のキャンプもそのネットワークの一つである。それらのキャンプ場に送り出すことが日程的、経済的に難しければ、地域の2、3の教会が集まってネットワークを生み出し、教会堂などを使用して自前の小さなキャンプを開催することも出来る。3.11復興支援の経験から、志を一つにするのであれば、教団が違って教会同士は協力関係を結ぶことができるということが分かった。地域ごとのネットワークの中で、共に次世代育成事業の重荷を負っていくという考え方を持つと、それぞれの教会の負担が軽くなるのではないかと思う。ちなみに自前のキャンプは自宅から近いということもあり、柔軟性が高く、子供の部活動や学習の状況に合わせやすいという利点がある。

地域のネットワークを活用していこう。

<教会内で次世代育成を考えるためのいくつかの質問>

1. 地域の必要に応えるために、教会ができることは何か？
2. 日曜日以外に、教会と中高生が関係を途切れさせないために工夫できることは何か？
3. 若いクリスチャンホーム建て上げのために、教会が取り組めることは何か？
4. 次世代育成のために、教会において予算枠や献金を拡大するために工夫できることは何か？
5. 次世代育成のために近隣の教会とネットワークを組む場合、必要となることは何か？

<まとめ>

次世代育成は待った無しの事業である。子供はまたたく間に大人になるからである。祈りつつ、今から始められる小さな一歩を模索し実行していこう。

※この原稿は、2018年9月8日(土)に行われた「4/14 ナショナルカンファレンス」の講演原稿に加筆修正したものである。